

## ●file-6 「設計」と「育児」の両立を

持ち前のパワーで奮闘中

## ●file-6 植谷英子 (H14卒)



人工地盤植樹工法「アクアソイル工法」

“この仕事楽しいでしょ”という熱が伝わってきました。私の狭い視界をこじ開けて頂く貴重な機会でした。今年の「100人展」ではもっとたくさんの卒業生にお会いしたい、と楽しみにしております。

(イケガミ)



人工地盤植樹工法「アクアソイル工法」

りないため水やりや、植物の様子を観るという行為がなかなか習慣になりません。都市に植物を植えると、必ず「育てる」という行為が生まれます。住環境に植物が必要とされている場所はたくさんありますが、ただ植えるだけでなく「育てる」行為に費やすエネルギー(人や資源)のことも考慮しながら、建築物と植物が創るさまざまな風景の中に喜びを見つけていきたいと思っております。昨年11月に開催された第4回「建築100人展2009」に、一昨年に引き続き出展させて頂きました。3日間という短い期間でしたが、さまざまな大先輩方にお会いすることができ、気軽にお声を掛けていただきました。どの展示内容からも、

●file-4 「トリマー」の職能確立を使命として活動  
「建築家」と「トリマー」を両立

●file-5 植物のつかめない存在に魅力を感じて  
早速さやか (H18卒)

●file-6 「設計」と「育児」の両立を  
持ち前のパワーで奮闘中

(山岡嘉彌デザイン事務所)



所内打ち合わせ



●file-4 「トリマー」の職能確立を使命として活動  
「建築家」と「トリマー」を両立

●file-5 植物のつかめない存在に魅力を感じて  
早速さやか (H18卒)



自身のトリミングサロン



NIMURA Youko  
トリマー-建築家/A級トリマー(青山ケンネルスクール卒)/1級愛玩動物飼養管理士/1級建築士/東京都生まれ/久米設計、デザインショップアーキテックス(現在顧問建築家)を経て、2008年HONDEHOK設立(トリミングサロン、一級建築士事務所)。



自邸



自身のトリミングサロン

## ●file-5 植物のつかめない存在に魅力を感じて

●file-2 いかにも人生をより楽しく過ごせるかを考えながら毎日過ごす

●file-4 「トリマー」の職能確立を使命として活動  
「建築家」と「トリマー」を両立

●file-5 植物のつかめない存在に魅力を感じて  
早速さやか (H18卒)

●file-6 「設計」と「育児」の両立を  
持ち前のパワーで奮闘中

(HONDEHOK)



自邸



自身のトリミングサロン

某企業寮 (2009)



某企業寮 (2009)

●file-2 いかにも人生をより楽しく過ごせるかを考えながら毎日過ごす

## ●file-2 竹下加奈子 (H17卒)



TAKESHITA Kanako  
1981年長崎県島原市生まれ/2005年武蔵工業大学工学部建築学科卒業/2007年同大学大学院修士課程修了/2007年4月～現在、株式会社日建ハウジングシステム設計部で集合住宅の設計に励んでいる。

●file-4 「トリマー」の職能確立を使命として活動  
「建築家」と「トリマー」を両立

●file-5 植物のつかめない存在に魅力を感じて  
早速さやか (H18卒)

●file-6 「設計」と「育児」の両立を  
持ち前のパワーで奮闘中

## ●file-3 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

●file-4 「トリマー」の職能確立を使命として活動  
「建築家」と「トリマー」を両立



上海視察旅行(市内「豫園」にて)

●file-5 植物のつかめない存在に魅力を感じて  
早速さやか (H18卒)

(日建ハウジングシステム)

●file-6 「設計」と「育児」の両立を  
持ち前のパワーで奮闘中

●file-7 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(日建ハウジングシステム)

●file-8 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

●file-9 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(日建ハウジングシステム)

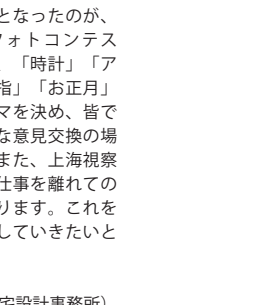


渋谷2丁目21地区開発計画 (2012竣工予定)

●file-1 大勢の力が集って、ひとつの建物が造られてゆくことを実感

●file-2 いかにも人生をより楽しく過ごせるかを考えながら毎日過ごす

●file-3 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映



(入江三宅設計事務所)

●file-4 「トリマー」の職能確立を使命として活動  
「建築家」と「トリマー」を両立

(入江三宅設計事務所)

●file-5 植物のつかめない存在に魅力を感じて  
早速さやか (H18卒)

(入江三宅設計事務所)

●file-6 「設計」と「育児」の両立を  
持ち前のパワーで奮闘中

(入江三宅設計事務所)

●file-7 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-8 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-9 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-10 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-11 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-12 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-13 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-14 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-15 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-16 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-17 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-18 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-19 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-20 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-21 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-22 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-23 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-24 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-25 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-26 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-27 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-28 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-29 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-30 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-31 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-32 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-33 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-34 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-35 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-36 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-37 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-38 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-39 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-40 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-41 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-42 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-43 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-44 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-45 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-46 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-47 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-48 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-49 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-50 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-51 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-52 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-53 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-54 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-55 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-56 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-57 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-58 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-59 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-60 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-61 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-62 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-63 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-64 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-65 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-66 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-67 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-68 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-69 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-70 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-71 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-72 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-73 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-74 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-75 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-76 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-77 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-78 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-79 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-80 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-81 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-82 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-83 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-84 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-85 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-86 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-87 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-88 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-89 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-90 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-91 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-92 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-93 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-94 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-95 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-96 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-97 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-98 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-99 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映

(入江三宅設計事務所)

●file-100 仕事外での仲間との交流も仕事の活力に反映





とても温かくて素敵と大好評です。ひとりではじめたサロンも、今ではスタッフが増え、仲間が出来ました。ひとりでは出来ないことも多く、一緒に道を歩ける仲間の存在はすごく大事なんだなぁと実感しています。これからも、リピーターさんに愛される地域密着の小さな温かいお店を発展させていきたいですね。将来的には、個人で経営しているセラピストやアーティスト達の集合体を作り、地域密着のサービススペースを経営したいと考えています。頑張るぞっ!



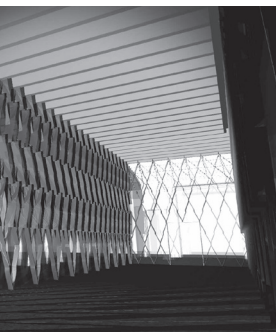
ネイルのディスプレイ

## file-18

海外で学生生活を送れたこと、積めたことが人生の大きな財産に  
仕事を経験を

# 大村成美 (H14卒)

昨年出産し現在は育児休暇中ですが設計本部の女性で子持ち建築家はいないということなので、会社側としてもチャレンジだということをよく言われます。育児休暇前までは学研ビル、清水建設新本社、新本社アネックス、大崎再開発など会社の中でも大きなプロジェクトに携わりました。あまりにも規模が大きすぎてそのスケール感を身につけるまでに苦労しましたが、その中で自分がやらなければいけないことに変わりがなことを学びました。今でもとても印象に残っていることなのですが、私が学生時代、手塚先生はいつでもとても楽しそうに建築の話なを話していました。パリ建築学校を卒業し3か所の建築事務所を経験しましたが外国人である私が生き残っていく方法は手塚先生から学生時代に教わった模型で空間を表現することでした。私にとって当たり前のことがフランスでは新鮮だったようで、毎回のプロジェクトでスタディ模型を100個前後作る私は気が付いたらプロジェクトマネージャーに抜擢されていました。経済観念より提案やデザイン重視で作品を評価してもらえ環境はとても恵れたものだったと思います。多くのコンペに携わり、その中でコンサートホールに勝ち、その後は歴史的建造物である郊外の城の改装、個人住宅など学生時にデザインをしていた感覚そのままでも現実にも表現をしていました。結婚を機に日本に帰ってきてからはデザインよりも経済的観念や建築家よりも施主の要望が絶対だったりフランスではなかった建築の一面に直面しました。それでも私が経験したことや表現したものについて高い評価をしてくれた当時の部長の一声で清水建設の設計本部に入ることになり、部で唯一の女性社員という立場に置かれています。



清水建設・新本社エントランス スタディ

- file-17 ネイル&アロマの店を開業。建築出身を活かし、将来的には地域密着のサービススペースを経営したい

# 佐藤恭子 (H12卒)

SATO Kyoko  
2000年武蔵工業大学工学部建築学科(乾研究室所属)卒業。同年、住友林業(株)住宅事業本部 技術職として入社/2010年9月末で退社し、ネイルサロン「Aromau?」経営 現在に至る。

まさか私がネイルサロンを経営することになるなんて…。学生時代には思いもしなかった人生の道を歩んでおります。卒業後10年勤めた住友林業(株)を退社し、文京区にネイル&アロマの店『Aromau?』(www.aromaru.com)を開業しました。気がつくとうOPEN2周年を迎えており、ご愛顧いただいた皆様、応援して下さる皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。住友林業に入社し、CAD担当を経験した後、業務改善によるコストダウンを担当するプロジェクトチームに任命されました。当時、設計担当を希望していたので、家作りに直接関わる仕事ではなかった異動を、初めの頃はとても不満に思っていました。社内外のネットワーク環境を生かした仕組みの企画開発から運用までを担当し、建築業界で前例のない仕組みを作る仕事

OMURA Narumi  
2002年武蔵工業大学工学部建築学科卒業/2004年Ecole Spéciale d'architecture編入/2006年同大学院卒業/2007年JACOB+MACFARLANE勤務/2008年MOUSSA FIR ARCHITECTES勤務/2009年清水建設設計本部 現在に至る

フランスから帰国して早4年。逆カルチャーショックを受けながらも希望をも



ちながら建築に携わっているという現状でしようか。武蔵工業大学大学院を中途退学し、恩師である手塚先生や岩崎先生に嬉しいことに引きとめられながらも本当にも悔しいことばかりで、光と風の豊かを感じられるように設計しました。寒さの厳しい地域ならではのディテールを大切にしています。地方にはその土地ならではの風土文化があります。働く場所として東京とは違った楽しみもあります。私は最近、登山をはじめました。人が容易に行けない場所にごそ自然が持っている美の本質があるように思っています。(宮本忠長建築設計事務所)



KAWAMUKAI Ryoko  
2002年武蔵工業大学工学部建築学科卒業/2004年同大学院修士課程修了/伊東豊雄建築設計事務所での研修を経て2006年(株)宮本忠長建築設計事務所入社 現在に至る



小布施 栗の小径

## 女流ファイル-Part3

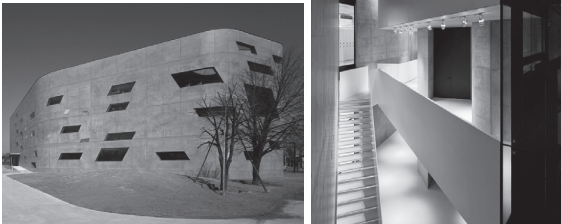
新企画・第3弾。社会の多方面で活躍している多くの女性の卒業生を順次で紹介しています。

# 川向涼子 (H14卒)

●file-16 地方にはその土地ならではの風土文化の存在働く場所として東京とは違った楽しみ方がある

大学院(手塚研究室)を卒業し、就職を考えているとき、長野県の小布施という小さなまちを訪れ、衝撃を受けました。そこは、古いだけでなく新しいでもない新旧が混在したひとつの世界が存在していました。時間の重なりが視覚化され、かつ、時間の流れだけがつくりだすことができる自然態がまち全体の雰囲気をつくりだしていました。この小布施の修景計画の中心にいたのが、宮本忠長という建築家であることを知った私は、長野市の宮本忠長建築設計事務所へ働くことを希望しました。深々と雪の降る日に事務所を訪れてから、5年が経ちます。小布施まちづくりの仕事は現在も進行中で、「内」からつづけてゆく“身の回りのものすべてを修景の素材として整えてゆく”という手法や、「日常生活に根ざしているからこそ町民主体のまちづくりが活性化し続けている」ということを実感し、それを実践するためにどれほどの努力が行われているかを仕事を通じて学ぶことができました。宮本忠長所長ともコンペ等を通じ、建築やまちづくりについて話し合う機会を得ることができ、数々の言葉の中から大切なことを教えてもらいました。また、事務所の畑を手入れするのが私と所長の日課でもあり、季節ごとの野菜の世話を通じ、「こういうことを、きちんとね。」と言われました。先日、プロポーザルから設計、現場監理を一環して担当していた中学校と、初めて一人で担当した幼稚園が同時に完成を迎えました。中学校は町立で、軽井沢に程近い、浅間山が目の前に迫る敷地です。多くの人々の思いをまとめること、現場監理の厳しさを通じ、自分の経験不足を痛感する日々でした。出来上がった校舎の中を歩きながら、自分の思考を超えたところにある建築の存在そのものの力を感じました。幼稚園は同じ町内にある私立で、シンプルでありながらも、光と風と空間の豊かさを感じられるように設計しました。寒さの厳しい地域ならではのディテールを大切にしています。地方にはその土地ならではの風土文化があります。働く場所として東京とは違った楽しみもあります。私は最近、登山をはじめました。人が容易に行けない場所にごそ自然が持っている美の本質があるように思っています。(宮本忠長建築設計事務所)

クレバス



長岡造形大学第3アトリエ棟外観 (撮影: 木田勝久)

- file-14 自らの技術と知識を更新し、感性を磨き続けて、世界に誇れる質の高いものを目指していきたい

# 佐藤真紀 (H11卒)



SATO Maki  
1976年神奈川県生まれ/1999年武蔵工業大学工学部建築学科卒業(手塚研究室)/1999年一現在 株式会社日本設計建築設計群所属。今年、晴れて12年目を迎える。

2011年2月18日から3日間、三枝成彰氏率いる150人余りの講師が新潟県長岡市を訪れ'エンジン01文化戦略会議'が開催され2日目のプログラムは長岡造形大学を使って行われました。会期中長岡のこの時期には珍しく晴天で、キャンパス全体に降り積もった雪に太陽の光がキラキラと反射し絶好の晴れ舞台となりました。私が受講した'夢・演劇・映画論'では千住明氏・三枝健起氏が講師としてお話し下り、夢を実現するまでの葛藤、映画監督が考えるシーンの紡ぎ方や、音楽や美術など異なる技術を持ったプロの集団を一つの方向に導いていく方法といった話を目の前で聞く事が出来ました。映画監督と建築家は、日々向き合っている事が本当に似ているなど感じました。また、3日目には市立劇場で音楽祭が開かれました。街中の人が集まり現実を離れ、熱狂的な空気を共有する「時間と空間」を創りあげるといふ建築の一つの大事な意味を目の当たりにする事が出来ました。長岡造形大学は1994年に公設民営により開学された大学で、2010年春に竣工した第3アトリエ棟(篠崎淳+東正典+佐藤真紀)は1994年の学

(日本設計)

- file-15 多分野の才能とのコラボで刺激を受け、決まり過ぎない多様な空気感を創出

# 工藤貴子 (H11卒)



みゆきの家



KUDO Takako  
1999年武蔵工業大学工学部建築学科卒業/2001年武蔵工業大学大学院工学研究科修士課程建築学専攻(手塚貴晴研究室) 終了/2001-2008年株式会社社村井敬合同設計/2008-合同会社建築設計白川富川/合同会社富川浩史建築設計事務所 現在に至る。



同期の仲間達と

「あ

なたにとっての原風景は?」学生時代、答えを真剣に考えました。脳裏に浮かんだのは、青と黄のツートンカラーの長い廊下、グラデーションの壁に注ぐ天窓からの光、屋上へと続く大階段…幼少期に通った慶松幼稚園(注1)の空間でした。わくわくした記憶が蘇り、おもわず南洋堂(注2)まで「建築」(注3)のバックナンバーを買いにいったものです。1年半程前、他校の設計課題でこの幼稚園の建替を取り上げました。園内を見学する機会をいただき学生と共に訪れた建物は、年月こそ重ねているものの、手を入れながら大切に使われておりました。園長先生が私のことを憶えてくれたこともあり、30数年を経て感動的な原風景との再会となりました。結婚を機に多摩川沿いに移り住み、早17年。今は事務所も住まいも川に面した場所にありまます。休日の夕方、ポケットにそっと麦酒を忍ばせて河原に行きます。日が沈み夜の帳が降りるまで、刻々と変化する空と水面の色彩に心奪われながら麦酒を呑む…これがなんともいえず幸福な気持ちになるのです。川の流れに身をまかせて、しばらくぼーっとしていると疲れた体と頭が自然に浄化されていきます。(注4)

独立夫婦パートナーで事務所は始めて15年が過ぎました。様々な出会いに恵まれて、各地に小さな住宅が少しずつ完成し

(富川浩史建築設計事務所)



「光土間」の家 (撮影: 上田宏)

# file-13 柏木穂波 (H2卒)



KASHIWAGI Honami  
1967年東京生まれ/1990年武蔵工業大学工学部建築学科卒業/早川邦彦建築研究室、インターデザインアソシエイツを経て1996年種(スイ)設計室開設/1999年柏木ウキ・スイ・アソシエイツを共同設立/現在 阿佐ヶ谷美術専門学校、東京家政学院大学 非常勤講師

管理建築士として富川の事務所に合流して、3年目になります。主に住宅の設計を手がけています。昨年の秋に、最初のプレゼンから竣工まで手がけた住宅が竣工しました。小屋組みをあらわしにした大きな家と低い天井で空間に包まれるような小さな家、大小二つのL字に曲がった家が握手をする瞬間のように寄り添う、そんなお家です。また、その住宅では構造・照明・グラフィック・写真といった方々にも参加していただきました。いろいろな方に加わっていただく、思いもよらなかった提案がされてとても刺激になります。今回は引戸の障子のグラフィックとその柄を使用した照明などを製作しました。最初に引戸の障子が

(富川浩史建築設計事務所)



## 女流ファイル- Part4

新企画・第4弾。社会の多方面で活躍している多くの女性の卒業生を順次ご紹介しています。

卒論と修論の研究テーマであったC.R.マッキントッシュの街で勉強したいとの思いが募り、大学院修了後にグラスゴー美術学校の修士課程へ進みました。留学中はスコットランドの土地柄がとてもし性に合って、そこで仕事をして生活するのよいか、と考えていたのですが、帰国後に大学院でお世話になった岩崎先生のもとで武蔵工大の図書館・新建築学科棟の建設プロジェクトに携わせて頂くという機会に恵まれ、迷わず参加し、設計に打ち込む日々が始まりました。

原寸でものを考え、図面を描きながら、学生と模型で検討を行い、すぐ側の建設現場に通って確認する、そんな作業を繰り返しながら進んで行きました。岩崎先生は、学生から現場の職人まで気軽に会話をしながら皆のモチベーションを高め、最終的にはひとつの建築を作りあげるメンバーとして巻き込んでいく、といった雰囲気や常に作っていらしたように思います。

大学内の研究室での設計活動の為、時には授業の手伝いや卒業設計の相談を受けることもあり、教職員や学生さんとの関わりが強く大学生活に密着した日常でしたが、このような環境のお陰で多様な考えを空間に反映できたと思います。また、グラスゴーの街に開かれた大学環境での体験を活かしたアイデアをもち、プロジェクトにアプローチできたことは大変やりがいがありました。マスタープランから原寸のディテールに至るまで、大小のスケール感覚を身につけることが出来たことは今日の自分の礎となっています。

初めての建築が母校のキャンパス計画で、そのプロジェクトを成し遂げた一員であったことは改めて幸運であったと感じています。現在は事務所の拠点が青山に移り、住宅や医療施設などに携わっています。進行中の医療施設は、高齢者医療を専門とする国内でも先駆的な病院がオーナーであることもあり、お施主様との打合せはいつも刺激的です。「ホテルのような医療施設づくり」といったような大きな命題を頂いたりします。通常の医療施設の設計をする感覚以上のアイデアを持って臨

## ●file-19 小塩明子 (H11卒)

クライアントと一緒に建物をつくりあげていく姿勢を持ち続けたい



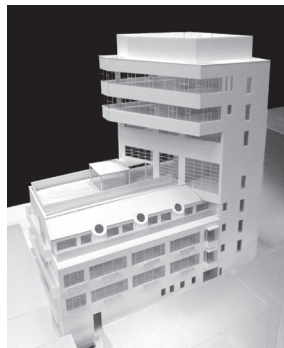
**KOSHIO Meiko**  
1999年武蔵工業大学工学部建築学科卒業/2001年同大学大学院工学研究科修士課程修了/2002年グラスゴー大学 Machintosh School Of Architecture 修士課程修了/2003年岩崎建築研究室

まなければなりません。病院には様々な部門があり其々を調整して統合していくのは一筋縄ではいきませんが、各分野の担当者丁寧に打合せを重ね、空間の実現に向け日々邁進しています。設計をする環境は大学にいる時は随分変わりましたが、今後もクライアントや使い手とのコミュニケーションを大切に、一緒に建物をつくりあげていく姿勢を持ち続けていきたいと思っています。

(岩崎建築研究室)



東京都市大学図書館大階段



計画中の医療施設

●file-20 建築設計の仕事は人の環境をつくるということ

## 秋山裕子 (H13卒)

**AKIYAMA Yuuko** (旧姓：溝口)  
2001年武蔵工業大学工学部建築学科卒業/2003年同大学大学院工学部修士課程終了(岩崎研究室)/同年(株)竹中工務店入社

振り返るとあつという間に卒業して7年が過ぎていました。入社3~5年目の時に四谷TNビルというビルの設計・監理を担当しました。地下の既存建物を活かし、事務所、賃貸住宅を積層するという延床1万㎡の難しいプロジェクト。その基本設計から実施設計、申請、建築主へのプレゼンから設計監理まで様々な仕事を任せられました。任せられたからにはと、昼も夜中も無我夢中で必死に取り組みました。住宅と事務所の切替階の構造・設備の納まりに悩み、ピロティのセキュリティゲートの製作に悪戦苦闘したり。しかし、周りの方の支えや協力もあり建物は無事竣工しました。私は、この建物とそこに関わった人々に、設計者として育てていただいたのだと思っています。そして現在は子供を育てながらのんびりと保育園入園と復職の準備をしていたこの3月、東日本大震災が起きました。TVに流れる映像が映画のように現



大学院を出て、静岡に帰ってきたのが、7年前。静岡ののんびりとした環境に物足りなさを感じた時もありましたが、仕事でもプライベートでも人との繋がりの大切さを感じながら、今を楽しんでいます。

入社と同時に、様々な規模と用途の建築に関わってきました。歯科医院の改修から2万㎡を超える学校の設計まで。現在は、設計・監理をした高校の体育館が竣工し、神社斎館の設計を行っています。施主との関わり合いから新しい提案が生まれると考えている私にとって、設計をする中で最も重要なことは、施主との打合せです。施主が何を考え、どのように建物を使っていきたいのか、それを踏まえた上で施主が納得のいく新しい提案をする。大変なことも多いですが、建物が完成し施主からの「ありがとうございました」の一言で、次を頑張ることが出来ます。仕事での悩みや不満もありますが、大学時代の友達、先輩と食事をしたりメールをすることで、自分を見つめ直し、一歩前に進むことが出来ます。友達や先輩とは、

実のことはなかなか理解ができませんでした。子供と途方にくれたことをよく覚えています。水や粉ミルク、おむつなどの供給不足に放射線問題。マスクミに取り上げられるたび、右往左往していました。そんなとき、支えになったのは同じ歳の子を持つママサークルの仲間でした。子供のこと、どこになにがあるという近所のスーパーの品物の状況や区役所の対応の話など。同じ境遇の人と連絡を取り合い、つながることで、不思議と色々な不安が和らいでいきました。

そして4月末に無事、復職。最初に担当した仕事が、「東日本大震災を受けて、今、私たちが提案・提言できること」という社内の環境コンペでした。地震後の経験から人とのつながりをテーマに、ある地域のあるエリアをそのまま、1つのタウンに凝縮し、新た



四谷TNビル (撮影：小川泰祐)

**ISHIKAWA Masako**  
2003年武蔵工業大学工学部建築学科卒業/2005年同大学大学院工学研究科修士課程修了/2005年一現在企業組合計谷建築事務所(静岡)

静岡と東京で離れてはいますが、とても近くに感じる大切な存在です。

そして、私が仕事以外に大好きで続けているものに、フットサルがあります。県リーグでプレーしていたこともありました。フットサルは、仕事中心の私の生活に変化を与え、人との繋がりを大きく広げてくれました。仕事の私は、正反対の自分でいられる、そんな場所です。最近では少しずつですが、自分がどのように建築、社会、施主と関わっていききたいかが見えてきたように思います。

(計谷建築事務所)



裾野の家 (撮影：畑亮)



に共用施設を付加し、安価で素早く建設し、コミュニティを活性化させ、復興の第一歩を踏み出すための最初の小さな住まい「キズナタウン」を提案しました。今は、この提案をベースに当社の技術を活かした復興住宅を、被災地になるべく早く届けるべくまとめている最中です。今、改めて建築設計の仕事は、人の環境をつくることだと感じています。これからは、人とのつながりを大切に、心地よい空間や建築が提案できればと思っています。

(竹中工務店)



インド文化センター TOKYO CONSTRUCTION PROJECT (出版 EMBASSY OF INDIA TOKYO)

## ●file-22 林恵子 (H13卒)

多くの人に永く愛される素敵な劇場を世に残していきたい



**HAYASHI Keiko**  
2001年武蔵工業大学工学部建築学科卒業/2003年同大学大学院工学研究科修士課程修了/現在(株)シアターワークショップに勤務

時が経つのは早く、大学院を修了して気付けば10年が経ちます。現在、私は劇場コンサルタントの仕事をしています。自分がこのような形で「劇場」に携わるとは思いませんでした。「劇場コンサルタント」とは？…劇場が機能するためにハード(建築)とソフト(管理運営)面から設計をする「劇場機能・技術に関する専門家」と言えよるのでしょうか。劇場はハード、ソフトのどちらかが欠けても良いものは出来ず、私はハード担当ですが、常にソフトの担当と連携をとりながら劇場を創っています。何故この職業に就いたのか…、故・田邊健雄先生とある先輩との出会いが、劇場に興味を持ち、現在の職に着いたきっかけだったのかなと思います。大学時代、田邊研究室にちよくちよく遊びに行き、先生と先輩と3人で砂糖菓子のボンボンを食べながら、好きな作曲家の話や、音楽の話、家族の話等をしたのを思い出します。先生から劇場の話聞いた覚えはあまりないのですが、演奏会のチケットを頂いて色々な劇場に足を運びました。私は田舎育ちだったので、都会に素敵な劇場が沢山あって、素晴らしい演奏が聴けることにとても感動しまし

た。「僕は君が4年生の頃にはもう大学にいないんだよな…」残念なことに、私が研究室に配属される頃、先生は退官なさっていました。田邊研究室の先輩に指導を受けながら私はある研究室で劇場の調査研究をしていました。学生時代から興味のあった分野で仕事が出来るとはとても幸せだと感じます。様々な建築家と仕事することが多く、その度に勉強になることが沢山あります。近年は中国の物件も多く、日本と中国の違いには驚きの連続です。今年に中国の設計事務所とコンペに参加しましたが、言葉の問題、異なる民族故の考え方の違い等には苦労しました。(中国語に関して発音はできませんが、文字の意味が分かるくらいにはなりました。但し、劇場用語限定ですが…。因みに私の中国語名は「リン・ホェ・ツー」というそうです。)自分の担当した劇場が、様々な方に利用されているのはとても嬉しいです。最近、「劇場コンサルタント」とは夢のある仕事だと感じます。新しいかたちの劇場を提案していきたい、多くの人に永く愛される素敵な劇場を世の中に残していきたいと思います。

(シアターワークショップ)



洗足学園音楽大学ブラックホール北西外観

●file-23 様々な職能のプロフェッショナルと協働でものづくりをしていきたい

## 小池聡子 (H8卒)



**KOIKE Satoko**  
1996年武蔵工業大学工学部建築学科卒業(田邊研究室)/1998年早稲田大学理工学研究所建設工学専攻 修士課程修了(古谷研究室)/1998年(株)日本設計入社

現在組織設計事務所である日本設計で

働いています。組織事務所に入ったのは、様々な職能のプロフェッショナルと協働でものづくりをしていきたい、という思いからでした。日本設計では各プロジェクト毎にチームを編成し、各分野の担当者と協力して一つの建物を計画していきます。これまで住宅、オフィス、商業、学校、体育施設といった、様々なプロジェクトに関わってきましたが、常に人との出会いや新たな発見があり、日々勉強の毎日です。入社して14年目を迎え、年齢的にもプロジェクトの中核を担う立場になり、責任の重圧を感じながらも、楽しんで仕事をしています。休日も、小学校高学年になった息子の所属する野球チームの手伝いをするなど、忙しい日々を過ごしています。日本設計では子供を持ち

(日本設計)



屋上テラス

●file-24 幼い子供の視点でもう一度世界を体験し直す

## 馬淵あゆみ (H14卒)



(SAISEI)

**MABUCHI Ayumi**  
(旧姓 岡部)  
2002年武蔵工業大学工学部建築学科卒業/2004年同大学大学院工学研究科修士課程修了/2004年~2005年(株)光通信人事部本社内広報課 勤務/2011年~(株)SAISEI 勤務

今夏から家庭菜園を始めました。おひさまと大地と雨。人が特に何もせずとも、育っていく姿に感動します。私がしたことといえば、毎日様子を見に行ったり、支柱をつけたりというだけで、逆に野菜達から元気をもらうことの方が多かったです。植物の芽はそれぞれが天に向かって伸びようとするから、放っておくとグニャグニャになります。その芽を欠いてやりながら、「人の場合はどうだろう、どんな芽も欠かずに、伸びる先をよくよく観察して、見守ってあげればいいのか」と最近よく思います。建築学科で得たものが直接生活に生かしていない気もしますが…子供達が遊びの中で街を作りだしたり試行錯誤して遊びを創出している姿を見ると、少しでも私の経験を吸い取ってくれているようで、嬉しいです。

卒業後まもなく結婚、2児の出産、育児を経て半年前に再就職しました。現在は中古の理美容機器の販売をしています。5年もの長い専業主婦期間に、母として人間の根幹を育む一大事業に専念できたのは貴重な経験でした。子供の世界では、大人の価値観はほとんど通用しません。我がままではない純粋な自己表現で成り立つ世界はとても心地よいものです。また、親も幼い子供の視点でもう一度世界を体験し直すことで、生き直すことができました。何度か転動があったため、子供たちも名前だけは覚えているものの、友達を思い出せなくなることがあります。それでも再会するたびに、仲のよい子もそうでない子も、空白の時間などなかったように、遊んだりまたは対抗意識を燃やしているのを見と不思議です。人って、たとえ全く覚えていなくても、出会い直すたびに、気心の合う人とは魅かれあうものなんだと感じます。



## 女流ファイル- Part5

新企画・第5弾。社会の多方面で活躍している多くの女性の卒業生を順次ご紹介しています。

# 安田 恵

(S64 卒)

●file-25 よいものを作り、維持するにはよい人間関係が必要



**YASUDA Megumi**  
1989年武蔵工業大学建築学科卒業(田邊研究室) / (株) 西武百貨店入社/1994年(株) ビジネスデザイン入社/1997年(株) タカギプランニングオフィス入社

(タカギプランニングオフィス)

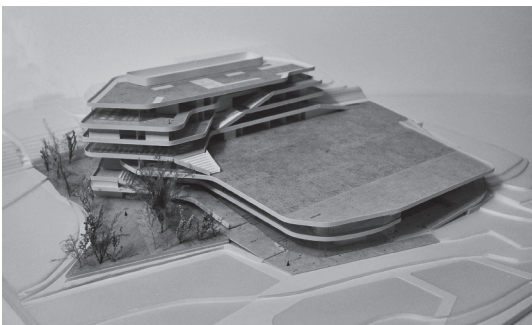
「こんなことやっているくらいだったら、おおよそ設計辞めたほうがいい」旧二号館で徹夜明けの重たい体を、眠らないように立ち上がり設計エスキスを聞く。大学時代は数え切れない徹夜をして、同級生と窓から朝焼けを見て、学食で朝食、新居先生の設計エスキスを受けながら…自分の順番が終わると耐えきれず座ったまま寝ているという日常を懐かしく思い出します。仕事を始めてもうすぐ5年が経ちます。大学で過ごした4年間以上がもう経ったのだと思うと自分は何だけ成長したんだ??と振り返りながら、いま文章を書いています。あの頃のように、楽しいことばかりじゃないし、自分に絶望することもあるけれど、それでも建築は果てしなく考えることがたくさんあって、自分には一生たどり着けないよ

うな気もするから、それに近づくように進む努力をしようと思っています。卒業してからは、保育園、病院を担当し設計と現場まで見ることができました。現在は小中一貫校という前例の少ないビルディングタイプの設計に挑戦しています。小中9年間という長い時間を過ごす大切な場所をつくる仕事です。建築のあり方が、教育のあり方や子ども達の生活を少し刺激的に印象深くしてくれることを願っています。学生時代よりも徹夜の回数は減り、その代わり徹夜の後遺症は倍増して、あの頃とは違うんだと思ひ知る今日この頃。笑。いま担当する学校ができる頃に、少し成長し、建築と向き合っていますように。

(日建設計)



**TANABE Hiromi**  
2005年武蔵工業大学建築学科卒業(手塚研究室) / 2007年首都大学東京大学院修了(小泉研究室) / 2007年(株) 日建設計入社



A\_SCHOOL (計画中)

●file-27 建築は果てしなく考えることがたくさんある。前に進む努力をしていきたい

## 田辺裕美 (H17 卒)



KIWAYA



創作和菓子 ほのか

●file-26 「心地が良い」と思って頂けるような自分らしい「お店作り」をしていきたい

## 高橋由美子 (H2 卒)



**TAKAHASHI Yumiko**  
1990年武蔵工業大学建築学科卒業(大須賀研究室) / (株) 丹青社・(株) 環デザインを経た後、(株) 京花園にてテレビ装花、(株) 東光園(現グリーンワイス)にて花屋を経験/2002年 atelier calm として独立/2008年 atelier calm 一級建築士事務所として登録

以前「どうして建築士なのにお花屋なの?」と聞かれたことがあります。生け花やテレビ局での美術装花を通じてお花を用いた見せ方やお花による空間作りを経験している私には、逆に空間作りだけではない「お店作り」と言う仕事は受け入れやすいのかもしれない。 「KIWAYA」と言うウクレレ屋さんの「お店作り」では、南国の演出とウクレレを引き立たせる為、グリーンを用いたデザインで喜んで頂きました。最近エコブームもあり、癒しの演出としてグリーンを用いたいと言うお客様も増えていきます。 これからもお施主さんだけではなく、いらした方に「心地が良い」と思って頂けるように自分らしい「お店作り」をしていければと思っています。

(atelier calm)

●file-29 卒業後薬害を発症。長い闘病、裁判闘争、結婚、出産と波乱の半生。今は絵画、執筆活動と充実した日々

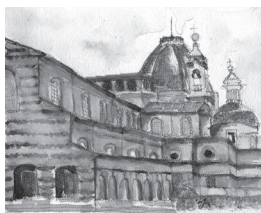
## 田中百合子 (S45 卒)



**TANAKA Yuriko**  
1970年武蔵工業大学建築学科卒業(田邊研究室) / グループ絵画展「綾の会展」20回連続開催後終了 / 現在「トライアングル展」第二回展 2012年9月開催予定

建築家になろうと思って、クラスにたった一人の女性だったのに入学して、四年間、徹夜しながら頑張ったのに、四年生のときに病気を患い、私は建築家になれなかった。昭和45年卒といえ、今から42年前のことです。その年、田辺研究室で卒論を書いて無事に卒業するはずの私でしたが、卒業式の日にはすでに体調が悪くすぐ入院することになってしまいました。3年のころから下痢が続き、薬を飲んで何とかやり過ごしていたのですが、その薬が、ひどい副作用を持つものだったのです。その副作用というのは、足がしびれて不自由になる、腸管がマヒして胃腸が常に不調になってしまう、体力が低下して、元気になれない、などの全身の体調悪化をもたらすのでした。薬だと思って毒を飲んでしまったのです。東京都庁に入って世田谷区に配属され、張り切って働きたいと思っていた矢先の入院だったので、こうして四年間の武蔵工大時代を楽しく過ごしたにもかかわらず、私は卒業したとたん

に身体障害者になってしまいました。それから一年半ほど世田谷区で働いたのですが、どうしても体力的に無理になり、医師の退職勧告があって仕事をやめることになりました。それから以後は先輩や同級生の設計事務所ですこし働かせてもらったりしましたが、ほとんど戦力にはならず、自分の体力、気力のなさがっかりするばかりの日々でした。その後病床で自分流の絵を描き始め、建築家になれない自分のくやしさが少し小さくさめられました。その後、すばらしい先生につくこともできて、今ではアクリルで絵を描いています。「100人展」にも出品しているのを見てくださっている方もおられると思います。絵は今では私の生きがいです。もうひとつの生きがいは、文章を書くことです。5年ほど前に毎日新聞社から「この命つむぎづけて」という本を出版しました。武蔵工大に入って、仲間たちを助けられ、卒業したもののその後薬害を発症し、長い闘病、裁判闘争などを経て、二人の子供をさすかり、絵を書くよ



サンロレンツォ教会

## 古屋 歴

(H11 卒)

●file-30 編集者の役割は、どんな理由で人の心を捉えるか読者に伝えること



**FURUYA Ayumi** (旧姓 坂口)  
1999年武蔵工業大学建築学科卒業(鈴木研究室) / 2001年同大学院工学研究科修士課程建築学専攻(岩崎研究室) 修了/広告制作会社、編集プロダクションなどを経て、2011年より建築画報社勤務

「これでも何かの縁だと、思い切っ入社してみたものの、この1年間はすっかり忘れてしまった知識を掘り返すことに精一杯で、とても新しいことを考える余裕はありませんでした。それでも、担当した何冊かを発刊することができ、現在は村上晶子アトリエの教会建築作品をまとめた書籍をつくっています。いくつもの教会や修道院を見学し、ミサにも何度も参加させていただきました。教会の美しさだけでなく、そこに込められた信者の方々の想いや、その場所との結びつき、設計者の人柄も伝えられるような一冊にできればと考えています。「編集者の役割は、そのモノやその空間のどんな部分が、どんな理由で人の心を捉えるのか。それを読者に伝えること」10年前に最初の職場で教えてもらったその言葉を忘れずに、これまでの経験を活かせる本ができればと願っています。

(建築画報社)



3月27日発行予定 「12の折りの空間」

## 三木さおり (H6 卒)

●file-28 大学で運命の出会い。一緒に起業し、充実した毎日です



**MIKI Saori**  
1994年武蔵工業大学建築学科卒業(田邊研究室) / 大栄建築事務所入社/2009年(株)アーキグラム設立

形態は珍しいのか、仕事も程々に頂いております。入学式にあの席が空いてなければ、私は別の人生を歩いていたのかもしれないし、どう転んでも彼女と会社をはじめていたのかもしれない。こればかりはわかりませんが、引退後に半分趣味のよう形で開いていた事務所、一から広告と編集を教えてくださいました。そこは、工学部での大学生活とは全く異なる世界。たった1ヶ月間、時には数日間しか掲載されない広告にかかる金額の大きさと手間の多さ、そして企画から完成までの期間の短さに驚きっぱなしでした。その後も、中学・高校時代には本ばかり読んでいて、数学も物理もほとんど理解することなく、普通ではあり得ないほどの浪人の末に、英語と国語の成績だけで建築学科に入学しました。学部での4年間は設計課題をこなす単位を落とさないことが目標で、どうして文系の学部に入らなかったのだろう、と後悔もしました。修士課程を修了後、活字を好きにだけ読めるようにと選んだのが、編集の仕事でした。いくつかの編集プロダクションを転々として、映画情報誌、レシピ本、ファッション雑誌、インテリア雑誌、旅行ガイドブックなど、いろいろな分野の雑誌や本をつくり続けて、すっかり建築から離れたと思っていた去年の初め、仕事先のベテラン編集者から建築画報社への転職を勧められま

(Archi+Glam)



a treasure box



simple luxury



## 女流ファイル-Part6

社会の多方面で活躍している多くの女性の卒業生を順次ご紹介しています

# 松田まり子

(H12 卒)



●file-31 ドラマチックな展開、そして多くの出逢いに感謝。夢はもっともっと膨らむ

大学時代、何をやっても不器用な私は課題の山に埋もれ、毎回泣いてばかりで、挫折を繰り返していました。その度に仲間を支えられ、なんとかこなし卒業まで辿り着きました。今の私がいるのは、当時の仲間のおかげです。卒業後、このまま建築の道に進んでいいのかと悩みながらも、沖縄に戻り、米軍基地内の設計に携わる設計事務所就職しました。まさか英語での議事録作成だなんて、と思いながらも日本語と英語の図面を引き、徹夜と休日のない日々を過ごしていました。そのときに、ある方に出会い「君は人生楽しんでるか」との言葉に心が揺さぶられ、転職することを決意し沖縄県内のアトリエ系事務所に

大学院を卒業して4年半が経ちます。今振り返ってみると4年半で自分自身がいろいろな意味で本当に大きく変化したと思います。それは本当に大きな変化でした。

卒業した年、手塚事務所出身であり研究室の先輩でもある富川浩史さんの事務所に入社し、そこから約3年半で数十店舗に及ぶ内装のお仕事をさせて頂きました。個人事務所、かつ店舗の内装設計というスパンの短いお仕事を数多く担当させて頂いたおかげで、日々多くのデザインに触れ、多くの方々とお仕事ができました。

そんな密度の濃い生活の中で学んだ事は、人や物と対話をする事がどれだけ大切かという事です。

ものづくり、特に建築設計の場合は一人では到底ものは作れません。お施主さまや、事務所の所長やスタッフ、メーカーの方、施工者の方々、多くの人と繋がりをしながら一つのもが出来上がっていきます。その中で、相手はどう思っているのか相手にどう伝えたらわかりやすいかなど、対話をする事が如何に難しいかを思い知りました。なかなか汲み取れなかったり、伝わらなかったりする事もあり本当に苦しかったです。また「もの」と対話することも容易ではありませんでした。何度と無く案を練り直し微調整し、「もの」が発する言葉に耳を傾ける。正面から



伝統的な知恵をとり入れた沖縄の住宅



軒を深く出し風と影で気持ちの良い空間になる

### Matsuda Mariko

2000年武蔵工業大学工学部建築学科卒業（鈴木研究室）／沖縄県内及び東京都内設計事務所等勤務の後、2010年NPO蒸暑地域住まいの研究会理事に就任、現在NPO蒸暑地域住まいの研究会理事長 www.sumai.asia

入所しました。そこでも相変わらず徹夜ばかりでしたが、「建築の楽しさ」を学びました。課題とは違い責任を伴い、緊張感の中、慎重に線を引き、その結果初めて施主の喜んでくれた時の感動は、今思い出しても鳥肌が立つくらい嬉しかったです。しかし、そこで自分の体力の限界を超えるまで働き続け、気が付くと入院していました。病院の天井を眺めながらこのままではいけない、自分のペースで仕事をしようと24歳で設計事務所を設立しました。幸い、仕事は紹介等もあり困ることはなかったけれども、デザインやディテールで悩み、もっと色々な世界が見たいと27歳の時に再び上京しました。やっとのことで憧れの設計事務所

対話をしないとその場しのぎのものが出来てしまう事も知りました。しかし四苦八苦回り道しながらも出来上がる空間を目にするとやはり感動もひとしおで、「もの」との対話を通して「人」と対話しながら作り上げていくというその過程こそが、この仕事の醍醐味なんだと事務所に在籍した3年半で実感しました。

昨年末に事務所を退社し、現在は日建設計で働いています。

個人事務所から組織事務所へ、環境の変化は大きなもので設計するものも店舗から学校へと変わりました。当初はあまりの人の多さに戸惑い、どう立ち振る舞ったらいいのか、收拾がなかなかつけられない事もままありましたが、ものづくりをするという点では規模が大きくなっただけで何も変わらないう事段々とわかるようになりました。特に大組織で関わる人間も多いほど、「人・物との対話」がさらに重要であることに気づきました。

また通り一辺倒では盲く行かないことも知りました。今は事務所での経験を生かし、どうやって対話をしていったらよりよいものづくりの環境が整い、よりよいものを作り上げていけるかを模索しながら人とももの向き合う毎日です。

(日建設計)

所のインターンに潜り込み、仕事の合間にアルバイトをし、生計を保っていました。その時は、いつもお腹がすいていて、寝不足、だけど心だけは元気でした。沢山の外国人の建築士の卵と出会い、たわいのない会話からそれぞれが目指す夢を語ったりもしました。多くの海外コンペに挑戦し、何かを問いつける毎日でした。学生の頃からずっと留学がしたかった私は社会人になってから、イタリアに1か月、フランスに1か月、スペインに1か月、ロンドンには二週間、という猶予をもって色々な建築をめくり廻ってきました。毎回、貧乏旅行で借金をつくったりもしましたが、出会いが次の職場を選び、その職場でまた、次の出会いがあり、と多くの素晴らしい経験を重ねていきました。そして35歳の今、再び沖縄にいます。沖縄は、亜熱帯性気候なので日本の省エネルギー技術は適用できません。しかし世界の人口の約1/3が沖縄と同じ気候です。今後、地球規模で、省エネ住宅のガイドラインを策定する必要があります。私ができることは小さなことかもしれませんが、今までの経験と感謝の気持ちを持って取り組むつもりです。未来の楽園を夢見ながら、これからも楽しい建築と人生を重ねていきたいです。

(蒸暑地域住まいの研究会)

●file-32 人と物との対話の大切さ

# 中村芽久美

(H18 卒)



### Nakamura Megumi

2006年武蔵工業大学工学部建築学科卒業（手塚研究室）／2008年同大学大学院工学科修士課程修了（手塚研究室）／同大学院工学科修士課程修了（手塚研究室）、同年 合同会社白川富川建築設計事務所入社／2012年株式会社日建設計入社



Samantha Thavasa Resort



居場所づくりのフィールドワークでの一コマ

今振り返りますと、入試の際に「建築って楽しいよ〜」と心から楽しそうに語る面接官 谷口汎邦先生との出会いが、私の運命を決めたように感じています。

人が自分らしく生き続けられる為に何かしたいという強い気持ちは持ちつつも、実は建築に深い思い入れがあつての入学ではありませんでした。学生生活が始まってからは、夜を徹して建築に取り組み同級生や諸先輩の熱い想いに付いていけず、常に、私自身の自分らしさを探してさ迷っていました。

その日々の中でも、最初に書きました谷口先生のお言葉と姿は頭から離れず、都市計画などの講義だけは一生懸命に聴講していました。流れに導かれるかのように、卒業研究では谷口・天野研究室に入れて頂き、多摩ニュータウンの高齢化に取り組まれました。現地に通い、そこに住む高齢の方々がどのような外出行動をされているのかをひたすらに観察するなかで見えてきたのは、会いたい・つながりたい・知りたい・食べたいといった「～したい」何かがある限り、外部環境の影響は大きいもの、身体が不自由でも外出するということです。同時に、高齢者の方々の「～したい」を実現させるための外部環境のあり方に強い興味をもつ様になりました。

ここから私の遅まきながらの学生生活が始まりました。谷口先生の薦めで進学した大学院では、今までの勉強不足を埋めるために、さらには社会学や老年学といった新たな知識を得るために、生まれてはじめての猛勉強。ほとんど高齢者のことを知らないという焦りから、有料老人ホームや軽費老人ホーム、当時に増え始めていた元気な高齢者を対象にしたケア付き集合住宅など、様々な居住形態にボランティアとして通うようになりました。博士論文では、転居しても活動や交流が縮小しない高齢者の存在に着目して、転居先の居住形態による比較研究を行いました。

今では、高齢者が「～したい」何かを可能な限り継続できる地域社会での居場所のあり方を研究しています。学会や講演、研究会などの様々な場でお話をする機会を頂く中で、一般的な社会学や福祉学、心理学出身の人とは違う広い視点だということお褒め(?)のコメントを頂くことがあります。そのたびに、様々な分野を吸収しつつも、私の原点は武蔵工大で学んだ建築学なのだ実感しています。充実した毎日を送る中での悩みは、いかにして研究の面白さを後進に伝えていけたらという気持ちが強まりつつある今日この頃です。

(ダイヤ高齢社会研究財団)

大学を卒業して、そのまま地元に戻り、山形県庁へ入庁して早16年目になりました。

山形県の建築職では約20年ぶりの女性採用で、入庁当時は周囲が戸惑っているのがわかるほどでしたが、建築指導や営繕業務のほか、まちづくり業務にも携わる機会に恵まれ、様々な経験をさせて頂き、とても充実しています。

現在は2度目の営繕業務を担当しており、特別支援学校増築工事の設計と県庁舎の便所等改修工事の担当をしています。

私事ですが、周囲の友達から遅れること約10年目にして結婚・出産をし、昨年度は産後休暇と育児休暇を取って一年間育児に専念しました。

出産前最後の妊婦検診があつたので、帝王切開でなければ出産できませんでした。

震災後は当県に麻酔薬等が入ってこなくなった為、癌の手術等の予定患者は一旦退院させられ、被災県からの重病患者と私のような出産予定者が

優先となり、余震の続く病院内はビリビリした雰囲気にも包まれていました。

そんな事も加わって、出産は私にとって価値観を一変させられる経験でした。育児も大変ですが、一人の人間として何事も代えられない経験をさせてもらい、仕事とは違った充実感を感じています。

ただ、仕事上で中堅の立場になってからの休暇や育児時間の取得等は、職种的にまだまだ女性の割合が低いこともあって、職場での理解を得られず、復帰後は育児と仕事の両立の難しさを実感する日々です。

妊娠・出産・育児に関しては、民間よりも制度的には進んでいると思われる官公庁ですら、実態は制度を使いたくても使えない状況におかれています。

後輩に同じ思いをさせないためにも、制度を心地よく活用できる職場環境を築くことが、これからの私の課題ではないかと思っています。

(山形県庁)

# 澤岡詩野

(H10 卒)



### Sawaoka Shino

1998年武蔵工業大学建築学科卒業（谷口・天野研究室）／2004年東京工業大学社会理工学研究課博士後期課程修了（工学博士）／東京理科大学助手を経て、2007年より(公財)ダイヤ高齢社会研究財団に主任研究員として勤務

●file-33 ここに住む人にとって自分らしくいられる居場所創りを目指して試行錯誤の毎日

●file-34 付いていくだけで精一杯の毎日から、少しずつ、視野を広げている最中です

# 浅井百合

(H19 卒)

Asai Yuri (旧姓 仁井田) 2007年武蔵工業大学工学部建築学科卒業（手塚研究室）／2010年横浜国立大学大学院Y-GSA修了／2010年株式会社新居千秋都市建築設計入社



現在私は、新居千秋都市建築設計で働いています。

仕事内容は、最初の1、2年はコンペ、実施設計、現在はメディア対応等が主です。雑誌・webサイトの対応や、賞への応募等を行っています。あっという間に3年目に入りました。アトリエ設計事務所でも働くという選択は、不安もありました。労働時間、家庭との両立など、周囲の理解なくしては難しい場合もあると思います。結論からいうと、私は様々な不安があつても、この事務所

で働けて本当に良かったと思っております。技術や仕事のやり方だけではなく、所長新居さんや先輩方から学ぶことが沢山ありました。新居事務所ではプロジェクトは、建築の大小に関わらず、繰り返し細かくスケッチを行い、模型を作り、スタディされます。新居さんのひたすら粘る姿勢や、日々追加される大量のスケッチ等、その膨大なエネルギーについていくだけで精一杯です。悪戦苦闘の毎日ですが、夜中まで打ち合わせを行っているとき等、めきめきと計画が良くなること

があります。新居さんと、ときに協力事務所、メーカーの方がいたりするのが、その人たちが集まって考えなければできない、創造が跳躍する時間です。効率が悪いかもしれませんが、その時間は充実して

いて、とても勉強になります。事務所の方々、芯の強い優秀な方ばかりです。電話しているのを横から聞いているだけでも勉強になります。ある先輩に「筋トレが大事」だと言われました。実際の筋トレではなく、経験し、知識を蓄え、条件を論理的に整理し、最新の情報に触れ、設計し続けること。詳しくは教えてくれませんが、そうすることで、少しずつ考えが深く、視野が広がっていく、のかなと思っています。

現在、私は昨年12月に開館した由利本荘市文化交流館 カダレの、雑誌等へのメディア対応をしています。その中で、新居さんをはじめ、このプロジェクトに携わってこられた方々に言葉を寄せてもらう機会がありました。市民活動、環境、構造、ホールのあり方、施工、設計手法について。それぞれの方が熱意をもって役割を果たしてきたことを感じ、一歩ずつ先へ進み、積み重ねることで建築をつくる姿に感動しました。そう簡単には皆さんの様な仕事が出来ようにはなれませんが、私も、これからは焦らず、目の前のごとを大切に、経験を積み重ねていきたいと思っています。

(新居千秋都市建築設計)

●file-35 育児をしながら仕事をする一制度を心地よく活用できる職場環境にしたい

# 大泉明子

(H8 卒)



Ooizumi Akiko 1996年武蔵工業大学工学部建築学科卒業（乾研究室）／同年 山形県入庁



## 女流ファイル-Part7

社会の多方面で活躍する多くの女性卒業生を順次で紹介しています。

# 西村陽子

(H17卒)



**NISHIMURA Yoko (旧姓 坂巻)**  
2005年武蔵工業大学工学部建築学科卒業(岩崎研究室) / 2007年同大学大学院工学修士課程修了(岩崎研究室) / 2007年株式会社NTTファシリティーズ入社

大学院を卒業し、NTTファシリティーズに入社し、6年が過ぎようとしています。その6年の間にいろいろな立場を経験することができました。

入社して3年間は、NTTの根源ともいえる通信局社の外壁改修工事・防水改修工事など模様替工事を数十件担当しました。一方、その業務と並行して、新築のデータセンターや研修施設の設計を担当しました。小さな模様替工事から大きな新築工事まで幅広く担当させてもらい、「設計者」として多くのことを吸収できました。

その3年を経て1年間、NTTビジネスアソシエという関連会社に出向し、賃貸住宅の企画を担当しました。今までは「設計者」という立場でしたが、NTTファシリティーズに発注する「施主」の立場となりました。以前は職場の先輩だった方に物

●file-37  
いろいろな立場を経験して、今、

申すこととなり、最初のうちは躊躇することもありましたが「いい建物をつくりたい」という思いほどの立場にいても変わらないのだということを改めて思いました。もう少しここでの経験を積みたところでしたが、第一子を妊娠し、産休・育休を1年間取得することとなりました。そして昨年(2012年)4月に復職し、現在、NTTファシリティーズ建築事業本部プロジェクト総括部門に所属しています。ここでは、建築事業本部全体の広報・育成・プロジェクトの収支管理・ビム推進事務局などを担当しています。今は、建築事業本部全体を俯瞰し、「マネジメント」する立場だと考えています。

また、現在は短時間勤務制度を利用し仕事と子育てを両立しています。女性の先輩社員で短時間勤務を利用し、仕事と子育てを両立している方も多くいらっしゃいます。私も迷うことなく、短時間勤務を利用することを決断できたのは、そのような先輩社員の方々がいらっしゃったからだと思います。これからは、私もそのような先輩社員の方々と仕事と子育てを両立していける環境づくりをしていけたらと思っています。

今はいろいろな立場を経験し、幅広い知識を持ち合わせることで、最終的にはお客様・社会にとって付加価値の高い建物を提案することに、これからも関わっていきたいと考えています。

(NTTファシリティーズ)

# 庄子夕香子

(H20卒)



杭のメーカーで働いて5年になります。知人からは、なぜ杭メーカーで働いているの?とよく聞かれます。学生時代から杭の知識があったわけはありませんでしたし、杭といえば建物を支えるモノといった漠然としたイメージしかありませんでした。今の会社に同大学の女性の先輩が働いていることを偶然知りました。またその先輩が若手社員として活躍されていることを知り、私も同じようになりたいと思ったのがきっかけで今の会社で働くようになりました。

入社してからは初めて学ぶことばかりで、特に土質力学の分野は学生時代にもっと勉強して

おけばよかったと思いました。当たり前のことですが、大学時代に勉強したことは建築のほんの一部に過ぎなかったのだなと思いますし、5年になる今でも基礎分野における知識はまだまだ十分なものではありません。

仕事内容は建物の杭を設計・提案することです。計算の上では設計が成り立つ案でも、敷地広さや地盤性状から決まる施工条件も加味する必要があるため、設計の知識だけでなく施工経験も必要になります。私は施工管理の経験がないため、工事担当の先輩社員に相談しながら仕事を進めています。特に地盤性状は全国各地で異なるものなので尚更相談が必要になります。自分が携わった案件の現場に行くと、設計だけでは分からない現場での大変さや新たな発見もあり、仕事は多くの人の力をかりて成り立つものだと改めて実感しています。

杭は建物が建ってしまえば見えなくなる存在です。縁の下の力持ちとして影で建物を支えています。私は人前に出て目立つことが苦手な性格なため、杭と自分が似ているような気がして今の仕事が生にあっていていると思っています。

杭業界には珍しく、女性社員が多く働く職場です。女性は仕事が丁寧だと言われることが多いので、女性ならではの利点を生かし杭のように陰ながら人様の役に立てる仕事を続けていきたいと思っています。

(ジャパンパイル)

●file-39 働き続けること

# 高橋礼

(H17卒)



**TAHASHI Aya (旧姓 佐川)**  
2005年武蔵工業大学工学部建築学科卒業(天野研究室) / 2005年~2011年 府中市建築指導課、計画課 / 2009年 東京都土地利用計画課(出向) / 2012年~ 大田区まちづくり管理課

すとともに、父親の育児支援を強化するなど、男性が育児に参加しやすい環境も作っていかねばならないと思います。

卒業してから特に強く感じているのですが、武蔵工業大学の良いところは、先輩後輩とのつながりが深いことだと思います。今でも毎年、集まって昔の思い出話やお互いの近況を語りあっています。このつながりを大切に、私はこれからも建築に携わる仲間達とともにまちづくりに励んでいきたいと思っています。

# 片岡えり

(H18卒)



**KATAOKA Eri**  
2006年武蔵工業大学工学部建築学科卒業(宿谷昌則研究室) / 2008年同大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻修士課程修了(宿谷昌則研究室) / 同年 株式会社日建設計設備設計部門設備設計部入社

小学校4年生の頃から建築の仕事がしたいと思っていました。夢中で勉強し、気がついたら日建設計という設計事務所就職して5年が経っていました。

工学部建築学科を卒業し、卒業研究に続き環境情報学研究科の宿谷昌則先生のもとで住まい方や住環境教育などのソフト面から、放射冷房等のハード面まで、人を取り巻く環境について、より自然のポテンシャルを活かして快適に過ごす手法の可能性について幅広い視点で研究・活動をしていました。そのような研究背景から、アクティブな設備ばかりに頼ることなく自然のポテンシャルを活かして、ユーザーの使い方に合わせて快適に過ごせる空間の設計

社会人となり、早一年が経とうとしています。仕事のリズムや学ぶことの多さに奮闘の日々が続いています。大学時代と会社で働くことのギャップの大きさに打ちひしがれることもありましたが、日々のスピードについていくことに必死で、学生の頃のように自分らしく建築に向き合うことができないでいました。

そんな時、あるチャンスが舞い込んできました。会社で東京ガス主催の環境デザインコンペというアイデアコンペに参加することとなったのです。当時私は、主にプロポーザルコンペを行う部に所属しており、その延長でコンペ部の1年目から5年目までの若手でその仕事を担当することとなりました。学生の頃からいくつかのアイデアコンペに参加してきた私は、自分の得意分野を生かす絶好の機会だと思いました。

プロジェクトは、各自アイデアを1案ずつ持ち寄って議論し、方向性を定めていくという方針で進めていくこととなりました。しかし、5年目の先輩と比べればもちろん、知識も経験値も雲泥の差です。その中で自分のアイデアを発表するのは緊張し、打ち合わせの前日になかなか眠れなかったのを今でも覚えています。幸いにも私のアイデアを採用してもらい、それを軸に案を深めていこうということになりました。

その後も仕事の合間を縫って話し合いを進めていき、紙面にまとめる最終段階に差し掛かったところで、上司に「サポートするから、とりあえず責任を持ってまとめてみなさい」といわれました。私を信頼し、一任してくれたのです。日々の業務に追われ、



伊万里有田共立病院

がしたいという強い想いを胸に入社しました。日建設計ではビルや工場など大きな規模の建物用途の設計を担当することが多く、入社してから病院、学校、オフィスビル等の設計を担当しました。振り返ると入社してから15以上のプロジェクトの設計をしています。単純計算で一年に5プロジェクト。設備の「せ」の字も知らなかった私にとっては、毎日が勉強で無我夢中で仕事をしていました。

今までの設計で特に印象に残っているのが、最初にひとりで設計から監理まで担当した佐賀の病院です。大規模な建物ではユーザーよりも管理者、オーナーとの打合せが多いですが、病院ではドクターや看護師などユーザーの声を直接聞いて設計します。意匠・構造、メーカー、行政関係等、たくさんの人とコミュニケーションをとりながら、グレード感、コスト、利便性、快適性、経済性、メンテナンス性、耐久性、デザイン性等、総合的に考えて、その時々にあった提案をしていきます。病院設計を通じて、技術者としてユーザーの声を直接聞いて、様々な要望に応えることに面白さを感じました。ハード面の設計で気を付けていることは何気ない気遣いです。設備は少しの工夫で使い勝手が変わります。以前、「女性の視点で細やかな配慮をしていた

(日建設計)

自分らしさや大学で学んできた考える力を活かさないでいた私は、責任ある立場に置かれ、仕事と向き合い、アイデアやプレゼンを追及するという本質を見つめ直すことができました。

一次審査を通過し、公開審査でプレゼンテーションを行うこととなった際も年齢に関係なく平等に決めるためにオーディションを行ってプレゼンターを決めました。1年目の頼りない私がそんな重役を任せてもらってよいのかわからなかったのですが、先輩たちは快く背中を押してくれました。あと一步のところで最優秀賞を逃し、結果は優秀賞でしたが、私の中で学んだことは賞とは比べられないものでした。

# 木原紗知

(H22卒)



**KIHARA Sachi**  
2010年武蔵工業大学工学部建築学科卒業(手塚研究室) / 2012年東京都市大学大学院工学研究科修士課程修了(手塚研究室) / 同年 株式会社山下設計入社

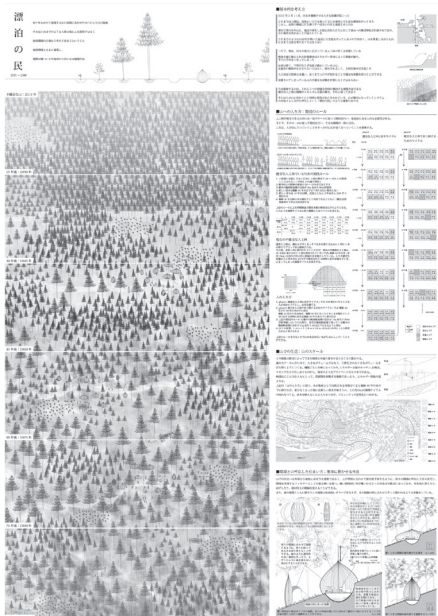
だけで嬉しい」を言われたことがあります。普段の仕事で、男性・女性の区別はありませんが、女性設備設計者としての視点で、何気ない気遣いによって、より使いやすくなるように、自分ならではの工夫や提案ができるよう考えています。

また、気遣い設計と同様に大切にしていることは、使われ方をサポートすることです。佐賀の病院でも、竣工後に建物設備と運用が合わず光熱水費が多くなってしまいましたが、実際に建物を使う看護師の方々に集まってもらって運用説明会を行ったところ、光熱水費が大きく下がりました。建物の設備と、その使われ方、いわゆるハードとソフトが一致してはじめて建物が生きてくることを実感しました。学生時代に宿谷研究室で学んだ住環境教育の考え方が仕事でも同様につながっていると感じました。一人の技術者としてはまだまだ未熟ですが、ハード面でクライアントに喜んでもらえる設計をすつとも、ソフト面でのフォローも行い、設計趣旨をしつかり伝えて運用してもらえるように今後も一歩ずつ前進していきたいです。そして、自分の設計した建物の長を継続して見守っていきたいです。

(日建設計)

常に自分の力が試され、いつチャンスが来るかわからないこの仕事は、毎日が戦いだと思います。ただ、建築と真剣に、そして全力で向き合う人々と、誰にでも平等にチャンスを与えてくれるというこの素晴らしい土壌でこれからも切磋琢磨し、頑張っていこうと思います。

(山下設計)



環境コンペ提案書

●file-41 社会人1年目の奮闘記

— 建築と仕事とチャンス、そして今の自分にできること —



## 女流ファイル-Part8

社会の多方面で活躍する女性卒業生を順次ご紹介しています。

# 山内理菜

(H21 卒)

### ●file-42 自分が今すべきこと～価値ある建築を生み出す為～



大学を卒業しNTTファシリティーズ入社からあっという間に4年が過ぎました。

小さい頃からの夢であった建築を仕事として過ごす忙しい毎日には充実感を覚えながらも、大学では経験のないスピードで結果を求められる仕事の厳しさを日々感じて仕事に取組んでいます。

この4年間で関わってきたPJはいくつもありましたが、仕事の仕方や姿勢など今の私の土台をかためてくれた1つのPJがあります。それは幸運にも入社配属後すぐ始まった新築の仕事で、条件整理から基本計画、基本設計、実施設計、現場、最終的には完成まで携わる機会を頂けた仕事です。しかし、せっかく与えてもらった絶好の機会にも関わらず、何をやるにも新しいことの連続で、毎日必死についていくのが精一杯という状態でした。やる気とは反対に、仕事をすればするほど自分の未熟さを思い知らされるばかりで、知らず知らずの内に消極的になっていたようにも思います。しかし、その萎縮していた自分を変えるきっかけがありました。それは、建物の方向



NTT 横須賀研究開発センター

#### YAMAUCHI Rina

2009年武蔵工業大学工学部建築学科卒業（住吉研究室）／2009年NTTファシリティーズ入社／2009～2012年NTTファシリティーズ中央建築事業本部都市建築設計部建築デザイン部門／2012年NTTファシリティーズ中央ファシリティーマネジメント事業本部ファシリティーマネジメントビジネス部 横須賀R&D

性を決定付けるコンセプトデザインを各自で考えを持ち寄り、打合せとなった時の事です。非常に難しく重要な内容ではありましたが、経験を抜きにして自分の考えを表現できるチャンスかもしれないと思い没頭したのを今でも覚えています。限られた時間の中で組立てた考えや描いたスケッチは決してきれいにまとまったものではありませんでしたが、それでも自分なりに考え、案をぶつけました。当時は特に先輩の指示のもとで動く事が多かった為、自分なりの方法と言葉で納得いくまで意見を交わせたと思えたその打合せでそれまではっきり出来ていなかった気持ちに整理がつき、自分もPJの一員なのだとの責任感に変わりました。その後、急にうまくいく程簡単な話ではありましたが、それでも以前より自分から発信し提案をあげていく姿勢に変わるきっかけに出来た特別な時間だったと思っていますし、よりよい建築をつくるという本来の目的の為に「何をすべきで、何が出来るか。」その時の自分を受け入れ、向き合っていく行動・方針を立てて進められるようになりました。

直接取材をさせていただくこともあります。その時々ベストな言葉を使い、気持ちよく話していただく。いただいた濃厚な情報を、できる限り多くの人に「わかりやすい」「有益な」情報にデザインしていく。ここが一番難しく、やりがいのあるところです。

乃村工藝社に留まらず、業界全体の取り組みも力を入れています。今年の2月には業界組合女性100人が集まる女子会を主宰しました。女性の活躍は目覚ましい、けれども継続は難しい。そんな問題に、真摯に向き合う働く女性100名と経営者の学べる女子会を企画しました。企画立案から、セミナー講師選定、会場デザイン、協賛交渉まで担当。一人では、一つの会社では難しいことも、垣根を越え、それぞれが力を出し合えば実現が可能であることを実感しています。

様々な場面で未経験のコトばかりですが、なぜ自分が揺らがず仕事に取り組みめるのか考えてみました。理由は、建築を設計する際に学んだ【仮説を立てて、ゴールに向かい構築してゆく】プロセスが染みついているからです。与件を踏まえて状況を判断し、仮説を立てて、最善のゴールとなるべく形にしていく。全ての仕事に活用できる基本を、武蔵工業大学の建築学科で学ぶことができました。

私のいる会社・業界は世の中のあらゆるコトと繋がっています。やる気を出し、信頼されれば必ずチャンスを探ります。そのチャンスを運んでくれるたくさんの方々に感謝しながら、これからも成長できるよう学んでいきたいと思っています。

(乃村工藝社)



模様替え工事後

現在は、入社と共に配属された設計の部署から異動をして、FMという立場で仕事をしています。実際使われている建物において、いかに長く、うまく付き合おうか。を考えながら各種工事の企画・提案、実施から維持管理にわたるまでを一人称で行っています。新築PJでゼロから新しくつくりあげるのとは異なりますが、建築技術面はもちろんのこと、利用者の声を直接聞きながらその要望にいかに応えられるか、あらゆる角度から総合的な考えをもってまとめていく今の仕事は、お客様の立場を理解し構築する意味で、建築を仕事とする為に必要不可欠な力を育てていると考えています。

学ぶことばかりでなかなか思い通りにはいかない状態は5年目に入った今も変わらず続いています。今でも入社の時と変わらず『建築は楽しい、仕事をずっと続けていきたい』と思いつけられるのは、悩みなながらも考え抜いたものが形と出来た時に訪れる達成感や喜び、その苦勞を一緒に吹き飛ばしてくれるお客様からの感謝の言葉があるからだと思っていますし、それを支えてくれている上司や先輩、仲間にも恵まれているからだと思っています。これからもいくつも乗り越えていけなくてはいい壁が出てくるとは思いますが、日々成長しながら世の中の人々・社会にとって価値ある建築を生み出していけるよう、技術的にも人間的にも、もっと自分を磨いていきたいと思っています。(NTTファシリティーマネジメント)

### ●file-43 建築のとなりで

# 古長谷莉花

(H21 卒)

#### KONAGAYA Rika

2009年武蔵工業大学工学部建築学科卒業（手塚研究室）／2009年株式会社乃村工藝社入社・クリエイティブ局デザイン職配属／2011年同社経営企画本部広報部配属



Professional Women 100 (働く女性100人の女子会)



シェルターのある家

# 町田ドロテア

(H05 卒)



MACHIDA Mizuho Dorothea  
1993年武蔵工業大学工学部建築学科卒（広瀬研究室）／1993年ミサワホーム株式会社入社／1997年渡米、RTKL International.ltd 入社／2000年帰国、株式会社町田ひろ子アカデミー入社

今では、資格としても職業としても知られるようになった「インテリアコーディネーター」。35年前にスイスや米国で環境デザインを

大学を卒業した後、私は映画を作る大学院へ行き、今は広告会社で働いています。構造力学の計算方法だとか、ゴシックとロマネスクのどちらが先だったかとか、あらかた忘れてしまっていますが、なんの問題もなく日々を過ごしています。

勉強が嫌いだっただけで、4年間切ったり貼ったり、模型を作るだけで卒業できる建築学科はなんて素晴らしいコトかと思ひ、紆余曲折を経てムサコーに入りました。モノを作ることは、元々いつまでもやっていられるくらい好きだったので。予想は大方外れず、模型をせっせと作って、卒業することができました。けれど予想と違ったことは、「ものを作ることはしんどい」という気持ちを自分が持った、ということでした。ただ自分の好きという気持ちだけで作っていた時は違い、建築には「考える力」がすぐぶる求められました。そして残念ながら、私にこの力はほとんどなかったのです。だからしんどかった。周りには、とうとう卒業するまで私が追いつくことができなかった建築バカがわんさかおり、彼らの建築に対する熱情はその「考える力」をいとも簡単に鍛えて「作る」をしているように見えました（裏にはものすごい努力があったことが、今なら分かります!）。それなのに私は、どう考えたらよいか、自分なりの軸を持つことがずっとできませんでした。というより、「考える力」を鍛えるために、努力することができませんでした。誰だってしんどいことからは逃げた

に付随した気になる部分をインテリアテクニクで解消することもあります。

今年の春、渋谷青山にオープンしたスマートハウスが集まった住宅展示場「TBSハウジング 東京ホームズコレクション」内のモデルハウスで、「賢く、美防災」というコンセプトのもとインテリアを展開しました。東日本大震災を経験した日本では、安心安全な住まいを誰もが必要としています。いつ来るともしれない災害を自衛の精神とともに暮らしに反映したライフスタイルの提案「シェルターのある家」です。これは、テレビや雑誌でも取り上げられ、来場者数も大変多く、驚いています。母がスイスの生活体験から、今の日本に必要なものではないかとの発想から提案したものです。

この仕事から、改めて「暮らし」から提案できるものがあることを感じています。低炭素化、スマートハウス、創・省・蓄エネルギーなどのエネルギーコントロールや安心・安全面から地震対策（耐震、免震など）など建築設計においては、ハード面への配慮が求められます。一方インテリアでも、暮らしに寄り添い、同じ問題をソフト面から解決する可能性がまだまだあるということです。

ライフスタイルが多様化している今、社会ニーズもお客様のニーズも多様化しています。そのため、求められるスキルが高くなってきています。日々、勉強ですが同視点で仕事する仲間を募り、これからも「豊かな暮らし」を実現するお手伝いをして参りたいと思っています。(町田ひろ子アカデミー)

### ●file-45 困っている人を助けたいという気持ちで建築に取り組むということ

# 藤吉里佳

(H22 卒)

#### FUJIYOSHI Rika

2010年京都市大学工学部建築学科卒業（小林研究室）／2012年京都市大学建築学専攻修了／2012年株式会社JM入社



大学を卒業した後、私は映画を作る大学院へ行き、今は広告会社で働いています。構造力学の計算方法だとか、ゴシックとロマネスクのどちらが先だったかとか、あらかた忘れてしまっていますが、なんの問題もなく日々を過ごしています。

勉強が嫌いだっただけで、4年間切ったり貼ったり、模型を作るだけで卒業できる建築学科はなんて素晴らしいコトかと思ひ、紆余曲折を経てムサコーに入りました。モノを作ることは、元々いつまでもやっていられるくらい好きだったので。予想は大方外れず、模型をせっせと作って、卒業することができました。けれど予想と違ったことは、「ものを作ることはしんどい」という気持ちを自分が持った、ということでした。ただ自分の好きという気持ちだけで作っていた時は違い、建築には「考える力」がすぐぶる求められました。そして残念ながら、私にこの力はほとんどなかったのです。だからしんどかった。周りには、とうとう卒業するまで私が追いつくことができなかった建築バカがわんさかおり、彼らの建築に対する熱情はその「考える力」をいとも簡単に鍛えて「作る」をしているように見えました（裏にはものすごい努力があったことが、今なら分かります!）。それなのに私は、どう考えたらよいか、自分なりの軸を持つことがずっとできませんでした。というより、「考える力」を鍛えるために、努力することができませんでした。誰だってしんどいことからは逃げた

でも、そうして考えていて見えてきたことがあります。「考える」ことの本当の意味です。私にとって、「考える」とは「自分じゃない」人や社会とつながる」ということなのではないか。自分の中のあのどう表現していいかわからないもやもやを、自分の中にどためたり「分かって!」と叫ぶのではなく、どうしたら相手に伝わるか「考えて

私は現在 Japan Management という前田建設のある事業部が独立してできた会社で働いています。学生時代は主に光環境や街づくりなどについて学んでいたのですが、インターンシップでディロップの会社に向っていた際に自分たちで作った建物をあちこち修繕しているのを見て、古くなっていく建物の維持管理をする事はとても価値がある事なのではないかと思うようになりました。そんな就職活動中に会ったのが今の会社です。

初めて配属された事務所では業務提携している法人の会社が経営している店舗の日々の維持管理、メンテナンスをするのが主なお仕事でした。私が担当させていただいたのは大手コンビニチェーンの会社で店舗数も多い上、24時間365日営業しているため店舗でトイレ詰りが発生したり、車両が突っ込んでしまったフロントガラスが割れてしまった場合などはどんな時でも店舗へ駆けつけなければいけません。あまり綺麗な仕事ではありませんし、何か起こるかもしれないという緊張感が常に漂っていますがそれが一つのやりがいでもあります。建物の悪い所を直してあげるとお店の方にもとても喜んでいただけますし、今建物を使用している方々の使い勝手を聞いて建物修繕してあげる事が出来るのも一つ大きな魅力です。

仕事に段々慣れ始めた頃本社へと異動になり、工事の取り決めをしたり監理をする側となって全国で行う一斉工事のプロジェクトを任せていただいたり、店舗の改装プロジェクトリーダーをやるチャンスにいただいたり、かなり重要な仕事を任せていただけるようになってきました。責任ある仕事で毎日忙しく働いておりましたが全国から工事についての質問やこんなやり方じゃ工事できないなどの苦情をいただくようになり、分からない事ばかりで悩む事もとても多くなりました。ほとんど大学で得た知識だけで現場を全然見た事がない私にははつきりとした答えを出せるものがほとんどなく、責任者として動くのはとてもハードルが高いものでした。それがきっかけでだんだんとそんな状況に違和感を覚え始め、もっと現場に出て自分の目で見て感じてスキルを上げていきたいと思い始めるようになりました。そこである日、会社と今自分が現場の立場で物事をもう少し考えられるようになりたいという事を伝えた所、意外にも現場で施工等を実際に行っている協力会社へ出向をさせていただける事になりました。自分が疑問に思う事は何でも会社へ言ってみるもんだと実感した瞬間でした。そして現在私は八王子にある地元の工務店で修繕の現場に行ったり、工事の見積作成をさせていただいたりしています。まだ赴任して日は浅いですが、建物維持管理は建物を通して人助けが出来る夢のある仕事だと感じています。

学生の皆さんはまだ自分が何をしたいか明確には分かっていられなくてもいいと思います。建築分野でもこういった仕事があるという事を知っていただければと思います。そんな私には入社して一つ夢が出来ました。それはいつか子供達に日々建物修繕に向かう自分達の姿を見てかっこいいと思われ、憧れてもらえるような仕事に就きたいです。そんな気持ちを大事にして今後も仕事に邁進していきたいと思っています。(JAPAN MANAGEMENT)

### ●file-46 「考える」を修行中

# 糠塚まりや

(H22 卒)

#### NUKATSUKA Mariya

2010年京都市大学工学部建築学科卒業（勝又研究室）／2012年東京芸術大学大学院映像研究科映画専攻／2012年読売広告社入社

「作って」いく。きっと、建築も同じだったのではないかな、今はそんな気がしています。あの頃ボヤボヤしていた自分の考えるための軸が、この頃ははっきりしてきたようです。そして、なんといいことも誰かに伝わるものを「作る」ことはとっても楽しい。5年後、私は色々かじったせいか、自分がどんなことをしているのか想像できません。結婚でもして、子どもとかいて。でもやっぱり誰かにきちんと「伝わる」ものを作っていられればいいなと思っています。(読売広告社)





## 女流ファイル- Part9

社会の多方面で活躍する女性卒業生を順次ご紹介しています。

# 望月美幸

(H03卒)

### ● file-47 本当の面白さに出会うまで



MOCHIZUKI Miyuki

1991年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業（鈴木研究室）／（株）伊藤建築設計事務所、（有）川口通正建築研究所を経て、2001年 望月美幸建築設計事務所設立

遠い記憶になってしまった学生時代。卒業して23年も経つのですから当たり前ですね。それでも、建築学科特有の「空気感」みたいなものは記憶として鮮明に残っています。そう、建築学科は特殊でした。そもそも建築学科を志望する学生は、「理系ならどこでもいい」という思いで選択する人は少ないのではないのでしょうか。「建築」という言葉に対する魅力と憧れ、工学部ながら芸術の匂い。分からないながらも、ある意志を持って選択するように思います。そして、実際の学生生活は、毎週末の課題に明け暮れる日々で、知力よりも体力勝負でした。時々、友人や先輩と交わり建築議論は少し背伸びした感じで楽しかったですね。

卒業後は、組織事務所→アトリエ事務所→独立という経緯をたどり、現在事務所を立ち上げて13年目になります。独立してからはもっぱら住宅設計専門になりました。住宅設計住宅設計の面白さって学校の授業ではなかなか伝わらないですね。でも実際やるとこれが面白い。いろいろな理由がありますが、第一に全て自分で決められること、そしてクライアントの喜びが直に伝わってくることでしょ。独立してから本当の意味で設計が好きになりました。

私自身本来の性格は、あまり緻密ではなく詰めが甘いタイプです。学生時代や社会に出たての頃は、こんな細かい仕事は向いてないかもしれないと悩んだこともありましたが、それでも長い間設計業界に身を置いていますが、設計から全く離れた時期も2年ほどあるのです。当時、バイト先のアトリエ事務所を使い物にならないとクビになり、でも食べていかななくてはならないので、不動産屋や中華料理店でアルバイトしながら生活していました。自信をなくして紋々



牧ヶ谷の家



駒越の家

### ● file-48 子育てを仕事に生かす

# 手塚由比

(H04卒)



TEZUKA Yui

1992年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業／1992-1993年 ロンドン大学バートレット校（ロン・ヘロンに師事）／1994年 手塚建築企画を手塚貴晴と共同設立（手塚建築研究所に改称、97.07）1995年 - 東洋大学非常勤講師／2001年 - 東海大学非常勤講師

度娘が3歳の時に設計を始めた。自分の娘と同年代の子供達のために設計をするのは非常にリアルで、娘を実験台にしなが色々考えられるのが非常に楽しかった。そうこうしてらしてきて「あたりまえ」のこともありませんが、建物を設計するにあたって明確なコンセプトを持つこと、施主・ユーザー・施工者など建物ができるまでに関わるすべての人々を巻き込んでプロジェクトを進めていくこと、現場では竣工までより良い建物とする姿勢を持ち続けること、これらは実務を経験していく中で常に心に留めておきたいことであり、特に現場に入ってから様々な人との打ち合わせの日々から良い建物を創りあげるためには、コミュニケーションが大切であると改めて実感しました。

（手塚建築研究所）



マンションのエコリフォームの様子（自宅）

### ● file-49 環境建築への想い

# 廣谷純子

(H07卒)

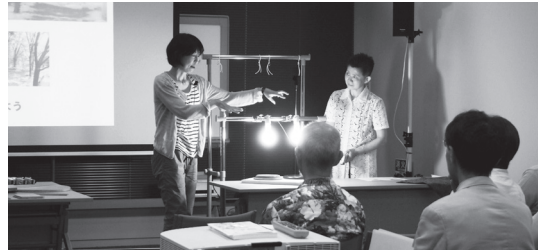


HIROTANI Junko

1995年武蔵工業大学工学部建築学科卒業（宿谷研究室）／1995-2003年 野沢正光建築工房勤務／2005年武蔵工業大学環境情報学研究所修士課程修了（宿谷研究室）／2005年-2011年オーガニックテーブル株式会社勤務（現 株式会社エコエナジーラボ）／2011年-みつっデザイン研究所代表

2011年末よりフリーで仕事を始めました。武蔵工業大学で宿谷先生に出会ってから、自分のテーマはずっと自然を活かす建築、パッシブ建築や環境建築を創ることです。卒業して20年近くが過ぎ、自分自身としては充実した気持ちで仕事に関わってこれたことを感謝する日々です。その理由は、宿谷研での研究を通じて、自分が気持ちいいと思う環境や建築は、エネルギーをたくさん使い、人工的で誰かにコントロールされた環境ではなく、自然の風や光、太陽の穏やかな暖かさや包まれ、自らに関わりながら創ることのできる環境であることに気付けたこと。そしてそんな自分のいいと思う建築を創っていくことが、施主にとっては健康的で光熱費のかからない住まいを手に入れ、それが地球環境を持続可能なものにするにつながる！こんなに一石二鳥、いや三鳥のようなやりがいのある仕事があるだろうか！とわくわくしながら社会に出られたことが大きいと思っています。

私が卒業した90年代は、環境建築というものには市民権を得ておらず、環境建築を創ること自体にテーマや課題があったので、卒業後は意匠設計事務所環境建築を創る仕事に携



「自然を活かした住まい方講座」中央区総合環境講座

### ● file-50 建築は人と共に

# 上島麻里乃

(H14卒)

UEJIMA Marino (旧姓: 添田)

2002年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業（岩崎研究室）／2002年-2006年 株式会社岩崎研究室 入所／2008年- 株式会社石本建築事務所入社



大学4年次に岩崎研究室に所属し、ゼミで武蔵工業大学75周年記念事業「体育館・食堂棟PJ」の基本設計、学部卒業後は岩崎教授のもとで実施設計・現場監理に携わり、その後4年間で「図書館棟PJ」「建築学科棟PJ」の基本設計から実施・現場監理まで関わりました。実際に自分が通ってきた大学施設の設計に深く関わるのが出来たことはとても幸運なことであり、この時に経験したことは今でも自分の礎として振り返ることが多くあります。

言葉にしてしまえば設計者・監理者として「あたりまえ」のこともありませんが、建物を設計するにあたって明確なコンセプトを持つこと、施主・ユーザー・施工者など建物ができるまでに関わるすべての人々を巻き込んでプロジェクトを進めていくこと、現場では竣工までより良い建物とする姿勢を持ち続けること、これらは実務を経験していく中で常に心に留めておきたいことであり、特に現場に入ってから様々な人との打ち合わせの日々から良い建物を創りあげるためには、コミュニケーションが大切であると改めて実感しました。

武蔵工業大学の記念事業PJを終えた後、石本建築事務所に入社し現在は2013年3月に校舎が竣工し今年の3月にグラウンドの整備工事を終える地域複合施設の現場監理を担当しています。このPJには統合する中学校および小学校の仮設校舎の設計から関わり、本校舎の実施設計、そして



豊葉の杜学園

### ● file-51 様々な経験を積み、いま貢献できること

# 西崎桃子

(H17卒)



NISHIZAKI Momoko (旧姓: 吉田)

2005年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業（手塚研究室）／2007年 武蔵工業大学大学院工学研究科修士課程修了（手塚研究室）／2007年 株式会社 ASK PLANNING CENTER / 2009年 サントリーパブリシティサービス株式会社 / 2013年 ハウスプラス確認検査株式会社

学生時代、建築の新たな有り方や付加価値を考えることが好きだった私にとって、入社した当初は学生時代に学んできたこと、実際の実務とのギャップに戸惑い、それは白紙の状態から建物が竣工する過程の中でのほんの一部に過ぎないと痛感させられました。

担当していた物件も主に官庁物件。その名の通りいわゆる「お堅い」建物です。様々な諸条件や色々なことから、建築に直接結びつかない雑務も多く、入社した当初は実務を学ぶこととその環境に慣れることに必死で、学生時代に感じていた建築の楽しさをついに忘れてちがりました。研究室柄アトリエ事務所就職した仲間も多く、「これが私のやりたかったことなのか」とフラストレーションを抱える日も多かったです。そんな中担当した一つの物件を通じて、私の中で組織設計事務所働くという考え方が変わりました。

それが金沢の裁判所です。官庁物件の場合施主が直接のユーザーではないため、こちらの提案がユーザーに届く前に相手先の担当者で却下されてしまうことが多々あります。幸いその担当者に恵まれたこともありましたが、そこで諦めてしまうのではなく「なぜこの提案がダメなのか、どうしたらその突破口を見出せるのか」、相手先の担当者も同じ設計チームの一員としてコミュニケーションを密に図り、一丸となって試行錯誤していけば、必ず良い提案は受け入れられ、実現に向けた第一歩が踏み出せるのです。それはまさに施主、相手先の担当者、設計者の垣根を越えた、まさに学生時代に培ってきた研究一丸となってコソバをやっていたような感覚に近いものがありました。

組織設計事務所働くことにおいても同様です。私の働いている事務所は大手組織設計事務所というよりは、もう少し規模の小さい中堅どころの組織設計事務所だと思っています。ただその分良い意味で組織として確立されすぎないため、若手から役員までの垣根がなく、また設計部はもちろんのこと構造部、設備部などともいわゆる「スプーンの冷めない距離」で対等に働いています。組織設計事務所の場合、その守られた環境に甘えて日々の業務を淡々とこなすことは簡単です。ですがそこで満足せず、組織というフィールドを上手く利用して自ら声を上げていけば、必ずチャンスは自分の物にし、様々な建築を実現させていくことができます。もちろんその分の苦労も多いですが、事務所規模がコンパクトで、その声が通りやすい環境に

るのも功を奏しているのかもしれない。

入社して丸6年が経とうとしています。昨年の10月からは会社の辞令により、約半年間の助勤という形で九州事務所働いています。ほぼ東京で育ち、社会人になってからも実家でぬくぬくと生活していた私にとっては、まさか今自分がこの場所

でこんな生活をするということだろうと

は、想像もしていませんでした。強制ではなかったため、もちろん断ることもできましたが、東京でなかなか実績の積めない案件を九州で学んで持ち帰ってきさせて欲しいという会社の声と、きつここのチャンスを今後の私をより大きくしてくれるだろうと思いつ、今新たに飛び込んでい

ます。

（東畑建築設計事務所）

### ● file-52 初心を忘れず、何事も自分次第

# 辻村典子

(H18卒)



TSUJIMURA Noriko

2006年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業（手塚研究室）／2008年 武蔵工業大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了（手塚研究室）／2008年 株式会社東畑建築事務所設計部入社



名古屋高蔵金沢支部・金沢地家簡裁庁舎 外観



名古屋高蔵金沢支部・金沢地家簡裁庁舎 内観

様々な業務を経験しました。サントリー美術館の運営、ビール工場での広報、子ども向け環境教育を行うCSR活動など、目まぐるしい部署移動の中、それまで経験したことのない業界に戻るかたちとなりました。美術館とは違う世界で改めて理解できたことは、自分の限界を決めずに挑戦し続けることの大切さでした。そしてそれは武蔵工大で過ごした6年間で学んだことであり、卒業後も多くの同級生や先輩・後輩の活躍に刺激と励みを受けたことで持続できたのだと思っています。

大学卒業後、2年ほど設計会社で商業施設の設計に携りましたが、その後の転職先として選んだのはサントリーホールディングスグループの、建築とはほとんど関わりのない、総合サービス業を行う会社でした。文化施設の運営に興味を持ったことをきっかけに選んだ会社でしたが、ここでは4年ほど

き出せるようなコミュニケーションを大切にしています。たった一つの誤った判断が大きな事故や損害につながる恐れもあるため、大変なこともたくさんありますが、より安全な建築を世の中に生み出す一端を担う仕事にやりがいを感じています。また、最近は審査業務と並行して、社内における在宅業務システムの導入企画も担当しています。知識や技術を持った女性が、結婚・出産・介護等の理由で仕事を辞めず、また生活にも負担を掛けることなく、働き続けられる仕組みをつくるためには、企業による積極的な取り組みが必要です。近い将来、自身や同僚が在宅制度を利用しての働き方を指し、女性がより一層活躍できる会社づくりに貢献していきたいと思っています。

（ハウスプラス確認検査株式会社）



# 女流ファイルPart10

社会の多方面で活躍する女性卒業生を順次ご紹介しています。

●file-52 全てつながる衣食住まで広がった私の原点

## 町田美紀

(H10卒)

スバルタ部活に明け暮れた女子校生活6年間を駆け抜け入学。通学路に男子が多く見上げながらドキドキしていた頃が懐かしい18歳。入学式の勧誘でアイスホッケー部に一目惚れ。あまりに歓迎してくださるので嬉しくて初日に入学してしまっただけで体育会系アイスホッケー部(マネージャー)。そんな私の大学の思い出はというと…課題が大変だったけども、友達に恵まれ助けられなんとか卒業した…そう、全く優秀でない大学生…

そんな不真面目な大学生だったのにも関わらず、このような執筆の機会をいただいしまい恐縮ながらもとても嬉しいのです!建築学科4年、実は中退してしまっただけで大学院を合わせると5年間。私の「今」があるのは、武蔵工業大学の5年間だったといっても過言じゃない。いやむしろなんです。ちなみに夫は高校から「武蔵工業大生」です。(H11年土木工学科卒 町田咲郎)

3年前、東京生活を一旦卒業して家族で高知にUターンしました。現在は夫と高知県でデザイン事務所兼一級建築士事務所を経営し、夜は市内で自然派ワインバルも運営しています。また、デザインの方も一歩踏み込んで SoulSoils というライフスタイルブランドを立ち上げました。地元で素晴らしい食材を作っている方々の農産物を自分がプレゼントしたいと思えるカタチへと、商品開発をゼロからしています。現在はオーガニックブレンドティー6種のみですが、企画から販売、販路開拓まで全て自分達でやってみて初めて商品開発の苦勞を体感したりと、デザインをご相談していただいた際



BAR VALERIAN



MACHIDA Miki (旧姓:久保内)  
1998年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業(谷口・天野研究室) / 2001年 (proto設立/2007年 and.一級建築士事務所設立)

に、表面的な問題だけでなく、根本的な理由を見つけ出し活かす事ができたりと2Dから3Dで物事を考えられるようになってきたように思います。

現在、都心での店舗立ち上げに携わらせていただいておりますが、店舗設計、ブランディング、グラフィックデザインなどと共に、ワインのアドバイス、食材のご紹介などもリアルタイムで携わらせていただいております。田舎と都心をつなぐお仕事をしたいと思いUターンして3年目になりますが、好きな建築、向いているデザインという2つを軸に活動させていただき、ようやく自分達だから提案できる形が少しずつ見えてきたように思います。

昔からひとつの目標でもあった『場』を作る事。みんなでワイワイするのが大好きな性分。酒を飲んだら一気に友達。という根っからの酒好きの文化育ちのおかげで学生時代から様々な方と交流させていただき、常にいろんな角度、立場から考えられるようになり、また、建築で空間を考える機会が何度も何度もあった事で、自分ならこういう空間をいつか作りたいという思いをずっと持ち続けられました。

そう、空間は人が動いてなんぼ。活きた空間こそ目指す『場』。お店に人が集まってワイワイしている空気感を感じながら、東京、高知に続き次なるステップ、3拠点目となる海外への夢を実現させる為に走ります!

(and.一級建築士事務所)

私が入学した1977年は、女性が大学にまだ少なかった時代です。入学試験の時は建築学科の一般教室(多分、7号館)には女性のトイレがなく、別の校舎に歩いていき「この学校でやってくれるかな」と、思いました。建築学科に6名の女子学生が入学してから、7号館の1階のトイレの扉が全てピンクに塗られ、「よかった」と安堵したことを覚えています。その頃のキャンパスは、見渡せば少し汚れた黒っぽい服を着た男子学生ばかりで、学校のイメージはコンクリートのグレー一色でした。しかし、今は明るいファッションの女子学生が沢山入っており雰囲気すっかり変わったように思います。当時、デザイン研というサークルに所属し、学祭に向け、建築作品を展示するために、今の主人と泊まり込みで頑張ったことが一番楽しかった思い出です。

入学当初は意匠設計を志していましたが、どこを間違ったか、「今の主人と違うものを勉強しておこう」という軽い気持ちから、構造の研究室を選び、そのままゼネコンに入社して構造設計者となりました。そんな軽い気持ちでゼネコンに入社したわけですが、建築は1つ1つオー

先日ある方の講演を子供と一緒に聞きました。

その方は幼少の頃から非常に数学が得意で、小学校低学年ですでに中高生の勉強をしていたそうです。そのため将来は数学を生かした職業につきたいと考えていたそうですが、中学に入るとそれをはるかに上回る同級生に会い、上には上がいるということに気が付かされたそうです。

その講演会には、自分たちが得意な教科を一生懸命勉強し、人より進んだ勉強をしていることで表彰された子供たちが集まっています。その子供たちに対して、「自分が得意と思っても、実はそうだった人たちは世界を見ろといっぱいいるんだよ。でも君たちが何が誇れるかと言うと、人より進んだ勉強をしたことではなく、日々努力し続けたことが自分の財産で誇りです。だから将来自分が何の仕事をするか考えた時、何に対してであれば努力し続けられるのか?ということを考えて下さい。」と語っていました。

私は現在大学の時の同期と設計事務所を運営していますが、いろいろなクライアントにお会いし、各物件ごとに計画を考え現場監理をすることは楽しいところもありますが、大変なことも多くあります。そんな中でもクライアントの要望・予算を満たし、かつクライアントが想像しているよりもより良い空間を提供するにはどうしたらいいのか、日々考え夜な夜な格闘する毎日です。

自営業の大変さ・子育てとの両立など悩みつつありますが、現場でクライアントと同行し驚き・喜んでも頂いた顔を見ると、また頑張ろうと思えます。

そういった仕事を見つけれられたこ

●file-53 建築は楽しい

## 鈴木裕美

(S56卒)

SUZUKI Yumi (旧姓:井上)  
1981年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業(安藤研究室) / 大成建設(株)設計本部構造設計画部長

ダーメードで、工夫の宝庫でした。工夫を考えているときと、それが実を結んだ時が一番楽しく、あつという間に33年間が過ぎてしまいました。

最近、古い耐震基準で建設された建物の耐震性能を調べ、補強を考える仕事を専門にしています。ビルオーナーや居住者にとって、悪い診断結果と耐震工事は病気の告知と治療と同じで、「元のまま安全である」と言ってほしいと願われています。また、構造の良し悪しは見た目ではわかりにくいものです。いくら「安全」な構造であっても、信頼してもらえないければ「安心」を提供することはできません。そのためクライアントとよく話、付加価値をつけた魅せる構造で、古い建物を蘇らせるべく、いつも楽しく工夫を加えるような心がけています。耐震補強と言えは小学校のブレース補強を想像しますが、写真のように既存の水平と垂直のデザインを生かし補強をすることもあります。

今回の女流ファイルに載せていただくきっかけになった理由は、如学会の山岡会長が私の「女性技術者として初めて構造計画部の部長に就任」という新聞記事を見ていただ

(大成建設)



千葉農業会館の外部補強(既存建物と調和するグリッドフレーム補強)

●file-54 努力し続けることについて

## 倉水恵

(H06卒)

KURAMIZU Megumi  
1994年武蔵工業大学工学部建築学科卒業 / 1994-2001年(株)ギルドデザイン勤務 / 2001-2004年アトリエ天工人勤務 / 2004年 AtelierMEG 設立 / 2009年(株)アーキグラム設立



テラスK

とがとても幸せであると思います。

ニートやブラック企業など就職についてはいろいろとニュースになっています。

簡単には見つからないとは思いますが、紆余曲折ありながらも、子供たちが打ちこめる仕事を見つけたく

たことによります。この記事は、建設業界における女性進出がまだまだ遅れていることを露呈しているようにも見えますが、今の女子学生や新入社員の皆様とお話していると、強いエネルギーを感じ、これからは何も心配ないように思います。また、少し先輩として、若い女性技術者のお手本となれるよう研鑽してゆきたいと思っています。



ITO Miya  
1998年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業(手塚研究室) / 2000年武蔵工業大学大学院工学研究科修士(手塚研究室) / 2000年 三上建築事務所 / 2006年 伊東豊雄建築設計事務所

卒業後、三上建築設計事務所に入社し、その後、伊東豊雄建築設計事務所に入った。当時、伊東事務所は台湾の2つの国際コンペ、高雄スタジアムと台中オペラハウスに勝ったばかりで、その設計に参加したく入所を希望した。そのこともあって、台中オペラハウスの実施設計、松山台北文創ビルに携わることになった。特に後者は、基本構想から施工まで5年間をかけたオフィス・商業・ホテル・文教施設からなる10万㎡超の複合施設の計画だった。台湾のローカル建築事務所と共に国内物件に近い形の設計監理を行ったために、1年の1/3以上を台北に滞在する生活になる。

羽田一台北松山間は3時間超のフライトで、食事も日本人にあうこともあって、海外という気構えもなく済んだが、海外である面白さや困難さを強く感じたのは現場監理だった。

まずは、毎日のように怒っていたクライアントが印象深い、呼び出されて緊張の面持ちで会うと、設計変更に関して罰金と言われることもあれば、1時間近く世間話を聞かされることもあった。多くの人はおしゃべり好きで、結論の出ない会議は、毎回とても長かった。

一方、ものづくりが大好きな人がちらりほらりと混っていた。几帳面で細密な施工図を書く方、細かいディテールのサンプルを作ってくる内装業者、一緒に感情的に話してくれる通訳、良いねとおだてると自ら創意工夫してくれる職人、等々。

現場は決して綺麗ではない。石材

## 伊東美也

(H10卒)

●file-55 海外での建築

やボード等資材を室内でカットするために粉塵によって白く霞んでいた。建設と解体が同時と揶揄されるほど、精度の悪さもあってはつり工事が続くのも一因だ。昼時にもなれば、職人達は壁際や資材の上を上半身裸で転がって寝て、檳榔(ピンロウ)を噛んで真っ赤になった歯を見せてわざと笑った。

南国気質のゆるさがあるものの、その場でつくりあげていく雰囲気があった。様々な立場、異なった価値観を持った人の集まりの中、設計者である自分の存在はその一片だった。設計の意図を伝えること、要望を伝えることに対する、相手からの提案、そして拒否。無数のやりとりの中で、理解できない結論もあつたし、皆が納得できない結論もあつた。

国内以上に、個人が持つ差異を理解し、その国・現場でのやり方を自分の中で消化していくことは、非常に悩んだ部分だ。うまく行かなかった点も多くある。それでも、沢山の人のよって成り立つ建築という行為の本質を垣間見れた気がした。大きなコンセプト、全体像は実現できたのではないかなと思っ

(伊東豊雄建築設計事務所)

注:今回の「如学会台湾ツアー」に先駆け、伊東氏に面会。ツアーの3日目に松山文創ビルを訪問しています。(関連記事P11-P13)



松山台北文創ビル



●file-56 結婚・子育て…そして建築を続けること

## 増野郁子

(H03卒)

MASHINO Ikuko  
1991年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業/産産住宅相互(株)/カナダワーキングホリデーにて1年滞在 / I.N.A 新建築研究所を経て、2000年入江三宅設計事務所入社

経験が自分の根底となっています。何か壁にぶつかったとき、「今できることは何か」常にそう問いつけるようになりました。

最近では、20階建ての事務所ビルの設計・監理に携わりました。設計時は数人のチームでしたが、その後は2人が残り建物ができあがるまで見届けました。竣工したときは、設計時を振り返り感慨深いものがありました。都市計画や基準法の中でいかに施主の要望を盛り込み、より良い建築を送りだすか。現場に入るとさまざまな困難もあり、判断に迷うこともあります。その時は常に「この建物にとってよい方法は何か」を念頭におくことにしています。優柔不断な私でも、そう考えることでおのずと解決策が見えてくる気がします。

今の事務所では人にも恵まれました。必ず相談に乗ってくれる先輩が

いました。落ち込んだときも愚痴を聞いてくれる先輩がいました。そして、同業の夫が一番の理解者です(被害者かも(笑))。気が付くと、二人の子持ち。時代も後押ししてくれて、育児と仕事のバランスをとりながら設計の仕事が続いています。職場の同僚や、上司、そして夫の理解や協力が不可欠ですが、それも難しい時代になりました。「今日、僕お迎えだから」そんな言葉が性別問わず自然と聞けるようになりました。お互いに助け合いながら仕事を

する。そんな理想的な働き方ができる時代だからこそ、後輩にはぜひ頑張ってもらいたい。結婚しても、子供を産んでも、働くこと、建築を続けることをあきらめないで。応援しています。(入江三宅設計事務所)

●file-57 卒業してから

## 十河麻美

(H16卒)

SOGO Mami (旧姓:津田)  
2004年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業(手塚研究室) / 2010年(株)キョーオペレーション / 2012年 SOGO 建築設計設立 / 2014年 第31回住まいのリフォームコンクール(H26年度)企画賞受賞

卒業してから8年後の2012年の春に私は独立して事務所を設立しました。何でもしようという気持ちで始め、海外ブランドの店舗やマンションのリノベーションといった仕事をしてきました。現在はいくつかの店舗と小さな福祉施設の設計を進めています。多くの人々に助けてもらいながら、これまで何とかやってこれました。

大学を卒業した時、私には何かをやりたいという強い意志があったわけではなく、その後の数年間はいくつかの仕事を経験しました。建築家のアトリエでのアルバイトが始まり、大手ハウスメーカーでのCADオペ、東京都の公立学校の耐震診断員、財務省のシステムデスク、3Dレンダラーまで様々な場所で様々な人々と仕事をする機会に恵まれました。お給料が良かったので、高級料亭の仲居というのもやりました。どの仕事もそれぞれに面白みと苦労があり、充実した時間を過ごすことができました。2008年、そうした中で転機が訪れました。結婚した夫がUCLAの大学院に留学することになり、私は思い切ってついていくことにしました。幸運にも私の生活費も夫のフルプライム奨学金が賄ってくれるということになり、私たちのロサンゼルスでの生活が始まりました。ロサンゼルスでの生活は私に建築

の面白さを改めて感じさせてくれるものでした。著名な建築家が設計した現代建築だけでなく、ブラッドベリービル等の名建築が活き活きと使われている姿を肌で感じる事ができました。またアメリカのいくつもの場所を訪れる中で自然と都市の関係についても考えられました。夫の大学で頻繁に行われる世界的な建築家や批評家のレクチャーに潜り込んだりもしました。当初まったく英語ができなかった私は何とかなるという楽天的な考えでの渡米でしたので、いろいろと大変な思いもしましたが、ロサンゼルスで素晴らしい青空と海が常にリフレッシュする機会を与えてくれました。私の中でも



ZARA 原宿店



う一度、建築をやりたいという気持ちが高まりました。夫の卒業後、奨学金の規約で帰国することとなり、私は建築設計事務所働く機会を得ました。それからの2年間、店舗、住宅、集合住宅、リノベーションという多様な仕事の担当を任せられ、生活は多忙を極めました。多くの事を学ぶことができました。そして思い切って独立し、今の生活がスタートしました。私がこれまでに様々な場所で経験した出来事や会った人々から学んだ多くのことを、建築の設計にきつと活かしてゆけると感じています。(SOGO 建築設計)



## 女流ファイル-Part11

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。

# 松島咲季子

(H21 卒)

●file-58 「学びの楽しさ」「夢をもつことの大切さ」を伝えたい



MATSUSIMA Sakiko

2009年 武蔵工業大学建築学科卒業（手塚研究室）  
2009年 丸善株式会社 入社  
2012年 株式会社イトーキ 入社 現在に至る

今の自分の夢を形成した時間の中で、最も影響があったのは大学での4年間でした。当時は、先輩・後輩間の風通しが良く、自然と教え合う・学び合う環境がありました。同級生と朝まで将来について語り合ったり、チームを作って先輩の設計を手伝ったり、学ぶこと・設計をすることが楽しくて仕方ないという時間を過ごしました。就職をした先では高等教育を中心とした教育施設の空間設計を担当しました。教育市場では、主体的・能動的に自主学習をする場の構築が全国に広がりを見せており、私もそのような場の空間設計を行いお客様に提案する日々が続きまして。お客様の話を聞いたり、様々な大学を訪問したりする中で、ある課題に気づきました。学生の学びに対するモチベーションが非常に低いのです。何を学びたいかという目的を持たずに大学に入学する学生が増え、夢をつくることもできず社会に出ていく。そのような状況だからこそ、主体的に学ばせる空間・仕掛けをつくることが求められていたのです。私は一業者の立場でしたが、単なる空間の設計ではなく、学生のモチベーションに訴える学びの仕組みを作れないかと常々考えていました。そんな矢先、東京都市大学から二子玉川につくるサテライトキャンパスの設計の話を頂きました。求められていたのは空間の設計でしたが、私はここ



YUME CAMPUS プロジェクト資料

で起こる“コト”のデザインをお客様に提案しました。最終的には、この場所を訪れる人たちが夢を見つけて、夢を叶えるための準備ができる場をつくることになりました。大学に入学する前のこどもたち、大学に在籍している学生、企業人、地域の人、教員がチームを作って、夢をつくっていくキャンパスです。そこで作られた夢を持って大学や社会に入っていく人を一人でも増やすこと、それは私の夢であり、大学がもたらすことができる最高の教育だと思えます。現在は「二子玉川 YUME CAMPUS(仮称)」というコンセプトでチームを作り、6月のオープンに向けてプロジェクトを推進しています。母校である東京都市大学が新しい学びの可能性を日本に発信する日はもうすぐです。このような想いをもって仕事ができているのは、あの大学の4年間で学ぶことの楽しさを実体験できたことが全てでした。今、卒業して6年、そんな体験をできる学生・こどもたちを一人でも増やす！という志を掲げて、日々邁進しています。大きな志です。そう簡単には実現できないことも承知の上ですが、大学で体験した学びが志・夢をつくり、実現できるということを証明することが、自分の目指す“未来”に近づくと思っています。

(イトーキ)

●file-59 無駄な経験はない

# 長谷川朋子

(H03 卒)



HASEGAWA Tomoko

1993年 武蔵工業大学大学院修士課程修了(広瀬研究室)  
1993-1997年 (株)彰国社  
(フリー・派遣など)  
2011年 (株)国際文献社

教育の小論文添削もしました。今思うと自分が不安定だったのか、大学の通信課程で心理学を修め、認知行動療法系のカウンセリングも学びました。ヘルパーの資格も得、訪問ヘルパーや病院の看護助手も経験しました(今も足立区の知的障がい者自立支援のボランティアで言語・コミュニケーションの指導を担当しています)。そして苦勞の末に離婚をしてからは、正社員として再就職、再婚と人生をやり直しています。今の仕事は、学術団体のアウトソーシング会社の編集部門で、論文の査読管理から学会誌の編集などをしています。この職を得た理由は、理系大学を出ていて、編集や工場経営の経験、さらに心理学も学んでいることでした。辛いことも含めてすべての経験が報われたと感じました。私の担当学会は心理系、福祉系、経営系などありますが、先生方とお話するにも話題に困ることはありません。まさに建築系という担当

学会がないのが残念なところですが、七光りがなくても自分の力で仕事できています。一昨年のGWに、高崎の上野国分寺にはじめて行きました。ここには、学生時代に広瀬研究室総出で作成した南大門の復元模型(写真)と広瀬先生の設計したガイダンス棟があります。模型とは20年余りの時を経た再会。広瀬先生が仁王像を彫っている横で、先輩と瓦をどう表現するか試行錯誤し、木型を作ってシリコンを流し1列づつ作る方法を編み出した時、本当に嬉しかったのを思い出しました。建築を修士まで学びながら、設計もせずその証を残すことができなかったと思っていました。こんなところにひっそり残っていたのを確認できたのは、何よりも勇気をもらえたように思います。

(国際文献社)

●file-60 あをによし平城の京は  
咲く花のにほふがごとく今さかりなり

# 戸倉三和子

(H02 卒)

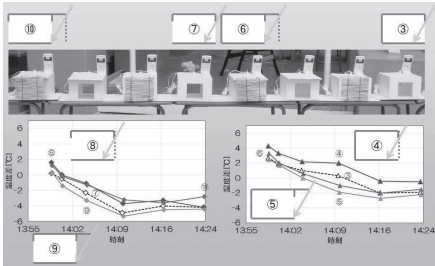


TOKURA Miwako

1992年 武蔵工業大学大学院工学研究科修士課程修了(宿谷研究室) / 1992~1997年 東芝ライテック株式会社 / 2002年 東京工業大学大学院総合工学研究科博士課程終了 / 2002年 独立行政法人建築研究所 / 2008年 帝塚山大学現代生活学部居住空間デザイン学科准教授

「青丹よし」とは「青=山の緑」と「丹=社の赤」の塩梅がいいという意味(諸説あり)だと、つい先日、春日大社の神職さんから聞きました。今年は20年に一度の春日大社の式年造替で、御廊の屋根の檜皮葺の工事の様子を見せていただきました。昨年は葺き替え工事が完了したばかりの正倉院の瓦屋根、一昨年は修理中の薬師寺の東塔の水煙など、普段は遠目にはしか見られないものを間近で見ることができました。解体修理前の薬師寺の東塔の心柱が基壇に乗っているのを見たときは、「本当に乗っかっているだけなんだなあ」と感激しました。ふらっと国宝を見に行けるところが奈良に住む利市(市立学校の「世界遺産学習」も「なら」では)です。あまりに普通にあるので、学生はその恩恵を感じていないようですが、東京の学生にとってはうらやましい環境だと思

ます。家政系の学科は建築学科と違い、いわゆる文系の学生が多いせいか、「そこから教えるの?」と思ったこともあります。「そう来るか!」と思わされることもあります。計画系の教員が多いなか、環境・設備系を一人で担当しており、光だけでなく、熱、空気、風、なんでもやっています。昨年、設計製図実習の指導にも参加することになり、自分が1年生の時を思い出しました。図学を担当していたので作図はしていましたが、設計製図は一級建築士の試験以来で、トレース課題(白井晟一!)を読み解いているうちに終わってしまいました。修士課程を修了して就職した照明メーカーを5年弱で退社、他大学で5年かけて学位を取り、つくばの研究所に6年、いつの間にか今の大学が一番長くなっています。7年もいると学科の運営などの業務も多くなり、それぞれの学



庇や簾の有無による箱模型内の温度変化の違い

生の利益と学科の学生全体にとっての利益とのバランスを取る難しさに悩まされています。大学を出てから業種も職種もバラバラですが、卒論・修論のテーマは博論につながり、今もとぎれとぎれに細々と続けています。家政系の学科にいても工学部建築学科卒の建築環境「工」学へのこだわりは持ち続けたいと思っています。秋に正倉院展に並ぶのも、お盆明けに宿谷研の後輩の大学に避暑…ではなく集中講義に行くのも中行事になりました。この記事が掲載される頃には、「初」東大寺の修二会(全国的には「お水取り」として有名)を体験して、奈良の寒さを「確認」していると思います。蒸暑くて底冷えしますが、マイペースな母と息子にはちょうどいい時間の流れがあり、もう少し住んでもいいなと思っています。(帝塚山大学)

# 大木佳子

(H20 卒)

●file-61 「学びの楽しさ」「夢をもつことの大切さ」を伝えたい



OHKI Yoshiko

2008年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業(住吉研究室) / 2008年 川崎市役所入庁 / 建築指導課へ配属後、2011年から住宅建替推進課、2014年から建築管理課に配属

関わる仕事していました。特に省エネルギーについては、技術も進み、新たな取り組みが展開していく分野として注目されているので、部署を離れた今でも、その動きに興味を持っています。次の住宅建替推進課では、市営住宅の建替え、躯体を残して中身をリニューアルする長寿命化を計画する仕事に就いていました。ここで初めて住民説明会を経験させてもらったのですが、直接顔を合わせて説明したり質問に答えたりすることにやりがいを感じ、自分にこんな一面があったのかと発見することもできました。そして建築管理課では、建物を建てる時に守らなくてはならない基準を時代に合わせて修正したり、作ったりする仕事をしています。改めて様々な仕事に関わらせもらったと思いますが、建築に関わる分野の全てが「まちづくり」に繋がっていますので、少しでも多くのことを知り、出来たら直接経験していくことが、まちづくりを仕事とする私の成長につながるのかと思います。また、これからは地域の方々や様々な分野の企業とも連携した仕事が増えるとされているので、日々の仕事に奮闘しつつも、大きな視点を忘れずに、色んな人という関係が築けるよう、人としても成長していきたいと思っています。(川崎市)



# 永井沙知

(H25 卒)

● file-62 まだまだ未熟者ですが



NAGAI Sachi  
2013年 東京都市大学大学院修士課程修了(新居研究室)  
三上建築事務所 建築設計室



専門学校完成予定イメージ

大学院を卒業し、現在の事務所で働いてきた2年間はあっという間で、まだまだわからないことが多く、建築の現場に自分がなじんでいないように感じています。そのことは自分をとても不安にし、いつになったら一人前になることができるのか、私は今後どうなるのかをよく考えます。

私は学生の頃から『大勢の人々に喜んでもらえる素敵な空間を作りたい』という思いがありました。多くの公共施設を手がけている新居千秋先生の指導を受け、研究室のみんなと意見を交わす中でその思いは強くなり、公共施設を多く手がけている現在の事務所を就職先として選びました。

そして初めての実施設計業務は約3000㎡の専門学校でした。大勢の人々が活動を共にする場という、私がずっと設計してみたいと思っていた機能、規模のプロジェクトに参加させてもらい、その後の監理業務まで経験させてもらえることになりました。施主の方々との打合せでは学生の頃の設計の授業とは違い、自分たちの作った模型や提案に対して良いことも悪いこともリアルな反応が返ってくることはとても新鮮でした。

施主の方々との意見を出し合い、ともに

ひとつのものをつくっていく工程はとても面白く、これからの監理の中でそれが少しずつ形になっていく様子を見ることは今からとても楽しみです。学生時代にやりたいと思っていたことは現在の事務所で働いていれば経験できるだろうと思います。業務以外の日常のささいなことでもかっこよさ、素敵さ、世の中に対して良いことはなにか等、事務所の人たちで意見を出し合い考える今の環境にも満足しています。

しかし、将来のことを考えると不安になることもあります。結婚もしたいし、子どもも欲しい。建築の仕事も続けたいけど、他の世界も見てみたい。このように将来について考えることはたくさんありますが、考えすぎて今の仕事に身が入らなくなることもあります。そんなときは考えることをやめ、とにかく自分が納得するまでやってみようと思うようにしています。まだ働き始めて2年しか経っていませんし、これから学べること、やりがいのある業務と出会う機会もあります。それらを全てやりきってみようと思います。そこから先はなるようになるし、なんとかなるのではないのでしょうか。数年後には大きく成長した私の活躍を披露できることでしょう。

(三上建築事務所)

● file-63 大学と卒業してからの8年間

# 赤松美和子

(H17 卒)



AKAMATSU Miwako  
2007年 武蔵工業大学大学院修士課程修了(岩崎研究室)  
/森ビル株式会社

大学、大学院と6年間を大学で過ごしました。眠い目をこすりながら、毎週の課題提出に追われていたのが昨日のようです。大学時代は優秀な人達に恵まれて、いつもいつも考え込んでしまい課題の進まない私をみて、アドバイスをしてくれたり一緒にディスカッションをしてくれたりと毎度助けられました。まわりの人達がいなかったら頑張れなかったな、と感謝ばかりです。密度の濃い時間を一緒に過ごせて本当に幸せな時間だったとつくづく思います。そして、社会に出てからですが、早くも8年の月日が流れようとしています。所属している会社は変わらないのですが、この期間に自身でも驚くほど多様な仕事を経験し

ました。最初に配属された設計部では、入札物件、大規模物件の設計、住民説明のアシスト、現場監理、個人の方の建替えの企画設計などを行いました。建物規模も超高層から、数階建ての建物までさまざまでしたし、街づくりの会社らしく未来の都市研究なども進めていました。次に配属になったマーケティング部/商業施設事業部では、商業の担当として購買動向、流行、家賃相場の調査などから新規物件の企画業務を経験しました。新規の商業施設のMD作成、潜在需要を見極めながら店舗の業態開発は、非常にやりがいがありました。お客様にどうやって楽しんでもらうかということに加え、自分だっ

たらどんなお店やサービスが欲しいのかを突き詰めて考え、協力いただきたい店舗の方にお話をもちかけて具現化していく行為は、苦しくもありましたが楽しい仕事でした。商業の企画は、街の運営の仕方や仕組みと密接に関わるので、先進的な取り組みをしている都市を実際に歩いて、研究するなど街の運営についても本当に良く考えました。現在は、住宅の事業部に所属し、既存物件のリニューアルや新規物件の住宅商品の企画を進めています。都市計画から街の運営まで幅広い業務をしているからだと思いますが、8年は経ったものの、まだまだ知らないことが多く必死に勉強をしている毎日です。私は学生時代、目の前のことに必死

で余裕がなく建物の意匠のことはばかり考えていましたが、漠然と街との関係や運営が建物自体よりも大事なのではないかと感じていました。現在、街づくりの会社に所属して、建築とは違う分野のことを考えたり分野の違う方とお話をするのも多いのですが、より広い視点で建物を見ることができるようになり、建物は一要素でそれを取り巻くプログラムづくりがとても大事なのだと思うようになりました。そのように考える視点が広がったことは、私自身の大きな成長だと思っています。

今後も引き続き、より良い街のあり方を考えていきたいです。  
(森ビル)



## 女流ファイル Part12

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。

# 白井尚美

(H10 卒)

■file-64 あれから17年、40歳になりました



**SHIRAI Naomi** (旧姓：塩谷)  
1998年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業(宿谷研究室)、1998年4月～2003年3月まで栃木県立高校教諭、2003年4月から東京都立墨田工業高等学校 定時制教諭

大学を卒業して17年、栃木県の工業高校を経て現在は都立高校定時制で教鞭を執っています。私を知る人なら、玄能で鑿を叩くつもりがおもいきり指を叩いたり、つま先に単管パイプを落したり、わけもわからずボクシング部顧問になりセコンドに立っている40歳の私の姿は容易に想像できると思います。生徒から先生と呼ばれるその意味は、先に生まれた人だけであることは十分承知しています。

建築家になりたくて大学に進学したものの、奇抜なデザインを競い合うような授業の一方で、地球規模で深刻化する環境問題に対して建築は何ができるのかを考える授業があり、建築の正義を見つけたくて先生になりました。環境問題の解決には建築を扱う人間の教育が欠かせないとの思いに反して、生徒にはエクセルギー、エントロピーの話は子守歌にしかならず、大学時代から変わらない大声だけが授業中の睡眠妨害に役立っているようです。

現在、母親、技術者、研究者として活躍している優秀な同級生ではなく、今も未熟な私がこの原稿を書くことになったのは、勤務校の全日制が実施する講演会の講師が同級生の栗田君だったという偶然からです。講師名を見てこんなことがあるものかと驚きました。東日本大震災の被災者の方々に寄り添う栗田祥弘建築都

市研究所の活躍は、大学時代から変わらない栗田君の優しさが垣間見えるものでした。

こんなふうには活躍する卒業生の方と出会うたび、素晴らしい皆様と同じ大学で学べたことに誇りを持ち、恥じない生き方をしようと強く思います。夫は土木科卒の同期ですが現在は設計事務所でマンションやホテルの設計をしています。実務経験のない私にはありがたい存在です。勤務校全日制の野球部監督は電気電子科卒で準硬式野球部の後輩です。人ごみの駅前で、機械科だったの部活の同期を見つけたこともありました。今はスポーツライターとして活躍しているそうです。栗田君から建築業界の底上げにつながる教育の舞台の楽しさ、大変さなどを簡単に紹介してもらえたらと思い僕が推薦させて頂きました、というありがたい言葉をいただきましたが、工業高校の生徒の中には皆様の想像を超える生徒がたくさんいます。大変です。先生を悩ませ、困らせ、達者な言葉で反抗します。そんな彼らが社会に育てられ立派になった姿を見ることが今の私の働く原動力です。最後になりますが、もしかしたら教え子が皆様にお世話になるかもしれません。その時はよろしく申し上げます。皆様のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(東京都立墨田工業高等学校)

■file-65 進路を決めるということ

# 伊瀬知侑子

(H17 卒)

**ISECHI Yuko**  
2005年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業(勝又研究室)、2005年 東急ホームズに入社、注文住宅部門の設計として配属され、現在に至る。

然と思っていたわけですが、中々就職が決まらない中で、とにかく設計職に就きたいと思って活動していました。希望の設計部門に配属になった時は嬉しかったですね。最初は、やはりCADオペや積算等、先輩方の補助的仕事でしたが、2～3年目からお客様との打合せに出掛け、要望を聞きプランを書き、着工させるという所謂住宅メーカーの設計を今現在までしています。住宅メーカーの仕事は、大学時代、雑誌や展示会にある様な建築物とは異なり、商品化されたモデルを軸に設計し、商品を「売る」という感覚が強いです。必ずしも自分が良いと思っているものを作れるわけではないというのが、私にとっては社会に出るという事



なのかなと理解しています。それでも、私の前には、夢や希望を持ったご家族がいて、それを形にすると思うとワクワクしますし、責任も感じます。住宅産業はクレーム産業と言われる通り、時には厳しい言葉をもらう事もありますし、言葉だけでは済まない事もあります。そうやって10年を過ごし、私の心臓には何本もの毛が生え、苦手だった人前も難なく熟せる様になりました。何となく選んだ道でしたが、担当した邸は100棟を超え、設計としても脂の乗った中堅層、休みも少なく働いていますが、今ではこの仕事を誇りに思っています。

(東急ホームズ)

■file-66 「あきらめなければ、成るように成る(と思う)」

# 木南沙織

(H12 卒)

**KINAMI Saori**  
2000年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業(勝又研究室)、建築パース事務所退社後、セツ・モードセミナー美術科へ入学。個展、水彩教室(ワークショップ)、各種イベントを経て、現在水彩画作家KINAとして活動中。2014年 絵本「泣けないサボテン」(文・なすかつら 絵・KINA)でBe絵本大賞受賞。



私は水彩画の絵描きです。建築時代の私だけを知っている人は「随分と柔らかくなったねえ」と驚くように言います。それが「人柄」なのか、描く「絵」のことなのか…きっと両方なのだろうと思います・笑。私は幼少期から絵を描くことが好きな子どもでした。

「なんか静かなあとと思って覗いたら、アンタはずーと紙で遊んでるんよ」と母に今でも言われるくらい、紙さえあれば、何時間も大人しく過ごすことができる子どもでした。だから大抵母は私の傍に紙、鉛筆、あと子ども用のハサミを置いていました。絵を描くのと同時に、紙を切ること「ものを作ること」が好きだったからです。建築学科に進んだことを今振り返ると、それも私にとっては自然のことだったように思います。建築という仕事に直接携わらない今でも、あのころを思い出せば、楽しかったなと思いますし、私の仕事場や作品の所々には、そのころ得た知識や知恵が便利にちりばめられています。建築学科を出たのに、建築と関係ない仕事をしている私ですので、初めはこの原稿を書くこともお断わりしようと思いました。でもよくよく

考えると、大学での学びが全てではないのですが、何もなかったか?ということも決してない。学んで気が付くこともたくさんありました。私は建築設計が好きでしたが、中でもプレゼンテーションの作業が好きでした。自分で頭の中で想像したものを、人に見えるように形(模型)にする。絵(パース)にする。出来上がりが見象化してくると、興奮する。その工程がたまらなく好きだと気が付いたことは学生の頃の大きな収穫です。それも最初から最後まで自分でやりたいタイプ。建築ではちょっと無理ですが、絵本の世界ではそれが限りなく可能でした。(もちろん誰かとコミュニケーションを取りながらやる作業は感動も達成感も2倍、3倍とあります。だからたまにはいいんですよ。)今私のやっている作業もすべてはプレゼンテーション、昔と何も変わりません。頭の中で「いいなあ」「素敵だなあ」と思っていることを目に見えるようにしているだけです。自分のことを徒然と書いてきましたが・・・、偉そうに言う私も、すべては途中です。よく道を迷い、うろろろしています。生きている間、ずっとこんな感じなのだろうな



ただ今制作中の物語「さんさいちゃん」  
(文：なすかつら 絵：KINA)の絵と粘土人形

あとと思います。物事、適当になってしまうこともありますし、迷うこと悩むこともたくさんありますが、ただ物を創ること、絵を描くことが好きなことだけはずっと変わりません。とりあえずその時その時、真剣にやる何かがあつて、好きで続けることができるものが傍にあるだけで、私は幸せだと思います。いつか私が元気におばあちゃんになった時、世界中の子どもたちと一緒に絵を描くこと、それが今の私の些細な夢です。

# 栗田麗香

(H10 卒)

■file-67 四十の半ば



**KURITA Uraka** (旧姓：佐藤)  
1998年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業(野城研究室)、1998年～2014年 三井ホーム、2014年～ 栗田祥弘建築都市研究所

ます。また事務所の経理的なこともわかったことがほうがいいと思い、簿記も勉強し始めました。前の会社では、新しいことをやる時には簡単な勉強会を開いてくれていたのに、個人事務所では当然ながら何でも自力でやらなければならず、本やネットで調べながら様々なものと格闘する日々を過ごしています。人生は日々勉強です。今は雑用の一部しか手伝えていませんが、図面修正やプレゼン修正など、もう少し戦力になれるように色々覚えたいと思っています。住宅メーカーでは、たまに現場見学に行くこともありましたが、手元にある仕事をさぼることでもありましたが、結局自分の担当した住宅がいつ着工し引渡したかよくわかりませんでした。しかし今は契約や入金まで係わるので、仕事の実感や責任を重く感じています。生きるも死ぬも自分達次第なので、食べていけるように頑張っていきたいと思っています。

(栗田祥弘建築都市研究所)



## 女流ファイル-Part13

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。

# 中田理恵

(H17卒)



●file-68 現場をひらく  
NAKADA Rie (旧姓 足立)  
2006年 武蔵工業大学建築学科卒業 (手塚研究室)、  
2008年 首都大学東京 大学院建築学専攻卒業、  
2008年-13年 日建設計、2013年- 中田製作所共  
同主宰、2013年 SD レビュー入選



店舗の施工ワークショップ風景

私は、ちょうど10年前に手塚研究室を卒業。卒業後、首都大学東京の大学院に進学。その後、日建設計に入社し、意匠設計者として研修施設、オフィスビル、空港施設等の設計に携わった。プロジェクトを進める上で、一番大切なのは、想いを共有することだと思う。何万㎡の建物で企画～竣工まで十数年かかる時でも、1㎡の小さなプロジェクトでも。想いの熱量が大きいと、プロジェクトに関わる人だけでなく、周辺の人たちをも巻き込んでいける。現在、主人(学部同期)や仲間たちと共に企画～設計～施工～運営まで行えるチームで活動をしている。プロジェクトに、より大きな想いの熱量を加えるために様々な試みをしてきた。その一つが『現場をひらく』ということ。現状の工事現場は、施主にとって近づきにくい場所になっている。施主は誰が自分の建物をつくらせているか、わからない。そこで施主に工事へ参加してもらうことで、どのように建物が出来るのか、どのような人がつづけているのかを知ってもらうようにしている。一緒に解体して、壁や床下地をつくり、フローリングをはり、壁に



完成写真

塗装をする。自分達の手がはいることで、より愛着がわく。何に対して、お金を払っているか理解できる。棚をつけるなどのちょっとした工事ならば、自力でできるようになる。要望を伝えた後は、任せきりだった建物づくりに施主がどんどん主体性を取り戻して、関わっていただけるようになる。住宅だけでなく、店舗やオフィスでも実践してきた。『現場をひらく』方法は他にもある。SNSを用いて、工事風景の写真をアップすることやネット上で24時間ライブ配信をし、クラウドファンディングで工事費を集める試みもした。また、施工ワークショップを開催し、施主だけでなく、より多くの人達に建物ができる過程を体験してもらっている。特に新規立ち上げの店舗では、建物の工事中からつくり手や施主の顔がみえることで、店のファンを増やすことにつながっている。今後は少しずつ、仲間を増やし、自分達のような小さなチームが全国各地で活動していくことで、愛着の持てる建物のつくり方を続けていければと思う。(中田製作所)

●file-69 入社してからを振り返り、今思うこと

# 二口明日香

(H15卒)

FUTAKUCHI Asuka  
2003年 武蔵工業大学建築学科卒業 (天野研究室)、2005年 武蔵工業大学大学院修了 (天野研究室)、2005年 トランスコスモス(株) 入社 ビジネスプロセスアウトソーシングサービス統括 ビルディングインフラサービス統括部所属



インする」というような前線で活躍できる仕事ではありません。しかし、前線の活躍には欠かせない一部を担っており、その中では、ちょっとした気付きや心配りなどの細やかな配慮が求められているように感じます。また、アウェイな環境であっても、その中にとけこめる柔軟な考えと姿勢が求められます。もちろん、建築知識は必要不可欠です。表舞台には立てなくても、様々な知識(考え)と人に出会うことができ、また、人としての柔らかさや視野の広さを磨くことのできる、今の仕事の面白さに気づき始めた11年目です。

(トランスコスモス)

私は、新卒採用でトランスコスモス(株)に入社し、今年で11年目になります。建築に直接関与している会社ではないため、建築業界ではあまり耳慣れない会社ですが、実は、多くの建築・建設関係の企業の中でお仕事をさせていただいています。一言で言いますのが難しいのですが、簡単に言えば、お客様企業の社員様が、コア業務に専念できるようにサポートすることが私の仕事です。裏方のような仕事をしているため、直接お仕事を一緒にさせていただいた方以外には、残念ながら会社の認知度が低いようです。業務内容は、配属先によって全く異なります。同じ建築業界といえども、所変われば仕事のやり方も求められることも異なります。その為、異動のたびに0からのスタートで、お客様

私の仕事は、「建物を設計する」、「空間をデザ

# 酒井友紀恵

(H22卒)



●file-70 私のやりがい  
SAKAI Yukie  
2010年 武蔵工業大学建築学科卒業 (住吉研究室) 2010年4月～8月 設備設計会社勤務、2010年10月～2012年3月 東急不動産短期雇用  
2013年4月～現在 台東区 都市づくり部 建築課建築・構造担当 (建築指導)

卒業後、設備設計事務所を経て、現在は台東区の建築課で確認申請、検査、許可、認定等の建築指導をしています。区役所の建築職の仕事は大きく分けてまちづくり、公共施設の建築、建築指導、区の条例指導等があり、基本的には3年で別の係に異動します。様々な仕事を経験し、異動してまた一から勉強という大変さがありますが、色々な面から建築に携わってこそ自分の仕事わかり、本当のプロになることができると思います。また、係が異なると仕事内容が大きく変わるので、長く仕事を続ける上で、常に新しい経験ができることも魅力です。入区して3年目になりますが、建築基準法は奥が深く、日々勉強の毎日です。初めは大学の授業で建築基準法を少し学んだことがある程度で法律の知識は全くありませんでした。そんな中、長年建築設計をしてきた設計者の方に建築指導をすることはかなりのプレッシャーでした。まずは知識をとにかくつけること。そしてそれを伝える会話力、効率よく仕事を行うことを意識することにより、同じ舞台で話ができるようになったと最近は思います。私はこれまで個人住宅やホテル、商業施設等様々な確認申請の審査をしてきました。台東区は上野、浅草、谷中等区としては小さいながらも様々な特色のあるまちです。特に上野

動物園の園内建物や、お寺、駅の審査に係ることができるとは台東区で審査をする魅力だと思えます。確認申請、中間検査、完了検査と図面の段階から完成するまでの工程に携わることができ、図面通り法律に合った形で建物が完成した時は達成感と喜びを感じることができます。しかし大変なことも多いです。法律に明確に記載されていないことや、新しい技術、用途に対してどのように考えて指導していくか。役所に来る設計者はわからないことを問い合わせに来るので、区としてなかなか決定できない事項が多いです。日々勉強し情報収集を行い、悩みが絶えないです。もともと私は建築やまちづくりに興味があり公務員を志望しました。そんな中最初に配属されたのが建築指導係で良かったと今は思います。施設の設計や、まちづくりに区として関わる際に、建築基準法を知っていることは大きな強みです。3年目の私は異動の経験をしたことがありません。最終的にまちづくりに携わる課に配属されたいという思いもありますが、どの仕事も責任のある仕事です。辛くても苦しくても今は全てが経験だと思い、与えられた仕事に前向きに取り組んでいきたいと思っています。全てが台東区のまちをよくするための仕事です。私はこの仕事に誇りを持っています。

(台東区)

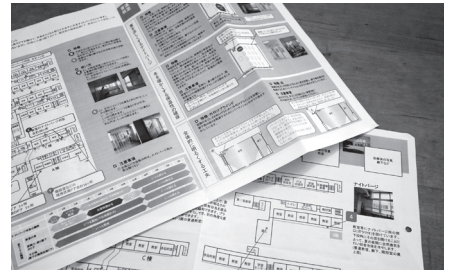
●file-71 卒業して20年、自分に「できること」がやっとわかってきました

# 小田桐直子

(H08卒)



ODAGIRI Naoko (旧姓 細谷)  
1996年 武蔵工業大学建築学科卒業 (宿谷研究室)  
1996年～2003年 システック環境研究所  
2005年～2010年 オーガニックテーブル  
2010年～ 佐藤エネルギーリサーチ 研究員



学校を適切に運用するためのマニュアル

先日、知人との雑談で「どうして建築を選んだのか」という話になりました。その時、推薦入試の面接の質問に対して「学校をつくりたい」と答えたところ、面接を担当された某教授に「夢が小さい、そんなのでは駄目だ、云々・・・」と嫌味を言われてしまった嫌な記憶がよみがえりました。今思えば、高校生の自分に想像できる建築といえば、住宅と学校くらいで、稚拙な返答だったのでしょうか。大学を卒業し、環境コンサルティング会社、工務店、設計事務所(コンサルティング業務)を経て、現在は振り出しに戻り環境コンサルティング会社で働いています。環境コンサルティングは、『省エネルギー』や『温熱環境などの快適性』などについて実測やシミュレーションなどを行い、調査報告書をまとめる業務です。卒業直後に努めた環境コンサルティング会社では、数字に追われて苦しい日々でした。当時は『省エネ』は大事だ

けど、つまらないもの」と思っていました。今は、『省エネ』は後からついてくるもので、断熱や日射遮蔽をちゃんと設えると快適で豊かな空間ができ、太陽や雨、風などの自然を利用しながら生活すると楽しい」という当たり前のことをちゃんと伝えたいと思うようになりました。不思議なことに、ここ10年くらいは、面接で口にした「学校」に携わる仕事、いわゆる『エコスクール』に関わっています。面接時にイメージした関わり方とは大きく異なるのですが、環境面において「快適で省エネルギーに」と考えて設計された校舎をちゃんと使いこなしてもらえるように、教育委員会や教職員に説明したり、その効果を数値で示したりしています。教職員や児童・生徒に「ライトシェルフが設置され、日中は明るいので、電灯照明は点灯しなくても大丈夫」と伝えても行動には移してもらえません。無理矢理省エネ行

動を促すのではなく、照度計で明るさを計ったり、時には実験的に電灯照明を消して生活してもらったりして、体感してもらい、その後、明るいのか、暗いのか、どう感じたかを意見交換し、どのくらい省エネになったか(無駄がこんなにあったか)を伝え、納得してもらうことに重きを置いています。コンサルティング業務は、建物という箱だけを見て数値を追いかけるのではなく、住まい手の行動をちゃんと見て、想像して、提案・行動することが大事。数値は裏付けデータであり、コミュニケーションツールである、ということがやっとわかってきました。このような業務は、大学時代にお世話になった宿谷先生や宿谷研究室の先輩・後輩と一緒に行うこともあり、たくさんのヒントをいただいています。今でも「思考停止になったらダメだよ」と励ましていただき、うれしく思います。(佐藤エネルギーリサーチ)



## 女流ファイル Part14

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。

# 國正珠緒

(H01 卒)



**KUNIMASA Tamao**  
1989年 武蔵工業大学建築学科卒業  
(広瀬研究室)  
1989-1990年 環境デザイン研究所 在籍  
1990-1994年 丹青社 在籍  
1995-2005年 パルグリーン 在籍  
(途中レーベンスアーキテクト  
在籍中住宅設計)  
2005年 悠庵一級建築士事務所 設立  
2015年 アトリエ悠庵 設立

私は、2007年に森ビル(株)に新卒入社し、用地取得や不動産の売買を担う部署を経て、現在、再開発事業を推進する開発の部署にいます。現在担当するプロジェクトは、銀座の中央通りに位置する銀座六丁目10地区第一種市街地再開発事業です。この再開発事業では、2街区一体での敷地に、商業、事務所、文化・交流施設等の複合用途の建物を計画しています。再開発事業におけるディベロッパーの役割は様々ですが、銀座プロジェクトにおける森ビルは、再開発組合の事務局や再開発コーディネーター等として、事業を組み立て推進するとともに、事業費を負担して再開発建物の床を取得する投資家の一員としての役割を担っています。私は約6年半、この銀座プロジェクトの担当として、事業の推進を担ってきました。具体的に担当してきた業務としては、事業スキーム・事業計画の立案、権利者の意向調整、行政許可手続き、事業採算の検討等です。ディベロッパーは、建物所有者かつ将来の建物の運営・管理者としての立場を持つため、事業計画や施設計画の決定にあたっては、建築的な観点だけでなく、事業性や建物の運営・管理等の様々な視点で検討、意思決定を行います。また再開発事業では、地権者の生活



エレガントな住宅に調和させた外構

「家と家を繋ぐ仕事がしたい」と個人住宅のエクステリアの会社に就職したのは30歳を目前にしたころでした。それまでは博物館のまわりの公園の基本設計の仕事をしていたので、外構の仕事で似たようなものだろうと思って入ったのですが、スピード感もデザインの考え方もまったく違う世界でした。

瞬発力が試される世界でしたが、数をやるうちにコツがつかめるとともに、奥深さも。

ハウスメーカーで家を建てられる方が今でも大多数だと思いますが、不思議なまでに外構のことはおいてきぼり。予算配分もデザインもとにかくつこみどころ満載でした。

仕事は「自分がやりたいこと」と「世間がやってほしいこと」の需要と供給のバランスが良いのが一番良いのですが、とにかくこの世界はまだまだ未開拓だと思いました。いまから二十余年前のことです。他社とひと味違った提案をして価格競争の土俵にのらない。というのが勤めていた会社の社長の口癖だったので、まあ鍛えられました。そして10年たって独立してからは「素材」と「ゾーニング」の両方から「奇抜という意味ではなく、他でやっていないこと」に目をつけて提案をしてきました。

この誌面に書くのはおこがましいとは思いますが…。  
・エクステリア(門構えやアプローチの部分)は住宅の見た目を大きく左右します。  
・ガーデン(芝生やデッキなどがある庭の部分)は生活の質を大きくかえます。

再建を図りながら、土地の高度利用による都市再生・社会貢献という重要な役割を担います。これらの要件や諸条件等を鑑みながら、事業計画を立てる必要があります。学生の頃は、都市開発の仕事は面白そう、街づくりに係る仕事がしたいと漠然と思っていましたが、実際に再開発事業に携わる中で、その難しさや責任の重さを実感しました。ある権利者の方からは「先祖から譲り受けた土地を大切に守っていく使命がある」と言われました。その権利者の土地は、再開発事業により新しい再開発建物に置き換えることとなります。それぞれの権利者に、その街や土地・建物への想い入れがあり、それをより魅力的なものに変えてくれるという期待感で、再開発事業に参加します。権利者以外にも地元の方々や設計者、施工者、コンサルタントなど、再開発事業には多くの人が携わっており、ディベロッパーはその想いや期待を背負い事業を推進していきます。その再開発事業の推進を担う責任は重いですが、それだけやりがいのある仕事だと思っています。現在、銀座プロジェクトは、2017年の竣工、開業に向けて工事を進めています。私も引き続き事業の推進に邁進したいと思っています。(森ビル)



屋外用の合皮をつかったソファ

今年の始めこの二点をより具体的に説明した「品格のあるエクステリアのための100リスト」なる小冊子を作りました。(以下一部抜粋)

「35. 玄関ポーチはウエルカムテラスと考えよ。最低でも椅子一つ置ける広さとするべし。門から始まった「もてなし」の集大成の場と意識せよ。

59. 庭のやすらぎに大切なものは「ゆらぎ」。ゆらぎの三大要素は水、風、炎。形のない3要素をどう演出するかがデザイナーの腕のみせどころ。

80. 屋外用の照明はデザインに魅力的なものが少ない。植栽の影に隠す。壁の裏側から照らす。など光源の見えない工夫をし「夜の顔」の演出をせよ。」などやや偉そうですが。(笑) 初対面の方に名刺代わりにお渡ししているのですが、かなりの分量なのに結構みなさん読んで感想を言ってくださいます。四半世紀以上前、受験生のときに五月晴れの空をバックに見た「赤坂プリンスホテル新館」に爽やかな感動を覚えたのが建築学科を受験したきっかけでしたが、それから紆余曲折あって、ずいぶんちがう分野の仕事をしていますが、本当に楽しいですね。まっさらな配置図の中にためのホルダーでエクステリアのゾーニングをしていくとき心が震えるほどワクワクします。こんな時代にこんな思いで向き合える仕事をみつけられた私は幸せなのだと思っています。この幸せを出逢うお客様に連鎖させないといけません。一人でも多く連鎖できますように。幸せの連鎖が成功した写真を2点載せさせていただきます。(アトリエ悠庵)

## ■file-73 都市創りに携わって

# 神田春奈

(H19 卒)



**KANDA Haruna**  
2007年 武蔵工業大学建築学科卒業(天野研究室)  
2007年 森ビル 勤務

私は今、小さな設計事務所働いています。設計が本業になりますが、業務の線引きをせず、それ以外の事にも積極的に関わり、空間や場づくりをおこなっています。

例えば、店舗物件では内装設計のみならず、プライスカードやメニュー表のデザイン、商品陳列やディスプレイ、スタッフのユニフォームなど運営に関わるモノのデザインもおこなっています。住宅やお店などを新築・改装をしたいと思われる理由は様々です。その想い、要望を整理し、今までとこれからの暮らし方、お店のあり方など時間をかけてクライアントと話し合い、一緒に考えていながら提案をしていきます。[つくる][考える]ということに携わってもらい、出来る限りクライアントに主体性を持たせてながら物事を決めていきます。多くの議論を重ね、自分たちで考えてきた事が形になったという意識が、空間への愛着、大切に想う気持ちへと繋がっているように思



公営住宅パース

手塚研究室卒業後、NTTファシリティーズに入社しました。入社5年目までは本社勤務で、大学キャンパス構想から大学施設の新築に携っていました。教室・研究室・食堂・体育館・ホールの複合したかなり巨大な大学施設で、基本計画から実施設計を行い大きなプロジェクトをどう成功に導いていくか、お客様目線の提案を行うことでよりよい計画にブラッシュアップされ、設計者とお客様との信頼関係の構築につながることを学びました。入社6年目から東北支店へ異動となり、震災復興地域への提案や、災害公営住宅の監理を担当しました。メインで担当していたのは岩手県の陸前高田市という地域です。ここは震災津波で、まちが、本当に跡形もなくなってしまう地域です。海岸エリアは10~20mの造成を行い2年で景色がすっかり変わっていきました。造成(土を盛っただけ)インフラや上屋はまだまだこれから

います。以前設計した店舗では、運営や売場に関わる方々の知識や経験を基に、一緒に一から商品の陳列の仕方を検討し、購買方法、オペレーションの仕方を新しく開発しました。それによって新しい什器(家具)のあり方も生まれ、他のお店でも同じ什器や方法が取り入れられています。オープンして6年程経ちますが、今でも変わらず大事なお店を扱ってくれています。デザインやつくり方の共有が出来ているので、新たな商品に対する陳列の仕方や、追加で必要となった什器の選定などはスタッフの方々で考えて、お店の雰囲気を整えながら判断し、時にはデザインルールを応用してお店づくりを続けてくれています。新築でも改装でも同様ですが、完成後に物件の引き渡しが終わると手を離れていきます。でもそれは私達のひと区切りというだけで、そこからが空間にとっての始まりです。どのように暮らし、利用し、管理し、手入れをされていくかで寿命が大

きく異なっていきます。いい建物・空間であるためには、空間や場を大事に想う気持ちをもたれ続ける事が必要だと思います。社会や住み手・運営者が変わったとしても、それまで使っていた人達がどれだけ大切にしてきたかという気持ちが空間に現れ、受け継ぐ人達にもその想いが伝わります。素材の使い方や無理のない納まりといった技術的・物理的な部分を考えることも空間を長生きさせるためにはとても重要ですが、完成後の空間の生き方を考え、余白や自由度の高い設計、そして想いを共有するという事もとても大切だと改めて感じています。

建築の「つくり方」「携わり方」「やり方」は沢山あります。誰かのために、社会のために、少しでも長くそこに存在し大切にされ続けるモノをつくるため、私なりの想いを形にして建築に携わっていきたくと思います。(日吉坂事務所)

## ■file-74 携わり方について考えたこと

# 太田温子

(H18 卒)



**Ota Atsuko**  
2006年 武蔵工業大学建築学科卒業(手塚研究室)  
2008年 武蔵工業大学大学院修了(小林研究室)  
ハウスメーカー勤務後、  
2010年 日吉坂事務所 勤務

# 深澤悠美

(H20 卒)

■file-75 設計の経験を活かし、新しい分野への挑戦



**FUKASAWA Yumi**  
2008年 武蔵工業大学建築学科卒業(手塚研究室)  
2010年 武蔵工業大学大学院修了(手塚研究室)  
2010年 NTTファシリティーズ本社入社  
都市建築デザイン部建築担当  
2014年 NTTファシリティーズ東北支店  
建築・FM事業部建築担当  
2016年 NTTファシリティーズ中央  
グリーンITビルビジネス本部建築担当

です。担当した公営住宅は山を切り崩した(その土は造成に利用)高台の敷地で、300世帯の大規模な住宅です。公園を隣接して計画し、緑があり、コミュニティが生まれるようなひとつの街区を計画しました。7月末から入居が開始し、人の流れができ、地域の活性化につながればいいなと思っています。

震災地域へ実際に訪れ、復興で変わっていく姿を体感できたのは、自分にとって大きな経験となりました。

この7月から本社へ戻り、今は建築の企画側の仕事をしています。

IoTや弊社のIT技術を強みにした建築施策の提案に注力しています。これからも、設計の観点から新しい技術と融合した建築提案をしていきます。(NTTファシリティーズ)



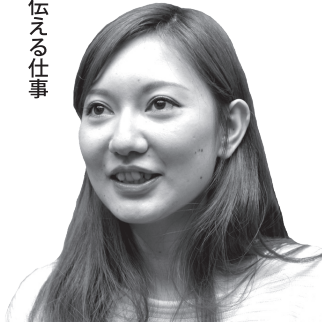
## 女流ファイル Part15

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。

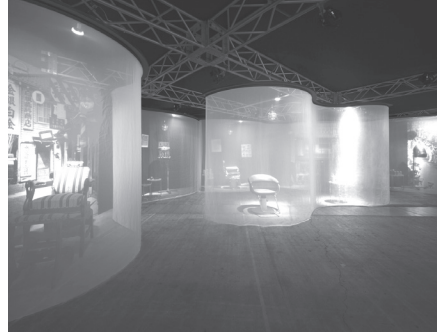
# 平山彬子

(H20 卒)

■file-76  
プロモーションの仕事はわくわくを伝える仕事



**HIRAYAMA Akiko**  
2008年 武蔵工業大学建築学科卒業(手塚研究室)  
2010年 武蔵工業大学大学院建築学専攻 修了  
(手塚研究室)  
2010年 博展 (空間デザイナー)  
2014年 博展 (アートディレクター)  
2016年 博展 (チーフアートディレクター)



「TWBC2016」の空間デザイン

手塚研究室卒業後、株式会社博展に空間デザイナーとして入社し、企業のプロモーションに関わるイベントや商談の場の空間デザインや演出を行ってきました。入社5年目にアートディレクターとなり、企画立案から空間デザイン・映像・グラフィック・デジタルコンテンツなどのクリエイティブ統括を行なう役割となり、より幅広い仕事をできるようになりました。

あらゆる業界のお客様のプロモーション提案をしていくため、常に業界や最新技術の勉強をしています。学生の頃に学んでいた建築とは異なる世界ですが、手塚先生から学んだ「その空間で起こる出来事(体験)の価値」について常に考え、模索する毎日です。

理美容向け製品を扱うタカラベルモント様のプライベートショー「TWBC2016」を担当した際、空間における体験価値についてとても悩み、挑んだ仕事でした。

このイベントは、ヘアショーやエキシビション、コンテスト、セミナーなど多くの内容が盛り込まれた理美容従事者のためのイベントです。理美容業界の活性化を目的とし、業界の未来を担う人たちに希望を与えるのが大きな目標でした。

これから日本の美容を担う、若い美容師や学生



「TWBC2016」の空間デザイン

達が、自分や業界の未来を考え、「明日からこれをやろう」「こんな美容師になりたい」と目標を持って前に進めることを目指しました。

広い会場とたくさんの内容を体験する中で、一つの強いメッセージを伝えるために、近未来惑星「TAKARA PLANET」というデザインコンセプトを作成し、すべての内容が、近未来世界で繰り広げられるタカラベルモントの理想型として来場者へ訴求しました。メインのエキシビションエリアでは、近未来サロンを20個程作成し、理美容がどのように日本の社会と繋がり、貢献していくのかを考えた新しいサロンデザインを提案しました。

実際の来場者インタビューでは、「良い刺激になった」「はやく帰って仕事がしたくなった」「自分にできることがもっとたくさんあるのだと気づけた」など、当初の目的が達成できたと実感できるコメントをたくさん頂きました。

企業様のプロモーションのお手伝いをしていく中で、その空間やデザインがいかに来場者の心に届き、感動を与えていくかを常に考えています。来場者や使用者によって、そのメッセージの届き方は異なります。どのように届けるのが、一番面白く、わくわくするのか。それをこれからも考えて行きたいです。(博展)

## ■file-77

心の声に耳を傾ける空間づくり&ライフデザイン

# 相邑美佐江

(S56 卒)

**AIMU Misae**  
1981年 武蔵工業大学建築学科卒業(鈴木研究室)  
1981年 三井建設  
1982年 秀建築設計事務所  
1987年 根岸後継都市建築設計事務所  
1991年 ナウミスペース 設立 代表取締役(現在)



止め、自分の内側に意識を向けること。最近、マインドフルネスや瞑想に取り組む人が増えていますが、目的は同じで、私は20年以上前から実践してきました。著書『相邑美佐江のヒーリング・デザイン』(文芸社発行)の中で、その具体的な方法をご紹介します。

直感力を使った独自のデザイン法で、空間デザイン、製品デザイン、ヒーリングアート製作など、幅広く活動してきました。テレビやラジオの出演、新聞、雑誌連載など、メディアでの発信も多数ありました。

現在は、集合住宅と介護付老人ホームの建築依頼を受け、農地を宅地化する調査から、建物の外観、内装のデザイン設計、完成後のマンション管理経営まで、クライアント様の要望を叶えるトータルな住まいづくりに取り組んでいます。

また、デザインの仕事と並行して、ヒーリングスクールを開講。カリフォルニア州公認インディタイプ(直感を使った)カウンセラーの資格を活かし、人々が心身のバランスを整え、健康で幸せな人生を送れるようサポートしています。自分ら

しさの創造や問題解決法などの指導、ヒーラー養成なども行い、卒業生を大勢輩出しました。

今でこそ“スピリチュアル”“ヒーリング”という言葉はポピュラーですが、20数年前に癒しの必要性に気づき、先駆的な活動をしてきたと自負しています。そもそも、私自身が空間デザイナーとして駆け出しの頃、超多忙な仕事環境でストレスを抱え、不眠症に陥った時にヒーリングを受けたのがきっかけでした。以来、自分のハートの声に導かれ、思いがすんなり実現するミラクルを経験し続けています。

人があるがままの自分でいられる居心地のいい空間を、世界中に広めていく。それが私のビジョンです。豊かな人生を送るには、ライフデザインが重要です。自分の魅力を引き出しどう表現するかは、自分をデザインすることに他なりません。「デザイン」を通して貢献することが私の喜びであり、心の声に従う生き方なのです。

あなたもご自身のハートを感じ、耳を傾けてみてください。

(ナウミスペース)

# 松永咲子

(H18 卒)

■file-78 現場での経験と人との関わりを大事に



**MATSUNAGA Sakiko**  
2006年 武蔵工業大学建築学科卒業(西村研究室)  
2008年 武蔵工業大学大学院修了(西村研究室)  
2008年 日建ハウジングシステム

私は集合住宅を専門とする総合設計事務所まで構造設計の仕事をしています。職種は構造設計ということになりますが、私の事務所は監理も行っているため、設計を終えた物件が着工すると、施工者とやり取りを行い、実際に施工するための細かい調整や、現場に向いて構造躯体の検査等も行ないます。

入社して8年の間で、小規模な低層マンションから大規模な団地の建替え、超高層など様々な規模の建物の設計に携わりました。最近では15階建ての住宅・店舗・事務所の用途が入る複合ビルの構造設計や、昨年設計を終えた免震構造の12階建てのマンションの現場との調整を行なっています。



桜上水ガーデンズ

施工現場では、設計中に想定できなかった問題に直面することもあります。元の構造計算や現場の工程に影響が出ないように調整や設計変更を行ないます。

私がこの仕事の中で最もやりがいを感じる瞬間は、施工現場にあります。

その瞬間は、自分が構造設計した建物の現場に検査等で向いた際に、自分が引いた線や計算した数字の通りに沢山の職人さんが鉄筋を組んで働いている場に立ち会った時です。自分が建物の根底となる部分を決めているということを実感し、やりがいと共に責任の大きさも感じます。

また、現場での経験を踏まえて改めて感じたの

## ■file-79 今だからできること

# 鈴木智子

(S52 卒)

**SUZUKI Tomoko**  
1977年 武蔵工業大学建築学科卒業(広瀬研究室)  
1977-2014年 大成建設 設計本部  
2014年 岡野建築設計事務所

私の設計の歴史は37年間勤めたゼネコンにあります。

何故私が構造に配属されたのですか？僕は大学の子を持ってみたかったのだ。これが1977年当時のゼネコンの体質でした。さからい続けて1年、たまたまあいた意匠設計の席に配属替えとなりました。一年たったらやめようと退職願を出す一日前でした。

意匠設計では当初、住宅、別荘、小規模マンションを主に携いました。空間の構成の変化に興味があり面白い仕事でした。うちの会社で女性は認めてもらえないから一人で住宅、小規模マンションくらいでできるようになった方がよいという上司の配慮でした。しかし、回りはゼネコンのメイン仕事であるオフィスを設計しており、私もその仲間に入りたいと思いましたが、施主の前に女は出せないなどいわれ、なかなかオフィス用途にかかわれませんでした。

平成3年にそれまでの担当職から第一期女性総合職となり、回りの状況が一変しました。自分の言葉で仕事が動いていくのです。とても感激しました。それからは、オフィスを中心としているような設計にかかわらせていただきました。超高層も2本経験しました。時代が悪く仕事が少なくなるときは、リニューアルとデータセンター分野の開拓に携わりました。特にリニューアルはバンフレッ



軽井沢の住宅



初めての超高層



ウェリスタワー 愛宕虎ノ門

が、普段何気なく過ごしている建物のすべてが手作りの一品生産で、世界に一つとして同じ建物はないということです。そして、施工者とのように関わるか、作る過程も、かかる時間も、出来る上がる物の品質も、良くも悪くも変わりうる可能性があるということです。施工者と、時には鉄筋を組む大工さんと一緒になって悩んで、うまく設計を納めることが出来たときは、とても連帯感が生まれますし、そうして完成した建物にはとても愛着がわきます。

現場での経験や沢山の方々との関わりを大事に、これからもより良い建物が建てられるよう頑張っていこうと思います。(日建ハウジングシステム)



トに残る仕事をしようと目標を掲げ、BELCA賞とニューオフィス賞をいただきました。住宅、リゾート施設、オフィス、データセンターなどいろいろな分野を体験できて、ふりかえれば充実した37年間のゼネコン設計部でした。

さて、私は今の設計事務所に勤めて3年になります。当初は仕事、規模・組織や人間関係において、前との違いに大いに戸惑いました。仕事の内容は主に設計協力と官庁の設計です。設計協力事務所といっても、ただ言われたことを書くだけでは、協力しているとは言えません。設計者の意図がどこにあるのか、その先の施主は何を望んでいるのかを理解しなければ図面化してもお客様の満足は得られません。担当者が自主的に建築に向かい、大きな方針のもとに提案をしていながら仕事を進めることが重要です。これは設計することと同じだと考えています。そこで2年先に入った先輩と「変わる・変える」をテーマに掲げ意識改革と組織改革および設計指導を行なっています。3年たっつていぶん社内の雰囲気はよくなって、積極性・自主性が出てきたと思います。

今だから私のできることは、微力ながら社員皆が明るく楽しく意志を持って豊かに日々を過ごすようになるように応援していくことかと思っています。でも少しだけ設計もさせていただきながら。(岡野建築設計事務所)



## 女流ファイル Part16

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。

# 本木 静香

(H04 卒)

■file-80 会社の流れに身をまかせ



**MOTOKI Shizuka**  
1992年 武蔵工業大学建築学科卒業(広瀬研究室)  
大成建設入社設計本部設計第七部配属  
設計本部環境計画部  
1999年 都市開発本部プロジェクト開発部・開発  
事業部を経て  
ソリューション営業本部 プロポーザル・  
ソリューション部

私は2009年に山下設計に入社しました。入社後、本社で設計部とコンペ・プロポーザルを行う部署にいましたが、昨年の8月から大阪にある関西支社で働いております。本社では1,000㎡の高校の体育館の設計や学校のキャンパス計画、集合住宅や庁舎、銀行の設計、病院のプロポーザルと様々な用途の建物に携わってきました。プロジェクトの大小に関わらず、クライアントが事業にかけの思いを対話を重ねて引出し、ひとつの形にするのが設計者の大きな役割です。建物の発注者には建築に携わったことのある方もいれば、そうでない方もいらっしゃるのですが、どのような提案をすれば満足いただけるか、手を替え、品を替え、納得のいくまで対話を重ねていかなければいけません。そのときにパースや模型、図面、というのはコミュニケーションツールの一部なのだな、とつくづく感じさせられています。また、設計段階から工事の時まで、プロジェクトを取巻く環境は常に変化してきますが、そのため、企画段階で「何を実現させるか」という設計コンセプトをよく練ることが重要だと思います。

設計時代：入社して設計第七部というオフィスビルを専門に設計する部署に配属になりました。バブルは崩壊していましたが、建設業は波が遅れてくるということで、まだオフィス部隊は大変忙しかったです。オフィスビルの基本設計から確認申請業務、実施設計、竣工まで通して見ることができました。その後2000年の直前に環境計画部に異動になりました。環境計画部の仕事は設計の更に川上です。大学の設計スペック、設計条件を整理する部署に異動しました。部署ごと横浜ランドマークタワーに移動しました。実家が横浜から遠かったため、通勤は大変でした。しばらくして、「開発部で建築士の女性が退社するので人を募集している」という話があり本社に戻りました。

開発時代：プロジェクト開発部に異動しました。ここでは有効活用提案や事業コンペの提案を行いました。同じ会社とはいえ、設計本部とはまるで感覚が違います。転職したような驚きの日々が暫く続きました。建築学科を卒業したので設計をずっとやっていくものと思っていました。最初はボリュームチェックや簡単なゾーニング等、設計業務の延長のような仕事を行いました。しかし、開発の本質である「事業を組み立てる」という仕事にも興味を持ち始め、事業収支計算もはじめまし

近年、官公庁の物件では税金を使って事業を行うため、よりシビアな目にさらされ、「このプロジェクトに本当に必要か」ということを常に問わなくてはいけないことを特に感じます。プロジェクトを推進するためには「何をやりたいか」「このプロジェクトにどうして必要か」「それを実現するにはどうしたらいいか」ということを設計から建物が建つまで社外・社内でのプロジェクトの関係者で常に共有していくことになるため、やはり設計コンセプトを明確にしておくことが重要となってきます。いろいろな用途の建物の設計に携わってきましたが、お客様と対話し、設計コンセプトを明確にし、設計を行うという手順はどんな建物でも共通してきます。ただ、それぞれの敷地や建物、関わっている人、バックグラウンドが違うためどんな建物でも同じものではなく、固有のストーリーが生まれるのが建築設計の飽きることがないところだな、と思います。

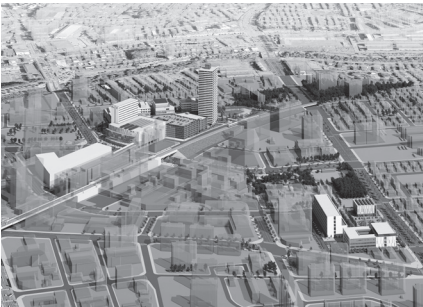
これからも、様々な思いをくみ取り、社会にフィードバックしていけるような提案をしていきたいと思っています。(山下設計)



広島ビジネスタワー



御茶ノ水ソラシティ



新さっぽろ駅周辺地区G-1街区公募提案

た。そしてどんなに良い設計プランが出来ても「先立つもの」がないと「絵に描いた餅」であることを痛感させられました。その後開発事業部に異動しました。事業者として、事業者定例、設計定例、リーシング会議に出席し事業を作っていました。開発事業部の案件は出口が決まっており、当社のマスターリース床があるものもありました。リーシングをしてテナントを埋めないと収入がないのに賃料を払い続けることになるため、リーシングにも力を入れました。プロポーザル・ソリューション部：プロジェクト開発部に近い業務ですが、設計出身者と、都市開発出身者が混在している新しい部署です。前の2つの部署に比べ、歴史が浅いため、手探り的な部分もありますが、新しい可能性や柔軟性を感じる部署です。有効活用提案や公有地案件を数年前から事前情報入手し、川上から仕込み、設計施工に持っていく仕事をしています。新しい世の中の流れを読みながら提案に活かしていきます。大学で学んだ設計の仕事とは違いますが、不動産のチラシを見るのが大好きだった子供時代を考えると、不動産開発して建物建設を実現させるといふ仕事は、ひょっとすると「子供のころから好きだったこと」の延長なのかもしれないと思う今日この頃です。(大成建設)

■file-81 建築設計というしごと

# 工藤 真紀

(H19 卒)



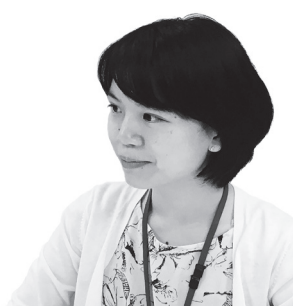
**KUDOU Maki**  
2007年 武蔵工業大学建築学科卒業(手塚研究室)  
2009年 首都大学東京大学院都市環境科学研究科  
建築学域修了  
2009年 山下設計 入社

■file-82 三方良し目指して、築古物件の経年優化プロジェクト

# 森川 敏

(H23 卒)

**MORIKAWA Min**  
2011年 東京都市大学建築学科卒業(天野研究室)  
2013年 東京都市大学大学院修了(天野研究室)  
2013年 東京急行電鉄(以下「東急電鉄」)入社  
東急カード出向  
東急東横線 横浜駅配属  
2014年 東急電鉄 都市創造本部 運営事業部 営業一部  
受託PM課 配属



私は、REITスキームで取得した不動産の管理運営(PM)業務に携わっています。REIT物件は、運用益を投資家へ還元する為、PM業務の命題は、物件NOI(営業純利益)最大化です。お客様は、オーナーとテナントの両方で、利害関係が相反する両者だけに、はまらないパズルのピースをはまるまで、模索、提案、折衝、試行錯誤の毎日です。その分、オーナーを満足させ、テナントにも喜ばれた時の達成感は、格別です。配属3年目に携わった虎ノ門にある築30年のビルの屋上活用プロジェクト(PJ)が、私にとって、まさにこの達成感を得た仕事の1つでした。屋上空きスペースに憩いの場を設けるという前任の構想からPJは始まります。REIT物件は、設備投資の価値寄与を数値化しなければ予算確保できない為、まず、2年間かけて賃料増額改定を進めました。虎ノ門界隈の不動産市況好調も手伝い、賃貸収入対従前1割増まで達成し、予算取得しました。デ

私は藤沢市役所の建築指導課に所属しています。入庁してから今年で5年目になり、課の中ではそれなりに古株になってきたようです。ところで皆様、藤沢市をご存じでしょうか?江の島や湘南というと「ああ!」と合点なさる方も少なくないかもしれません。そんな藤沢市ですが、偶然にもこの文章を書いている最中、TV番組「アド街ック天国」で私が育った街「鵜沼海岸」が紹介されていたり、主婦の住みたい市No.1に選ばれる等、その注目度は高まっているように感じます。さらに、江の島は東京オリンピックのセーリング競技会場にも選ばれています。私はそんな海に面した街で育ち、仕事をしています。さて、建築指導課は建築業界で働いている方なら一度は何かしらの調査や申請で訪れたことがあるかと思いますが。どのような仕事をしているかは皆様ご存じかと思いつつ、今まで担当してきた業務について私なりにご紹介したいと思います。建築指導課は建築基準法に基づいた業務が主業務です。1年目は、許認可、違反、道路、定期報告等を行う担当でした。担当領域が幅広く、飛び交っている言葉が何だかわからないまま、周りの先輩のご指導を受けつつ窓口対応・電話対応を通じて、多岐にわたる業務を覚えることができました。2~4年目は建築基準法上の道路に関する内容を担当していました。道路の調査、指定・廃止、43条ただし書許可等が中心でした。さらに通常業務とは別に、「市全体の道路調査を行う」という大きなプロジェクトに担当として関わりました。これまで窓口で紙の地図でしか確認できなかった道路種別を、窓口端末や市HPで確認できるようにして利便性を向上させることを目的に、まず市全体の道路調査を行ったのです。私は1年目の終わり頃に道路調査の準備の手伝い

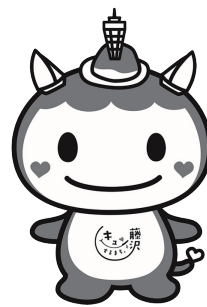
サインコンペを経て、私も主担当になり、いよいよ発注だ!と思った矢先、突然オーナーから、PJ中止と言われました。屋上活用の前例がないことから、オーナーはリスクヘッジで行き詰まっております。仕事間際に屋上で憩う豊かな時間の提供や、会社の屋上で懇親会を催せるビルの付加価値に共感できなかったことがPJ推進の支障になっていました。前任の想いやサービス向上を期待するテナントの為に、このPJは妄想では終わらせられないと、熱が入りました。オーナー側の担当者を味方につけ、他社屋上事例を調査し、ショールームに通い詰める等、ダメ項目を1つずつ地道に潰しました。屋上貸切、アルコールNGといった運営上のダメ事項を沢山言いつけられたままでしたが、2016年10月より屋上憩いスペースの供用が始まりました。そして、9ヶ月経った今年の七夕に、屋上では、紅白幕を立て、お酒を嗜み、スイカ割りを楽しむ

も少ししていた程度だったのですが、いつのまにか中心になって、委託会社や担当に指示をするようになっていました。データの管理はすべて私が行っており、あまりのデータ量に嫌気がさす時もありましたが、調査がすべて終わった時は達成感がありました。また、最終的な目的である前述の利便性向上は今年度からスタートでき、相談者のメリット向上はもとより、窓口業務の効率化も大幅に向上することができました。ただし、今年度から担当が変わったことにより、頑張り成果を実感として味わうことはできず、ちょっと残念に思っています。今年度から担当替えがあり、確認申請の審査等を主に担当しています。確認申請の審査といっても、近年は9割以上の申請が民間の確認審査機関に出されているので、確認申請に関する相談の方が多い状況です。そんな中、質問される内容の大半は建築基準法だけでは読み取れないものです。行政によって判断が違いますし、法の主旨をわかった上で判断をしていかないといけません。とにかく色々な文献を見て、経験ある先輩や主事に相談して、やっと答えが出るような感じです。まだまだ勉強中ですが、法文を読んだり、参考文献を読むのは苦ではないので、もっと法律を読み解けるようになりたいと思っています。このように皆さんが来る窓口の内側ではこんな業務をしています。その他にも公務員ならではの仕事として、災害対応や選挙時の投票所要員があります。大雨の夜に避難所を開設したり、選挙の日は大抵蒸し暑いか凍えそうに寒い気候で一日中投票者を待ったりなども仕事の一つです。藤沢市に限らず、皆さんが住んでいる街でも同じように法律にあった安全な建物のために働いている人がいることを頭の片隅にでも覚えておいていただけたらと思います。(藤沢市役所)



虎ノ門ビル屋上活用プロジェクト

テナントの姿がありました。日頃屋上に気になって頂いているテナントが社内納会を催していたのです。また、360坪程あった空室区画も、屋上の評価が高く、従前より短いダウンタイムで成約できました。運営上の課題は数多くあるものの、ようやくオーナーにも、屋上活用の価値に共感してもらえました。都心では最先端スペックビルが2020年までに多く竣工します。また、多くの企業で働き方改革が唄われ、弊社でもNEWWORK事業を展開する等、多様化する働き方のサポートツール、制度を増やしています。画一的なオフィス環境も、働き方に併せて進化必須の今だからこそ、築古物件の担当者としては、経年劣化の延命施策を提案するだけでなく、テナント愛着度向上戦略等、経年優化的PM力を切磋琢磨していきたいと思っています。(東京急行電鉄)



ふじキュン(藤沢市公式マスコットキャラクター)

# 中村 苑子

(H23 卒)

■file-83 窓口の区側しごと



**NAKAMURA Sonoko**  
2011年 東京都市大学建築学科卒業(勝又研究室)  
2013年 東京都市大学大学院修了(勝又研究室)  
2013年 藤沢市役所 入庁



## 女流ファイル Part17

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。



ANELLI nagaoka



ワンランク上の屋外照明「ZERO」シリーズ

# 小口尚子

(H17 卒)



OGUCHI Naoko

2003 年 武蔵工業大学建築学科卒業 (小林研究室)  
2005 年 武蔵工業大学大学院修了 (小林研究室)  
2005 年 大光電機株式会社入社

■file-84 光と影をこけること

私は在学中小林研究室で、落書きの研究や、光環境と音環境が人へ及ぼす影響などの研究をしていました。その流れで照明の世界に興味を持ち、照明メーカーに入社しました。入社以来、TACTという部署で空間の照明計画をしています。(TACTとは、建築家やインテリアデザイナー、施主の方々が意図する空間に最適なライティングプランを構築し提案する部署で、企画立案からライティングまでトータルにサポートしています。全国で110名ほど在席しており、専業メーカーでも珍しい部署です。)

入社当初は、内装施工のお客様を中心に物販店や飲食店を多く手掛けていました。全国にチェーン展開している物販店を年間200店舗手がけた時は、どこに出張しているのかわからなくなる位、竣工スピードについていく事に精一杯なこともありましたが、短いスパンで現場がたくさんできあがっていくので、その中でお客様と実験的な試みを行ったり、より良い光環境を提案してブラッシュアップしていくのはとても貴重な経験となりました。今は結婚式場や施設を中心に幅広く照明計画させていただいており、物件以外では照明についてのセミナーを行ったり、広報の仕事等を行っています。

■file-85 心地いい暮らしをつくるためのヒントを探る

# 辻 洋美

(H14 卒)

TSUJI Hiromi

2002 年 武蔵工業大学建築学科卒業 (小林研究室)  
2002 年 トステム入社 商品本部 デザインセンター配属  
2011 年 LIXIL 営業カンパニーハウジング企画部を経て  
2015 年 - マーケティング本部 スペースプランニング部

もともと住まいに興味を持っていたことから、住宅設備や建材の開発に携わりたいと考え、入社を決めました。入社後はデザイン部門に配属され、玄関ドアやインテリア建材、キッチン、洗面など様々な商品のデザインに携わりました。デザイン部門の業務は多岐にわたり、住宅デザインのトレンド調査に始まり、同ジャンルのプロダクトについての調査分析、デザインコンセプト立案、デザイン提案、商品色やテクスチャーの企画などを行ないました。2011年からは営業支援の部門に移り、家一棟目線で暮らしや住まいを提案する仕事になりました。主な業務としてはエンドユーザーの調査や定量調査、調査から導き出した仮説をもとに心地いい暮らしにするための商品や住まい方の提

案、展示会での空間計画～商品コーディネーターなどを行っています。エンドユーザー調査では毎回注目するテーマを決めて、住まいの訪問調査を行います。テーマは"小学生の子どもがいる住まい"や"忙しい共働き夫婦の住まい"、"建築家が設計したこだわりの住まい"など様々で、新しい暮らしや住まいのあり方を見つけ出せそうなテーマを選んでいきます。実際に住まいを訪問させていただいて、毎日の暮らしや住まいに関する困りごと、家づくりのこだわりなどをヒアリングしていますが、想定外の暮らしが見えたり、多くの気付きを得ることがあります。毎日の家事や収納の使い方、家族とのコミュニケーションの取り方なども様々で、それぞれの生活スタイルの中で工夫をされていま

照明計画を進めていく上でひとつの指標として、光の明るさを数値で表す単位として照度がありますが、「明るい」「暗い」と感じる感覚は本当に人それぞれなので照度の数値があてになることは実は多くはありません。いかにきれいな光と影をつくるのか、お客様とできる限りコミュニケーションをとってお互いの感覚を共有・共感し、形にするのがこの仕事の最大の魅力だと感じています。現場が出来上がってお客様のご意見を聞く瞬間が一番緊張しますが、一番勉強になる瞬間でもあります。最近では同じ学科出身の同級生がクライアントになる機会も増えてきて、自分が照明業界に進んだことで色々な形で繋がりを持てるのが更に面白いです。

これからは、インハウスのデザイナーとして自社の強みを生かすだけでなく、照明デザイナーの方や他メーカーの方とも手を取り合っていて光環境を創ることが特に求められていると感じています。建築業界の方のみならず一般の方でも、家のような身近な光から街の光まで、もっと興味を持ってもらえるように啓蒙していくと同時に、自分自身のデザインのカも磨いていき、建築をより良く魅せるお手伝いができればと思っています。

(大光電機)



(LIXIL)



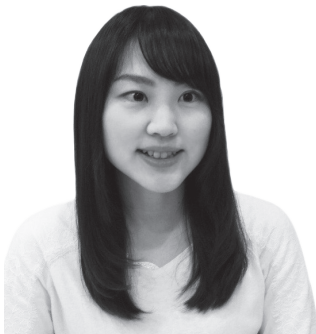
WLB支援のガイドブック発行およびサービスを導入

就職氷河期、私が就職活動をしていた2000年当時は男女問わず就職が大変厳しい時期でした。今では大問題となりますが、女性というだけで資料が送られなかったり、採用選考に進めなかったりばかり通っていた時代です。私も3年生の秋頃からスタートした就職活動では建築に関する仕事では内定出来ず、このまま就職できないのではと不安でいっぱいでした。5月以降方向転換をし、理系というだけで大歓迎されたIT系企業から内定を得ることができましたが、建築を学んだ4年間をどう生かせるのだろうかと思っていたことも事実です。9月頃に偶然、就職サイトを経由して前田建設からIT系の新卒社員追加募集の案内がありすぐに飛びつきました。説明会申込時に電話で「女性ですが応募できますか」と聞いたところ「問題ありませんよ」と言われたことに安堵した記憶があります。そんな経緯で私は前田建設に入社しました。

# 成田朝映

(H23 卒)

■file-87 社会の、当たり前、を支える仕事



NARITA Asae (旧姓：加藤)  
2011 年 武蔵工業大学建築学科卒業 (勝又研究室)  
2011 年 NTT ファシリティーズ 入社 都市建築設計部 配属  
2013 年 長野支店 配属  
2014 年 北関東・信越支店 (埼玉) 配属  
2016 年 南関東支店 (神奈川) 配属

電話やメールがいつでもできるのは当たり前、街中でネットが繋がらないなんてあり得ない。学生時代はそう思っていました。その当り前の生活を、建築の面から支えることが現在の私の仕事です。今所属している部署では神奈川県内に存在する約200棟のNTTの建物について、中長期整備計画の策定から工事の設計・監理までを担当しています。NTTの建物には人々に電話や通信サービスを提供する装置が収容されています。大災害の発生時にも通信装置に影響を及ぼさないよう、一般的な建物を守るべき法適合だけでなく、独自に定められた高い性能水準を満たすことが要求されます。この建物のライフサイクルを管理して要求性能を保つよう改修していくことで、社会の通信インフラを支える役割を担っています。入社直後に実感したのはとにかく知らないことが多すぎるということ。

企画・設計・工事それぞれのスキームの多数の案件を遅延なく進めるには解決すべき課題に対して

■file-86 建設業界全体で働き方改革と生産性向上を共に実現したい

# 伊藤彩子

(H13 卒)

ITO Ayako

2001 年 武蔵工業大学建築学科卒業 (安藤研究室)  
2001 年 前田建設工業株式会社 情報システムサービスカンパニー  
2005 年 人事部



2001年の入社から4年弱は情報システム部門で、システム開発や導入、運用を担当していました。転機は2004年冬、当時の人事部長から直接「人事部に異動してほしい」と打診があり2005年1月から今に至るまで人事部に所属しています。人事部では、採用・教育・制度運用など様々な業務を経験してきました。建築学科出身ということもあり、自分の経験をいかして理工学系の方と接することができたと思っています。現在も東京都市大学のリクルーターをしており、毎年学校で開催される就職説明会に参加しています。(日々学校がきれいになっていく過程を10年以上見ることが出来ました)

2013年に出産し育児をしながら勤務をしています。まだまだ男性大多数(約9割が男性)の会社ですが、自分の出産や育児をきっかけとして、もっと働きやすい会社に変えたいという思いから、性

別や年齢、国籍や嗜好、個性に至るまで多様な人材が活躍できるようにとダイバーシティ推進チームを立ち上げ、制度の立案や導入および実行、建設現場のトイレや更衣室などの環境整備、セミナーや理解促進のためのパンフレット制作など様々な施策を実行しています。女性が出産育児を経ても働き続けるためには男性の家事育児参画が不可欠です。建設業というどうしても過重労働と思われるがちですが、これからはそのイメージを払拭していかなければなりません。

ワークライフバランスの本質は、仕事と生活のどちらかに偏るのではなく、社会的活動を含めたライフとワークの充実が生み出す相乗効果にあるものだと思います。これからも建設業界全体で働き方改革と生産性向上を共に実現できるよう施策を推進していきます。

(前田建設工業)

迅速に対処していく必要があり、広い知識が求められます。自分にできることを増やす為に、まずは見ること、知ることが必要だと考えました。先輩社員の現場に同行させてもらったり、一級建築士、一級建築施工管理技士、建築積算士、その他業務に関わる資格を取得したりして知識の幅を広げるよう心掛けてきました。基礎知識が身につけてくると次第に、改修工事の難点である「既存部分による制約をどのようにクリアしていくか」ということが、仕事の面白さに繋がっていきました。設備の更改をしたいが設置スペースがない、RC壁面に開口を設けたいが躯体の構造耐力が足りない、繊細な重要機器が並ぶ室内を改修したい…など様々な課題に対して、設備担当や構造担当と共に解決策を探っていきます。設計段階の課題解決の為はもちろん、施工段階においてもできる限り現場に足を運び、図面上だけでなく現物をみて納まりを確認するようにしてい

ます。案件の多くは工期が1年未満と短期間ですが、こうして企画から実施設計、工事監理を通して竣工までを担当できるので、それぞれの案件に思い入れがあり完成時の喜びもひとしおです。入社して7年経つ今でも自分の能力不足を痛感して悩むことが多々ありますが、学生時代に漠然と考えていた「建築を通じた社会貢献」が仕事として明確なものとなり、やりがいを感じています。通信インフラを利用した遠隔での様々なサービスが発展し、人々が場所に縛られない生活へと社会の在り方は変化しています。通信インフラの重要度が高まるとともに、その安定供給を支える建物の在り方も変化し、求められる性能や改修の手法も、新しい技術と共に進化を続けることでしょう。今後更に経験を重ね、時代の需要に対応できるスキルを身に付けて、ひとの生活を支え続けていきたいです。

(NTTファシリティーズ)



# 女流ファイル Part18

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。

## 澤口花奈

(H26 卒)

■ file-88 OJT から踏み出した一歩



SAWAGUCHI Kana

2014年 東京都市大学建築学科 卒業  
(手塚研究室)

2016年 東京都市大学大学院建築学専攻 修了  
(手塚研究室)

2016年 日建設計 設計部門 入社

大学卒業後、最初に就職したのは主に住宅設計を行っている設計事務所で、勤めたきっかけは大学3年の夏休みにインターンシップでお世話になったことでした。元々住宅設計に興味があったのですが、インターンシップ中に建築中の現場を間近で見て、より強く惹かれたことから就職を決めました。始めはわからないことばかりで施主の方や現場に関わる方たちとの日々のやりとりで苦労しましたが、設計に携わった物件が完成した時は、これまでに味わったことのない達成感を味わうことができました。物件が出来上がるまでの過程を現場で見て学べたことは、私にとって貴重な経験になりました。

その後、「住まいづくり」から、もっと広く「まちづくり」という視点で人の暮らしに携わりたいと考え、自分の生まれ育った横浜市に入庁しました。最初に配属されたのは市営住宅の整備を行う部署で、既存の市営住宅の耐震改修や住戸改善の事業を担当していました。市役所に入庁しても「住まい」に携わることになるとは思ってもみませんでしたが、少しでも前職で住宅設計を経験したこと



すくよか浴室増築\_2016年竣工

日建設計に入社して約二年半になります。入社してから5つのプロジェクトに携わりました。福祉施設の浴室の増築・改修、保育園の設計、劇場の設計、オフィスビルの申請業務などです。規模や用途だけでなくフェーズも一貫しておらず、実施設計から携わったり、申請業務のみを受け持ったりもしています。「新しいことに取り組み→苦戦して→習得する」をひたすら積み重ね、1つずつできるようになっている最中です。

入社してすぐ、福祉施設の浴室の増築・脱衣諸室の改修を担当しました。既存の福祉施設を見学し、そこで生活を送る方々の環境を知ることから、始めさせて頂きました。規模はとても小さなプロジェクトでしたが、社会に出たばかりの当時は、大役に感じられました。小さくても、ちょっとしたことで日々の生活を楽しくしたり、何か良い変化を生み出すことはできないかを模索して設計に取り組みました。初めての仕事で苦悩も多々ありましたが、竣工後はクライアントに喜んで貰うことができました。その後担当した、保育園の図書スペースの設計でも、保育長の先生から「保育園でここが一番好きな場所！」というお言葉を頂き、とても幸せな体験をしました。入社してから竣工したのは、まだこの二つのプロジェクトのみですが、手塚研究室での訓練によって自然と身について

が、自分の強みになっていると感じました。次に異動したのは、横浜都心部のまちづくりを行っている部署です。横浜都心部には、横浜の代表的な観光地や歴史ある住宅地など、個性豊かな地区が集積しており、その地区の特色を生かしたまちづくりを地域の方々や協働して行っています。窓口業務では、既に策定したまちづくりの制度やルールを運用を行っており、実際に建てる建物について設計者の方と景観協議などを行っています。また、現在、既存の景観制度を新たな制度に移行していくための検討や手続きなどの業務も併せて行っています。制約をどこまでかけるかなど制度設計は難しくもありますが、やりがいもあります。「まちづくり」と一言で言っても、地区によって取り組んでいることは様々です。役所では、様々な業務を経験し、建築のゼネラリストになることでまちづくりの役に立てることが増えていくのではないかと思います。まだまだ勉強することが多いですが、これからも仕事を通じて成長し、役に立てる仕事をしていきたいと思っています。

(羽生晃子)



恵田院保育園\_図書スペース 2017年竣工



ていた、使い手に寄り添った設計思考が実務で活かされたように思っています。それは、新人としての数少ない強みであり、拠り所となっていると思います。

また、組織設計では、それぞれの分野に特化したエキスパートが多く在籍しており、構造、設備、ランドスケープ、都市開発、デジタルデザイン、監理、その他にも多様な部署があります。初めて直面する仕事には、今も尚、日々苦戦していますが、社内の身近なところに様々なエキスパートがいるので、分からないことはすぐに質問や相談をして解決に導ける、恵まれた環境にあります。組織設計事務所といえども、特段用意された大掛かりな研修プログラムはありません。設計部では、OJT(on the job training) で仕事を実践しながら習得するスタイルが主流で、私のような新人や若手はプロジェクトチームに見守られながら、怒られながら、研修を受けずともすくすくと育たざるをえない環境にあります。はじめての現場定例に、上司は不在で、わけもわからず新人一人で送り込まれたことも、今となっては大切な思い出です。私はまだまだ経験が浅いので、これからも沢山のことを習得し、沢山の可能性を創り出し、これから待っている未来に期待して、ひたすら前進したいと思っています。(日建設計)

■ file-89 「住まいづくり」から「まちづくり」の仕事へ

## 羽生晃子 (H19 卒)



HANYU Akiko

2007年 武蔵工業大学工学部建築学科 卒業  
2007年 長谷川順持建築デザインオフィス 入社  
2010年 横浜市役所 入庁  
建築局住宅部住宅整備課  
2014年一都市整備局都心再生部都心再生課



# 女流ファイル Part19

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。

## 宗像智加枝

(S56 卒)

■file-90 夢のカタチ、偶然が必然が巡って  
きた仕事とは。



MUNAKATA Chikae  
1981 武蔵工業大学建築学科卒業  
(広瀬研究室)  
1981 山中工務店  
1983 八光建設  
2018 ラボット・プランナー



国重要文化財「旧福島県尋常中学校本館」修復



H 邸



県重要文化財「開成館」修復



国登録有形文化財「柏原家住宅土蔵」改修  
(現在カフェとして営業中)

木造といえば広瀬謙二と父が言うので、躊躇  
することもなく進んだ道でした。

研究室で行ったゼミ旅行、初めて本格的に古建  
築に触れて、こういうものもおもしろいと思った  
ものでした。しかし、父の反対にあって断念、卒  
業後は、住宅や店舗などをメインに設計施工で請  
け負う家業に従事することになりました。

もともと住宅は好きだったので、それはそれで  
面白く、いつかこんな仕事してみたいと思った、  
学生時代に近所だったその住宅は、吉田五十八  
先生の設計になるものだったとは随分後になって  
知りました。

結婚後は、夫の親が経営する建設会社に移り、  
子育てをしながら、夜中に図面を書いては、リ  
フォームなどの小さな工事に携わり、日々を送っ  
ておりましたが、ある時民家を守る NPO 団体を  
立ち上げるお誘いを受けました。

早速参加しましたが、それは現在の特定非営利  
活動法人(認定 NPO) 日本民家再生協会です。

その活動が認められ、次には郡山市文化財保護  
審議委員をお引き受けすることになり、10 年勤め  
ました。建築だけでなく他の分野の専門家の方々  
との審議の中で、私が何も困ることなく勤め上げ  
ることができたのは、広瀬先生のご指導のおかげ  
と大いに感謝したのはこの時でした。

そして、2011 年 3 月に東日本大震災が起こり  
ました。郡山市は震度 6 弱でした。その時私は、  
会社のショールームにいました。お客様が誰もい  
らっしゃらなかったのが幸いで、直ちに被害状況

を画像で記録し、被害を確認したら、女性スタッ  
フは帰宅、しばらくは自宅待機となりました。街  
は大きな被害を受け、なお断続的に揺れ続けました。

私の方は、翌日には、国の重要文化財である「旧  
福島県尋常中学校本館」から連絡があり、早速現  
場に向かいました。文化財ですから、修復に向け  
ての手続きや、注意点など、管理スタッフの方と  
確認したり、教育委員会に向いて説明したり、  
応急処置等すべきことはたくさんありました。会  
社の方には、それぞれのお客様の住宅、店舗、工  
場など、電話不通ながらもいっぺんに連絡がきま  
しました。さらに、県の重要文化財「開成館」の修復  
工事も、声をかけていただきました。

私が担当させていただいたいくつかの古民家  
のお客様のところは、ほとんど被害はなく、皆さん  
もご無事でホッとしました。

やがて、神戸の震災後に始まったヘリテージマ  
ネージャー育成講座が福島県でも始まりまし  
た。私も、講師を務めながら、一期生としても受講  
しました。

気がつけば、若い頃に漠然と憧れた古建築に近  
いところに関わって仕事をしておりました。嬉し  
くもあり、またありがたくもありと感じています。

昨年から新しい事務所に移りました。仕事内容  
は今までとあまり変わらないのですが、ライフス  
タイルを重視するという視点から、企画設計施工  
と一環で色々なご提案をさせていただく方向に向  
かおうと思っています。

(ラボット・プランナー)

## 三宅博子

(S62 卒)

■file-91 デザインは国境をこえて



MIYAKE Hiroko (旧姓：富永)  
1987 年 武蔵工業大学建築学科卒業  
(大須賀研究室)  
1990 年 東京芸術大学建築学部大学院修了  
(藤木研究室)  
1990 年 丹下健三都市建築研究所入社  
1994 年 渡米 ロスアンジェルス事務所勤務  
1998 年 SMITHGROUP サンフランシスコ支社  
サイエンス&テクノロジーズスタジオ所属  
プリンシパルデザイナー



SUPERIOR COURT OF CALIFORNIA



Solano Biotechnology+Science Bldg

小 学生の頃、岐阜の白川郷民家の機能的なデ  
ザインと村全体としての美しさに感動して  
建築を志し、大学院卒業後は、丹下健三都市建築  
研究所のアーバンデザインチームに所属。イタリ  
ア、フランスの都市計画、日本の美術館やホテル  
など様々なデザインをする機会を得て、約 5 年程  
丹下先生の下で、建築家としてのデザイン哲学を  
学び、「デザインに上下関係はなく、若いデザイ  
ナーのアイデアに熱心に耳を傾け常に新しい何か  
を追及しつつも、突飛なものではなく、オーソド  
ックスで勝負しなさい」という言葉など、その後の  
私の設計活動の礎を得ました。

同期生の主人の転勤で渡米し、現在大手設計事務  
所 Smith Group のサンフランシスコ支社の研究施  
設スタジオのデザインリーダーとして 20 年目と  
なります。

日本にいる時は自分の文化のアイデンティティ  
など、考えることもなかったですが、人種のもつ  
ぼのアメリカにいて、それぞれの文化習慣を大  
事に守り尊重し共生していく土壌があり、自分の  
デザインのルーツやなぜこんな風に考えるんだろ  
うというシンプルな疑問を自分に問いかける機会  
が多くなり、日本の文化、美意識など、日本人と  
しての誇りを意識するようになりました。

日米の仕事環境は共にデザインに特化し、デザイ  
ンは言葉を超えていくもので幸いでした。またラ

イフバランスを大事にするので、家庭と仕事の両  
立環境が整っていて、アメリカでは重要ポストに  
多くの女性がついています。

私の設計作品は多岐にわたり、カリフォルニア州  
の裁判所、アラスカ大学のバイオサイエンス施設、  
ゲノム研究最高峰の国立研究所、大学のSTEM教  
育施設、退役軍人の為のトラウマリハビリセン  
ターのフラッグシップ、四百床の退役軍人用の特  
養介護施設など、全米と州レベルのアメリカ建築  
協会のデザイン賞を幾つも戴き、最近では、サス  
テナブルだけでなく、ウェルネスを評価した建築  
を賞する傾向があり、私の作品もそのケーススタ  
ディーとして発表されています。デザインで大事  
なビジョンとコンセプトの設定に一番苦労するこ  
ろですが、そのアイデアをいかに統一された形  
でデザインしきれれるかが、作品としての質の違  
いだと思います。

エクステリア、インテリア、ファニチャーまた  
ランドスケープに至るまで、ストーリーのあるデ  
ザインを目指し、オーケストラの指揮者のように  
多くの専門家を束ねて、デザインをまとめていま  
す。これからもデザイン力を磨いて、いつかまた  
日本でも仕事ができるのを楽しみにそれまで米国  
で頑張っていきたいと思います。

(SMITH GROUP)

■file-92 ファシリティマネジメントの仕事  
～快適な環境を提供するために～

## 澤口香織

(H20 卒)

SAWAGUCHI Kaori (旧姓：坂本)  
2008 年 武蔵工業大学建築学科卒業(勝又研究室)  
2008 年 東京海上日動ファシリティーズ 入社  
首都圏営業第 2 部(東京) 配属  
2011 年 静岡支店 配属  
2013 年 センター営業部(東京) 配属



専門部門と連携しながら修繕工事の設計監理、オ  
フィス移転、物件売却なども経験しました。右も  
左も分からない状態から目の前の課題を一つつ  
クリアしていくうちにあっという間に 3 年が過ぎ、  
2011 年に静岡支店へ転勤となりました。これま  
で経験した業務に加え、今まで専門部門に協力を  
仰いでいた修繕工事やオフィス移転なども主体業  
務となりました。オフィス移転の仕事はプランニ  
ング、予算策定、工事・移転計画、現場管理、原  
状回復工事などのメイン業務からオフィス清掃や  
消防計画の届出代行などのビル管理業務まで一括  
して対応します。オフィス移転は組織変更や賃料  
を抑えたいなど会社の方針で決まりますが、実際  
に移転する従業員の方は納得されていないように  
見受けられ、板挟みになる局面があり苦労しまし  
た。しかしながら、全体を把握し各方面と調整し

ハンドリングしていく部分にやりがいを感じまし  
た。私生活面では静岡で初めての一人暮らしとな  
りましたが、職場の方が何かと気にかけてくださ  
り、公私共に充実した時間を過ごす事ができまし  
た。その後東京に戻り、大規模ビルの管理事務所  
に常駐し、常駐ビルの F M 業務や館内運用に携わ  
ることになりました。

2016 年に出産し、育休取得後に復帰し、現在は第  
二子の育休中です。学生時代には子育てしながら  
働くことなど想像もしていませんでしたが、幸い  
会社グループ全体では子育てしながら働く女性が  
多く励みになっています。

この 4 月から再び職場に復帰しますが、子育てし  
ながらも会社に貢献できるように頑張りたいと思  
います。

(東京海上日動ファシリティーズ)



# 女流ファイル Part20

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。

## 戸田千春

(H26 卒)

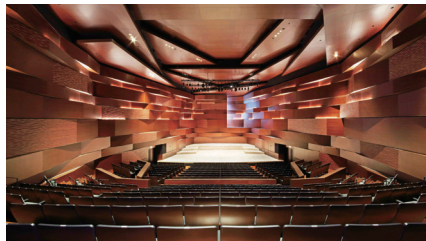
■file-93 恩師の教えを胸に抱いて



- TODA Chiharu  
2014 東京都大学建築学科卒業  
(勝又研究室)  
2016 東京都大学大学院 建築学専攻修了  
(勝又研究室)  
2016 戸田建設株式会社 入社  
工事課 所属(研修)  
2017 戸田建設株式会社  
開発計画部 配属



東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス (写真-1)



東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパスの音楽ホール (写真-2)



オーケストラと合唱の演奏会 (写真-3)

私の所属する開発計画部では、設計の初期段階から建物の企画提案をはじめ、コンサルティングを通じて事業化を推進する業務を行っています。入社、本配属後の1番のビッグプロジェクトは、東京都大学からも近い「東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス」の仕事でした(写真-1)。本配属されてから2カ月後には、計画段階での緑化のプランの大賞を決めるコンペがあり、一次審査のための提案書作成、そして最終審査におけるプレゼン作成、及びプレゼンテーション発表を、ゼロから全て上司に任せていただきました。分析能力やプレゼンテーションには、大学、研修室で学んだことが今の業務にも大いに役立っており、このコンペでも大賞を受賞することができました。頑張る社員には挑戦させてくれる、そして若手でもどんどん任せてくれる会社です。また、最近の戸田建設は、新しいことに挑戦していく雰囲気があります。東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス 開校(2019年4月)後の2019年5月には、開校を記念して、地域を巻き込んだエリアマネジメントイベントを開催し、その企画段階から運営まで携わりました。もちろん、会社として初めての試みです。イベントのフィナーレには、東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパスの音楽ホールにて、オーケストラと合唱の演奏会を行

いました。その演奏会にわたし自身も自ら合唱団の一員として参加し、自分が初めて携わった案件で、自らも舞台にあがるという柔軟な取り組みを、会社をあげて応援してくれました。(写真-2,3)最近では、こういった取り組みが認められ、会社の未来を決める重要なメンバーの一員として選ばれる等、本来の業務はもちろん、その他の業務でも頼っていただけており、社員として一歩ずつ前進していると感じています。業界イメージとして、お堅いと思われるゼネコン。わたし自身も就活の際は、ゼネコンには入らないと思って就職活動していました。しかし、現在所属する部署の仕事内容に惹かれ、就職活動を進め、内々定をいただいた際、他に内々定をいただいていた誰もが知る大手メーカーと最後の最後まで迷いました。しかし、勝又教授の「それは戸田建設でしょ!」との御言葉が決定打となり、戸田建設に入社しました。そして、5月のイベントのフィナーレの演奏会には、劇場の専門家である勝又教授に来ていただき、今までの感謝の気持ちを伝えられた気がしています。これからも様々な業務に関わりながら、一歩一歩前進していきたいと思っています。

(戸田建設)

## 吉井ちよ

(H16 卒)

■file-94 社会に「できる」も「できない」



- YOSHII Chiyo  
2004 武蔵工業大学工学部建築学科卒業  
(宿谷研究室)  
2007 株式会社丹青社  
2015 青山学院大学専門職大学院  
国際マネジメント研究科 MBA 修了

月日が経つのは早いもので、大学を卒業してから15年が経ちました。私は新卒で住宅設備機器メーカーに入社し、その後、総合内装ディスプレイ会社である(株)丹青社に転職し今年で13年目となります。入社以来、制作職として主に飲食店の新装・改装工事の施工管理に約2年間、営業職として、外食企業を中心にプロジェクトマネジメント(PM)業務に約8年間携わって参りました。現在は、店舗や施設等のメンテナンスを専門とする部門で課長職として、中長期的な事業戦略や業務改善・効率化の策定といった、発足して間もない部門の立ち上げに従事しています。また、子会社である(株)丹青ビジネスの非常勤取締役を兼任し、経営的な観点でのマネジメントを担っています。学生時代を振り返ると、私自身は特に優れた成績を修めていた訳でもなく、特に秀でた能力を発揮していた訳でもなく、学業の傍ら、サークル活動やアルバイトに励むといった、いわば一般的なキャンパスライフを過ごしたと記憶しています。就職活動においては、まさに氷河期真っ只中と思うように就職先が決まらなかった同級生も少なくありませんでした。私は幸いにも志望した企業に決まりましたが、ミスマッチにより数年での退社を経験しています。丹青社に入ってから、自らの経験・知識不足のため、現場の職方と十分に会話もできずに失敗したこともあります。そこで知

識習得のため入社1年目に2級建築士を取得しました。営業職への職種転換を機に、店舗改装のPM業務を担うことになり、設計者や施工会社、関連サプライヤー、関係諸官庁との調整やプロジェクトを引っ張っていく以上、更なる知識が必要だと感じ、一級建築士を取得しました。徐々に顧客の経営者や事業担当者とは話す機会も増え、空間づくりにおいて、素材、形状などのデザイン面やテクニカル面以上に、その投資によってリターンが得られるのかという経営者・事業者の視点がより重要だと気がきました。顧客と同じ目線に立ち、空間づくりを軸に課題解決が提案できるようになりたいと一念発起し、経営を学ぶため青山学院大学専門職大学院に入学し、社会人と学生の二足のわらじ生活を経てMBAを修了しました。現在は、同社メンテナンス部門に所属し、引渡・竣工後に起こる修繕履歴をデータベース化し、分析・活用していくことを検討しています。時代と共にトレンドやテクノロジー等、周囲の環境はめまぐるしく変化をしていきます。また自分自身も年を重ね、役割や立場が変化をしていきます。その変化に抗わず、変化を受け入れ、必要に応じた学びによって進化をしていくことが可能です。今後も継続的に「学び」を大切にしたいと考えています。

(丹青社)

■file-95 三現主義の仕事場にて

## 星 千紘 (H25 卒)

- HOSHI Chihiro  
2013 東京都大学工学部建築学科卒業(新居研究室)  
2015 東京都大学大学院工学研究科建築学専攻  
(住吉・堀場研究室)  
2015 清水建設株式会社 入社 関東支店埼玉営業所配属  
2017 東京支店建築第三部



大学院を修了し、清水建設に施工管理職として入社しました。今年で現場での仕事も5年目です。今は丸の内高層ビルの内装担当として来年の竣工に向けて仕事を管理しています。会社員の5年生がどのような立場なのかは職種や会社によって様々かもしれませんが、清水建設ではまだまだOJT(On-the-Job Training)の途中の年代と言えるでしょう。現場係員として未経験の工事内容に四苦八苦することもあります。しかし1年目や2年目の頃は現場をみる視野が広がってきたとも感じています。1時間現場を確認して帰った時に収集できる情報量が1、2年目よりも増えてきているからです。

生産現場では良く耳にする言葉に「三現主義」という考えがあります。「現場」「現物」「現実」の3つに重きを置くというものです。施工管理の仕事はまさに「現場」で「現物」をみて「現実」にどういった仕上がりになっているのかを確認してゆることが重要です。今はまだ現場所長や工事長が示してくれたマスター工程から個別の担当工事を中心に工程管理や品質管理をしている立場ですが、担当工事の進捗や細かい納まりを現場で直に管理できるので充実しています。自分が主体で施工計画を工事業者さんと打ち合わせした工事が計画通りに納まってゆくのはやはり嬉しいです。ただし、現場は日々変化してゆくので、すべてが当初の思

惑通りにはいきません。だからこそ前述した通り現場を回って情報を集めなければ工事が正しく進まないのです。現場の変化に対応しつつ、図面や工事の管理基準を確認しながら品質の管理に注力したり、工程表とにらめっこしながら1週間後や1か月後の工程のために明日自分が手配すべき仕事をリストアップしたりと仕事に励んでいます。Q「品質」C「コスト」D「工程」S「安全」E「環境」と管理項目は多岐に亘りますが、安全第一で私は明日も現場に立ちます。

(清水建設)



# 女流ファイル Part 21

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。

## 五領田知奈美

(H25 卒)

■file-96 学生をはじめ、建築に関心のある全ての人のために



GORIYODA Chinami  
2013 東京都市大学建築学科卒業  
(小見研究室)  
2013 住宅会社勤務(設計職)  
2014 不動産IT企業短期雇用  
2015 日本建築学会

私は日本建築学会に勤めています。  
“学会”と聞くと、大人ばかりが集い、堅苦しく、  
難しい話をするイメージがあるかもしれませんが。  
確かに、研究教育機関や総合建設業、設計事務所、  
官公庁等に所属される本学会員の方々によって、  
専門性の高い議論が交わされる面もありますが、  
私は教育分野の業務に携わっているため、学生に  
接する機会も多くあります。  
例えば、毎年10月に開催される「建築文化週間」  
では、学生を対象にした「学生ワークショップ」  
や「学生グランプリ」があります。  
「学生ワークショップ」は、建築学生が企画した  
催しを自ら運営するイベントで、全国の建築系研  
究室が本会に集い、それぞれの研究活動の発表や  
大学間を越えて意見交換をするワークショップ  
です。  
「学生グランプリ」は、学生を対象に茶席の設計・  
制作案を募集するコンペティションです。最優秀  
作品は、銀座三越にて1分の1の実寸で自ら施工  
し、お茶席に使用されるため、大学での学びをよ  
り深める実践的な経験を積むことができます。  
これら学生の学びの場を整え、運営を行うのが、  
日本建築学会事務局にて建築文化事業委員会を担  
当する私の仕事です。  
まずは、企画を検討する委員会の運営として、委

**建築文化事業委員会**

■ 2019 年度活動計画

- 日本建築学会賞(作品)受賞者記念講演会
- 学生サマーセミナー
- 建築文化週間 2019
  - ・ 建築夜楽校
  - ・ パラレル・セッションズ
  - ・ カルチベートトーク
  - ・ 学生ワークショップ
  - ・ 学生グランプリ
  - ・ トウキョウ建築まち歩き
  - ・ 建築文化考
- アーキニアリング・デザイン展 2019

■ 2019 年日本建築学会作品選奨を3名の東京都市大学の教員が受賞しました

日本建築学会の2019年各賞におきまして、建築学科の教員3名が作品選奨を受賞しました。  
一般社団法人日本建築学会「2019年各賞受賞者」 <https://www.aij.or.jp/2019/2019prize.html>

- ・ 堀場弘「東松島市立宮野森小学校」  
【作品介绍】 [https://www.aij.or.jp/jpn/design/2019/data/5\\_award\\_004.pdf](https://www.aij.or.jp/jpn/design/2019/data/5_award_004.pdf)  
【表彰】 [https://www.aij.or.jp/images/prize/2019/pdf/5\\_award\\_004.pdf](https://www.aij.or.jp/images/prize/2019/pdf/5_award_004.pdf)
- ・ 手塚貴晴「空の森クリニック」  
【作品介绍】 [https://www.aij.or.jp/jpn/design/2019/data/5\\_award\\_008.pdf](https://www.aij.or.jp/jpn/design/2019/data/5_award_008.pdf)  
【表彰】 [https://www.aij.or.jp/images/prize/2019/pdf/5\\_award\\_008.pdf](https://www.aij.or.jp/images/prize/2019/pdf/5_award_008.pdf)
- ・ 福島加津也「時間の倉庫 日本庄商業銀行煉瓦倉庫」  
【作品介绍】 [https://www.aij.or.jp/jpn/design/2019/data/5\\_award\\_011.pdf](https://www.aij.or.jp/jpn/design/2019/data/5_award_011.pdf)  
【表彰】 [https://www.aij.or.jp/images/prize/2019/pdf/5\\_award\\_011.pdf](https://www.aij.or.jp/images/prize/2019/pdf/5_award_011.pdf)

員の出欠確認から審議事項の検討や委員会資料の  
作成を担います。つぎに、委員会によって催し物  
の開催内容が決定次第、例えば「学生グランプリ」  
ならば、銀座関係者との連携のもと審査員の日程  
調整や審査依頼、応募要項の作成や広報活動、応  
募作品の管理や展示の設営、審査会の運営、報告  
資料の作成や収支管理等が主な業務になります。  
このほか建築文化週間は6企画あり、加えて日  
本建築学会の9支部との連携も必要で、9月に開  
催される日本建築学会大会の準備や能力開発支援  
等の業務と並行して行っています。  
かつて建築学生だった私にとって、学生の皆さん  
が自分の力を試し、楽しいや悔しいなど何かを得  
て成長する機会に立ち会える、それが仕事である  
ことは感慨深く、学会ならではと思いました。  
少子化の時代、どれくらいの子供たちが建築に興  
味をもってくれるのでしょうか。日本建築学会は、  
年齢を問わず、建築に関する「知識を深めたい」「意  
見交換や交流の場に参加したい」「コンペティシ  
ョン等を通じて自分の現在地を知りたい」という多  
岐にわたる思いに応える場所があります。そんな  
場をこれからも陰ながら支えたいと思います。  
(日本建築学会)



## 中島由圭里

(H19 卒)



■file-97 「街づくり」を通して  
自分も街も進化させていく

NAKAJIMA Yukari  
2007 東京都市大学建築学科卒業  
(近藤研究室)  
2007 平和不動産株式会社  
ビル企画部→ビル建設  
2009 賃貸事業本部 住宅賃貸グループ  
2014 投資と成長が生まれる街づくり協議会  
事務局  
⇒開発企画部 街づくり推進室  
⇒開発推進部(企画)

建築学科を目指したきっかけは、高校の通学路で  
使っていた駅が、再開発により綺麗に便利に生ま  
れ変わっていく過程を毎日目にしており、自分も  
こんな住環境が快適になる、大きな仕事に携わり  
たい!と思ったことでした。  
建築学科に入学後、専攻については、都市計画に  
興味があったものの、苦学意識のあった法律の勉  
強に近い空気を感じ、それよりも住環境を良くす  
るための研究に関わる方が当時の自分にとって興  
味があり、研究室の雰囲気もなじみそうだと感じ、  
近藤研究室に入りました。  
就活でも、設備系、開発系及び住宅系など様々な  
分野を幅広く見比べながら、ご縁のあった中堅デ  
ベロッパーである平和不動産に入社しました。  
入社面接時から開発に携わりたいと伝えていたと  
ころ、少数精鋭を謳っている当社では、入社1年  
目からオフィスビルの新築業務に携わることがで  
き、2年で3物件の新築案件、大規模改修工事につ  
いても数多く経験させてもらうことができました。  
今でもその経験は仕事をするうえでの基礎とな  
っています。また、環境評価指標のCASBEEなど  
を取り入れられ始めた時期だったので、近藤研  
究室で学んだことも、想像以上に助けとなりました。  
その後主担当として学生会館の新築と運営に携  
わり、この時期は多忙ながらもメインで仕事を  
進めていく責任と楽しさを感じる5年間を過ぎ  
ました。  
8年目からは現在の部署の前身ともいえる、街づ  
くり(いわゆるエリアマネジメント)の新設部署  
に配属され、ここから私にとって仕事に向き合

う転機となりました。  
当社で初めてとなる、エリア再開発を推し進める  
部署です。地権者をまとめ行政協議を行い、ビル  
を建設するという、いわゆる再開発業務とは異な  
る、再開発を含む広域エリアをブランディングし  
価値の向上を進める業務です。新設された部署で  
は、担当の私どころか社内でも誰一人経験者はおら  
ず、いわゆる新規事業の部署に配属されたのでし  
た。当社はもともとビルの賃貸管理がメインであ  
るため、新規事業に取り組むためには、考え方を  
180度変えなければなりません。何が正解  
で何が間違っているのか、前に進んでいるのかど  
うか、目標自体も定まっていない状態。それでも、  
一つ一つ、やれることをやっていくしかない、焦っ  
ても仕方ない、と腹をくくって取り組むようにな  
りました。「街づくり」を通して、今までにない  
ほど多くの方と関わり合い、支え、育ててもらい  
ました。今まで「もの」をつくることから、「人」  
を繋げる仕事の難しさ・大変さ・共感・喜び・感  
謝を肌で感じています。  
この仕事は完成というものはなく、常に変化させ  
ながらより良いものを追求し、常に世の中の変化  
や流れをキャッチアップしていくことが大切であ  
り、これこそが「仕事の醍醐味」と感じるようにな  
りました。この部署ではすでに6年目と古株で  
すが、視野も広がり、毎回新しい発見や出会いが  
あって、それが血肉となっています。「街づくり」  
という息の長い仕事を通して、自分もこの街も進  
化させていけるよう精進していきます。  
(平和不動産)

■file-98 建築積算からの転身、  
家庭と仕事の両立を目指して

## 三浦美希

(H22 卒)



MIURA Miki (旧姓：元山)  
2010 武威工業大学建築学科卒業(小見研究室)  
2010 株式会社TAK-QS入社 仕上積算グループ配属  
2017 有限会社ヒロ建築設計工房入社

大学を卒業後、竹中工務店のグループ会社で建築  
積算業務を専門に手がける株式会社TAK-QSに  
就職しました。仕上積算、躯体積算、鉄骨積算の  
グループに分かれており、私は仕上積算グルー  
プに配属されました。仕事内容としては図面や仕様  
書から数量書を作成して納品まで、1つの物件を複  
数人で1週間程度かけて積算していました。1つ  
の物件の期間が短い分、非常に多くの図面を見る  
機会があり、面白さを感じていました。  
働き始めて5年目になる頃、大学時代に卒業設計  
の手伝いをしたのがきっかけで知り合った先輩と  
結婚し、その翌年には子供も産まれました。育休  
を取り、復帰後1年ほど働きましたが、改めて自  
分を見つめ直し今後の働き方を考えてみると、こ  
れまでは仕上積算だけやってきたけど他の分野の

経験もしてみたい、また仕事の幅を広げてライフ  
ステージに応じた働き方をしたいと思うようにな  
りました。  
TAK-QSは社員の働きやすさを考えてくれる会社  
で、女性社員も多く、自身も働きやすさを感じて  
いたのですが、住まいを東京から神奈川に移すこ  
とにしたため通勤時間やこれからの子育てのことを  
考えて退社をすることにしました。  
このまま仕事を辞めて子育てに専念するか、いい  
ところがあれば神奈川県内の会社に転職したいと  
考え、退社した後から就職活動を始めました。求  
職中の状態が3ヶ月以上になると子どもの通って  
いた保育園を退園しなければならなかったのです  
が、運良くすぐに希望に合うところを見つけたこ  
とができ、ヒロ建築設計工房という個人設計事務

所にて勤務することになりました。  
ヒロ建築設計工房では確認申請に関わる事務作業  
や図面作図などを担当しています。積算の仕事を通  
して得た図面の見方や仕上げ構成の知識などが役  
立っています。図面を作図するだけではなく、行政  
や関係各所とのやりとり、また現場を見る機会も  
ありますので、これまでより建築により幅広く関  
わられていると感じます。また、勤務時間を短時  
間と通勤時間も短くなったため、子供との時間も  
増えました。  
現在は第二子を出産したため仕事はお休みを頂い  
ています。子育てに理解のある職場なので、保育  
園が決まればまた職場復帰して子育てと仕事を両  
立していけたらと思っています。  
(ヒロ建築設計工房)